

FD 活動報告書

2016年度

第一薬科大学

FD 委員会

Published by Daiichi University of Pharmacy
22-1 Tamagawa-cho, Minami-ku, Fukuoka 815-8511, Japan

目 次

学生授業評価アンケート報告	1
1.アンケート調査実施要領	3
2.アンケート集計結果	10
3.学生コメント総括	34
教員相互授業参観報告	37
平成 28 年度「教員相互授業参観」実施要領	39
平成 28 年度前半 教員相互授業参観感想	41
平成 28 年度後半 教員相互授業参観感想	53
教員による授業の自己評価報告	65
FD 活動報告	69
平成 28 年度 FD 講習会	71
第 1 回 FD 講習会報告	72
第 2 回 FD・学生委員会共催 講習会	97
第 3 回 FD・SD 講習会報告	111

学生授業評価アンケート報告

平成 28 年度

1. アンケート調査実施要領

【目的】 このアンケートは授業及び実習に関し学生の率直な意見を収集し、その結果を授業及び実習の質向上を図るために実施するものである。

【実施要領】

- (1) 調査対象者：1～6年次学生全員。
- (2) 調査対象授業：すべての授業科目及び実習について、学期毎に実施した。
- (3) 実施方法：
 - ①マークシート用紙を用いて行う。
 - ②無記名とする。
 - ③集計作業にはFD委員があたる。
 - ④授業及び実習に対する学生の意見・要望は自由記述とした。
- (4) 実施時期：講義または実習の後半とし、科目担当教員が行った。
- (5) アンケートの解析：解析ソフト「丸ごと授業評価 for Windows」を用いた。
- (6) アンケートの調査項目：講義については、教員評価に関する質問(9項目)、学生自己評価に関する質問(5項目)及び自由記載欄を設けた。実習に関しては、教員評価に関する質問(10項目)、学生自己評価に関する質問(5項目)及び自由記載欄を設けた。
- (7) アンケート解析結果の表記：学年ごとに前期、後期に分けて、全科目の平均評定値を、グラフと表にして示した。
- (8) 調査結果の取り扱い
 - ①各教員へ結果資料を配布する。
 - ②授業及び実習に対するコメントは、当該教員が確認し、FD委員が総括する。
 - ③各教員は調査結果を授業及び実習に反映させる。
 - ④学生へは、「平成28年度FD活動報告書」として図書館、国試情報センター及び第一薬科大学ホームページにて公開する。

(資料 1) 授業アンケート調査項目と実際に使用されたアンケート用紙

<教員評価>

- ①この授業では重要なポイントがきちんと示されましたか。
- ②この授業の難易度（レベル）は適切でしたか。
- ③この授業の進行状況（進み方）は適切でしたか。
- ④この授業は学生に興味がわくように工夫して進められましたか。
- ⑤この授業で学生に理解させるという先生の熱意を感じましたか。
- ⑥先生は学生の理解度を確認しながら授業を進められましたか。
- ⑦先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。
- ⑧黒板の文字やスライドの映像は適切で分かりやすかったですか。
- ⑨先生は私語、居眠り、携帯などを使う学生を注意されましたか。

<学生自己評価>

- ⑩あなたはこの授業に関心を持ち、真剣に取り組みましたか。
- ⑪あなたは予習をしてこの授業に臨みましたか。
- ⑫あなたはこの授業の復習をしましたか。
- ⑬あなたはこの授業全体を理解できましたか。
- ⑭あなたはこの授業全体に満足できましたか。

(資料2) 実習アンケート調査項目と実際に使用されたアンケート用紙

<教員評価>

- ①各実習項目は、分かりやすく実施されましたか。
- ②この実習の難易度（レベル）は適切でしたか。
- ③この実習の進行状況（進み方）は適切でしたか。
- ④各実習項目は興味あるもので、今後役に立つと思いましたか。
- ⑤この実習で学生に理解させるという先生達の熱意を感じましたか。
- ⑥この実習の実施方法は適切な工夫がなされていましたか。
- ⑦先生達の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。
- ⑧黒板の文字やスライドの映像は適切で分かりやすかったですか。
- ⑨先生達は私語、居眠り、携帯などを使う学生を注意されましたか。
- ⑩実習のための設備や器具は十分に備わっており準備されましたか。

<学生自己評価>

- ⑪あなたはこの実習に関心を持ち、真剣に取り組みましたか。
- ⑫あなたは予習をしてこの実習に臨みましたか。
- ⑬あなたはこの実習終了時に「まとめ」をしましたか。
- ⑭あなたはこの実習全体を理解できましたか。
- ⑮あなたはこの実習全体に満足できましたか。

(資料3) 実際に使用されたマークシート

回答用紙

1. 記入は、必ずHBの鉛筆で、○の中を正確に塗りつぶして下さい。
2. 書き損じた場合には、プラスチック製消しゴムできれいに消して下さい。
3. 用紙を、折り曲げたり汚さないで下さい。



	(A)	(B)	(C)	(D)	
	(E)	(F)	(G)	(H)	
問1	①	②	③	④	⑤
問2	①	②	③	④	⑤
問3	①	②	③	④	⑤
問4	①	②	③	④	⑤
問5	①	②	③	④	⑤
問6	①	②	③	④	⑤
問7	①	②	③	④	⑤
問8	①	②	③	④	⑤
問9	①	②	③	④	⑤
問10	①	②	③	④	⑤
問11	①	②	③	④	⑤
問12	①	②	③	④	⑤
問13	①	②	③	④	⑤
問14	①	②	③	④	⑤
問15	①	②	③	④	⑤
問16	①	②	③	④	⑤
問17	①	②	③	④	⑤
問18	①	②	③	④	⑤
問19	①	②	③	④	⑤
問20	①	②	③	④	⑤
問21	①	②	③	④	⑤
問22	①	②	③	④	⑤
問23	①	②	③	④	⑤
問24	①	②	③	④	⑤
問25	①	②	③	④	⑤
問26	①	②	③	④	⑤
問27	①	②	③	④	⑤
問28	①	②	③	④	⑤
問29	①	②	③	④	⑤
問30	①	②	③	④	⑤
問31	①	②	③	④	⑤
問32	①	②	③	④	⑤
問33	①	②	③	④	⑤
問34	①	②	③	④	⑤
問35	①	②	③	④	⑤
問36	①	②	③	④	⑤
問37	①	②	③	④	⑤
問38	①	②	③	④	⑤
問39	①	②	③	④	⑤
問40	①	②	③	④	⑤
問41	①	②	③	④	⑤
問42	①	②	③	④	⑤
問43	①	②	③	④	⑤
問44	①	②	③	④	⑤
問45	①	②	③	④	⑤
問46	①	②	③	④	⑤
問47	①	②	③	④	⑤
問48	①	②	③	④	⑤
問49	①	②	③	④	⑤
問50	①	②	③	④	⑤

(資料4) 授業・実習アンケート集計結果表 (例)

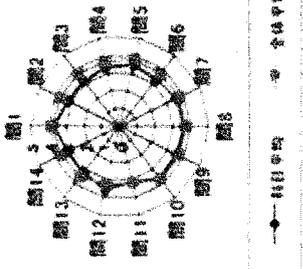
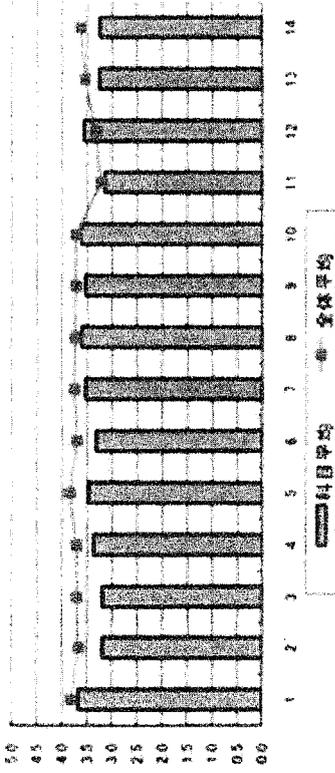
実施日
 実施者数
 対象者数

集計結果表(グラフ付き)

2015年度 I 年後期授業アンケート

科目名	教員氏名	回答率(%)					有効	無効	平均
		5	4	3	2	1			
		全くそう思う		普通		全くそう思わない			
1	この授業では重要なポイントがきちんと学べたか。	19.4	33.3	41.7	5.6	0.0	0	36	3.67
2	この授業の難易度(レベル)は適切でしたか。	11.1	22.2	41.7	25.0	0.0	0	36	3.19
3	この授業の進行状況(進み方)は適切でしたか。	8.3	30.6	33.3	27.8	0.0	0	36	3.19
4	この授業は学生に興味をわくように工夫して進められましたか。	8.6	34.3	42.9	14.3	0.0	1	35	3.37
5	この授業で学生に理解させるという先生の態度を感じましたか。	19.4	13.9	61.1	5.6	0.0	0	36	3.47
6	先生は学生の理解度を確認しながら授業を進められましたか。	11.1	27.8	44.4	13.9	2.8	0	36	3.31
7	先生の話し方は明確で聞き取りやすかったですか。	19.4	25.0	44.4	11.1	0.0	0	36	3.53
8	黒板の文字やスライドの映像は適切で分かりやすかったですか。	16.7	33.3	44.4	5.6	0.0	0	36	3.61
9	先生は結論、展開、展開などをよく学生を注意されましたか。	16.7	27.8	47.2	8.3	0.0	0	36	3.53
10	あなたはこの授業に関心をもち、真剣に取り組みましたか。	25.0	16.7	52.8	5.6	0.0	0	36	3.61
11	あなたは準備をしてこの授業に参加しましたか。	2.8	25.0	55.6	16.7	0.0	0	36	3.14
12	あなたはこの授業の課題をこなしましたか。	11.1	41.7	38.9	8.3	0.0	0	36	3.56
13	あなたはこの授業全体を理解できましたか。	8.3	22.2	55.6	13.9	0.0	0	36	3.25
14	あなたはこの授業全体に満足できましたか。	5.7	22.9	60.0	11.4	0.0	1	35	3.23

割合のグラフ



(資料5) 平成28年度アンケート調査マークシート回収状況

平成28年度前期			
学年	履修者数	回答者数	回答率
1年	2,432	1,999	82.2%
2年	2,075	1,777	85.6%
3年	3,449	2,859	82.9%
4年	2,205	1,541	69.9%
5年	109	87	79.8%
6年	893	489	54.8%
総計	11,163	8,752	78.4%

平成28年度後期			
学年	履修者数	回答者数	回答率
1年	2,426	1,771	73.0%
2年	2,062	1,620	78.6%
3年	2,586	1,643	63.5%
4年	875	696	79.5%
5年	108	61	56.5%
6年	—	—	—
総計	8,057	5,791	71.9%

2. アンケート集計結果

次ページから平成28年度 授業および実習評価結果のまとめを掲載する。

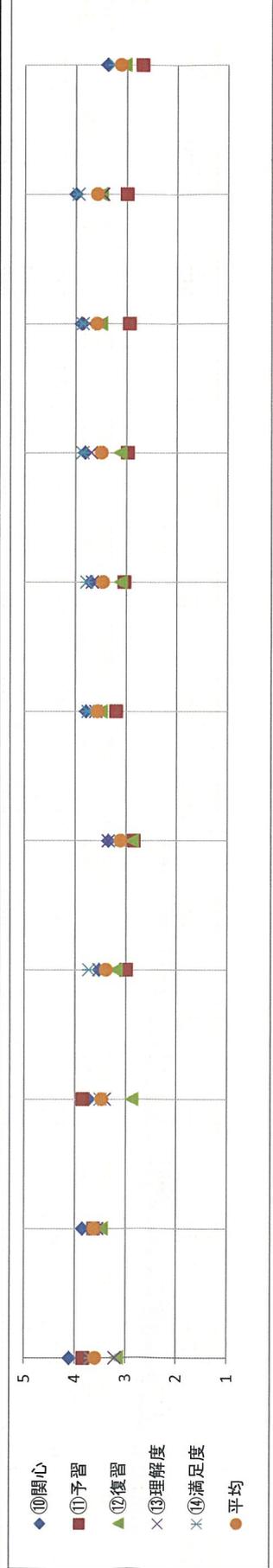
平成28年度 前期 1年生 授業評価(教員評価)①

科目名 教員名	薬学基礎英語				薬学基礎英語 I				英会話 I				基礎数学 I		医療概論
	エツブ		池間		エツブ		池間		エツブ		井上		岡野・大光		
クラス	漢1~4	薬1~4	薬9~12	漢5~8	薬5~8	薬13~16	1-A組	1-B組	A組	B組	全組		全組		3.31
①重要ポイント	4	3.93	3.93	3.43	3.15	3.55	3.74	3.95	4.09	4.43	3.44		3.44		3.31
②難易度	3.74	3.56	3.67	3.53	3.23	3.75	3.65	4.03	3.76	3.87	3.29		3.29		3.31
③進行状況	3.58	3.89	3.56	3.67	3.08	3.55	3.77	3.95	3.85	3.97	3.43		3.43		3.31
④工夫	4.05	3.74	3.74	3.6	3.15	3.65	3.81	4.1	3.8	4.08	3.24		3.24		3.31
⑤熱意	4.21	4	4	3.67	3.35	3.7	4.04	4.18	4.23	4.39	3.34		3.34		3.31
⑥進め方	3.58	3.78	3.63	3.8	3.31	3.95	3.72	3.88	3.76	3.87	3.13		3.13		3.31
⑦話し方	3.37	3.63	3.44	3.6	3.15	3.7	3.55	3.8	4.08	4.15	3.09		3.09		3.31
⑧黒板・スライド	4.05	4	3.85	3.8	3.23	3.85	3.98	4	4.01	4.13	3.4		3.4		3.31
⑨注意	4.37	3.63	3.33	3.4	3.12	3.45	3.43	3.78	3.06	4.05	3.42		3.42		3.31
平均	3.88	3.80	3.68	3.61	3.20	3.68	3.74	3.96	3.85	4.10	3.31		3.31		3.31



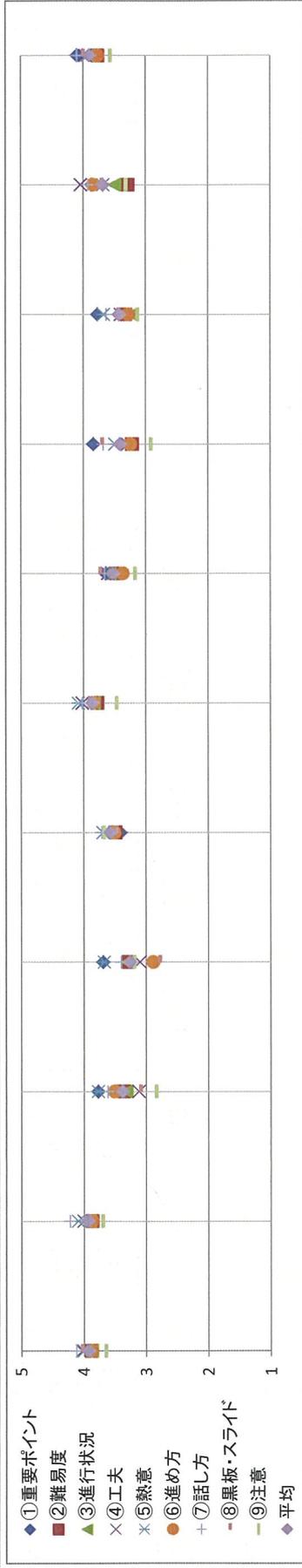
平成28年度 前期 1年生 授業評価(学生自己評価)①

科目名 教員名	薬学基礎英語				薬学基礎英語 I				英会話 I				基礎数学 I		医療概論
	エツブ		池間		エツブ		池間		エツブ		井上		岡野・大光		
クラス	漢1~4	薬1~4	薬9~12	漢5~8	薬5~8	薬13~16	1-A組	1-B組	A組	B組	全組		全組		3.12
⑩関心	4.11	3.85	3.73	3.53	3.35	3.79	3.7	3.82	3.89	4	3.38		3.38		3.12
⑪予習	3.84	3.63	3.85	3	2.85	3.2	3.04	2.98	2.95	3	2.69		2.69		3.12
⑫復習	3.17	3.48	2.88	3.2	2.88	3.5	3.11	3.13	3.51	3.5	3.04		3.04		3.12
⑬理解度	3.21	3.56	3.42	3.53	3.35	3.6	3.67	3.69	3.74	3.47	3.25		3.25		3.12
⑭満足度	3.68	3.62	3.5	3.73	3.12	3.75	3.78	3.86	3.86	3.95	3.24		3.24		3.12
平均	3.60	3.63	3.48	3.40	3.11	3.57	3.46	3.50	3.59	3.58	3.12		3.12		3.12



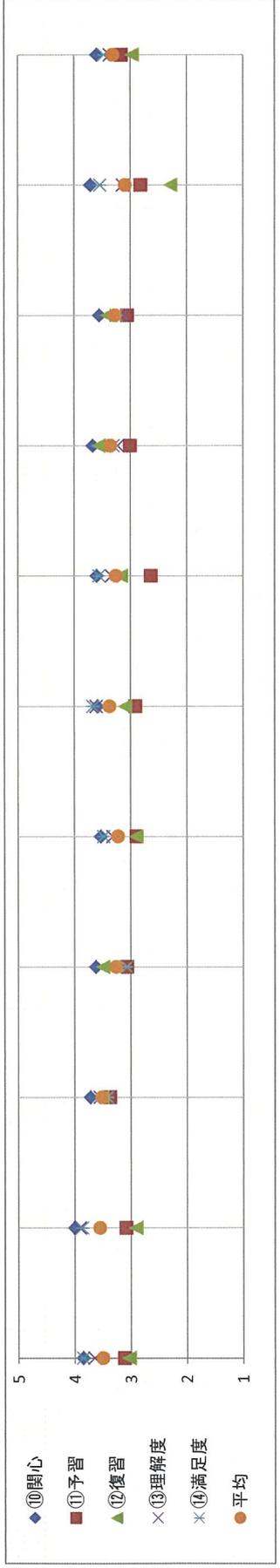
平成28年度 前期 1年生 授業評価(教員評価)②

科目名 教員名	文学I 吉川		基礎化学I 葉田		福祉学I 郡嶋		薬学への招待 荒牧		基礎物理学 黒木・田島・安川他		経済学I 市東	
	3限	4限	A組	B組	3限	4限	全組	A組	B組	3限	4限	
①重要ポイント	3.91	3.87	3.77	3.69	3.41	3.8	3.64	3.84	3.77	3.86	4.1	
②難易度	3.88	3.87	3.36	3.29	3.49	3.78	3.48	3.22	3.33	3.29	3.77	
③進行状況	3.88	3.91	3.32	3.3	3.63	3.84	3.58	3.35	3.22	3.5	3.93	
④工夫	4.03	4	3.12	3.1	3.58	4.02	3.61	3.29	3.4	4.04	3.97	
⑤熱意	4	4.09	3.77	3.67	3.69	4.08	3.51	3.49	3.67	3.68	3.93	
⑥進め方	3.88	3.87	3.51	2.89	3.51	3.84	3.37	3.25	3.28	3.85	3.77	
⑦話し方	4.12	4.22	3.62	3.4	3.71	4.02	3.66	3.68	3.63	3.93	4.1	
⑧黒板・スライド	4.03	3.91	3.09	2.78	3.47	3.9	3.73	3.7	3.44	3.71	4	
⑨注意	3.65	3.7	2.84	3.19	3.67	3.47	3.17	2.92	3.13	3.32	3.57	
平均	3.93	3.94	3.38	3.26	3.57	3.86	3.53	3.42	3.43	3.69	3.90	



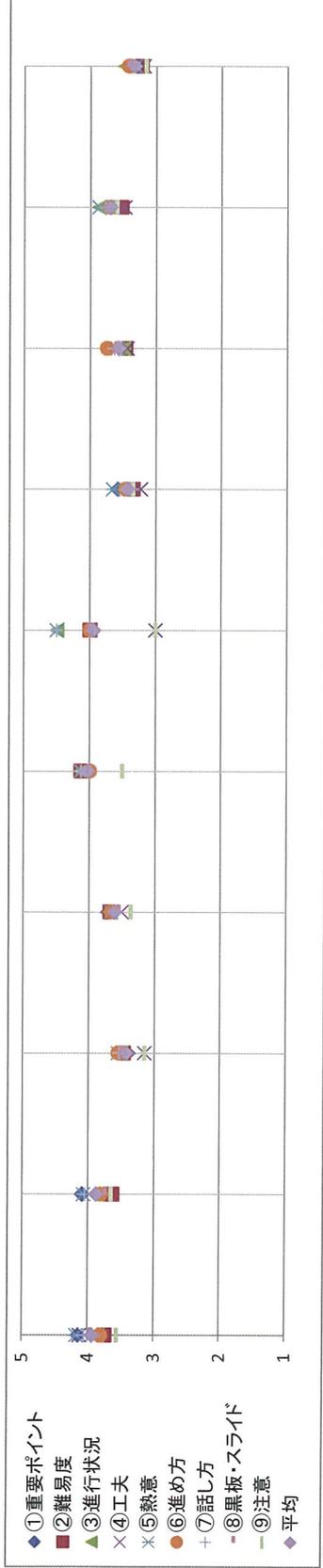
平成28年度 前期 1年生 授業評価(学生自己評価)②

科目名 教員名	文学I 吉川		基礎化学I 葉田		福祉学I 郡嶋		薬学への招待 荒牧		基礎物理学 黒木・田島・安川他		経済学I 市東	
	3限	4限	A組	B組	3限	4限	全組	A組	B組	3限	4限	
⑩関心	3.85	4	3.72	3.62	3.53	3.59	3.6	3.67	3.55	3.71	3.6	
⑪予習	3.12	3.09	3.38	3.07	2.9	2.92	2.64	3.01	3.06	2.82	3.17	
⑫復習	3.03	2.91	3.51	3.49	2.9	3.1	3.17	3.56	3.41	2.29	2.97	
⑬理解度	3.65	3.91	3.55	3.07	3.32	3.61	3.34	3.23	3.13	3.14	3.37	
⑭満足度	3.85	3.87	3.42	3.07	3.48	3.67	3.56	3.31	3.25	3.54	3.47	
平均	3.50	3.56	3.52	3.26	3.23	3.38	3.26	3.36	3.28	3.10	3.32	



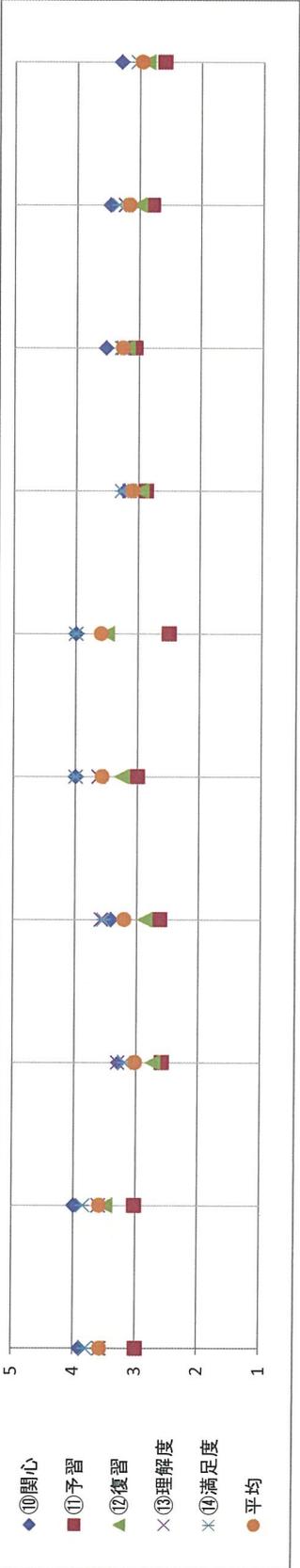
平成28年度 前期 1年生 授業評価(教員評価)③

科目名	薬用資源学			文章表現論			フランス語			倫理学 I			哲学 I		
	森永			深山			田中			渡部			渡部		
教員名	A組	B組	平均	1-A組	1-B組	平均	A組	B組	平均	3限	4限	平均	3限	4限	平均
クラス	4.14	4.09	3.71	4.13	4	3.58	4.13	4	3.56	3.58	3.56	3.77	3.58	3.42	3.42
①重要ポイント	3.74	3.63	3.68	4.13	4	3.35	4.13	4	3.47	3.35	3.47	3.53	3.35	3.23	3.23
②難易度	3.85	3.86	3.86	4.13	4.5	3.46	4.13	4.5	3.5	3.46	3.5	3.87	3.46	3.48	3.48
③進行状況	4.12	3.98	3.5	4.13	3	3.23	4.13	3	3.44	3.23	3.44	3.48	3.23	3.19	3.19
④工夫	4.17	4.07	3.55	4.13	4.5	3.65	4.13	4.5	3.59	3.65	3.59	3.87	3.65	3.32	3.32
⑤熱意	3.81	3.81	3.66	4	4	3.46	4	4	3.75	3.46	3.75	3.7	3.46	3.42	3.42
⑥進め方	4.05	4.05	3.61	4.13	4.5	3.36	4.13	4.5	3.63	3.36	3.63	3.77	3.36	3.35	3.35
⑦話し方	3.97	3.74	3.55	4	4	3.4	4	4	3.59	3.4	3.59	3.63	3.4	3.42	3.42
⑧黒板・スライド	3.56	3.65	3.37	3.5	3	3.35	3.5	3	3.56	3.35	3.56	3.6	3.35	3.16	3.16
⑨注意	3.93	3.88	3.42	4.03	3.94	3.43	4.03	3.94	3.57	3.43	3.57	3.69	3.43	3.33	3.33
平均															



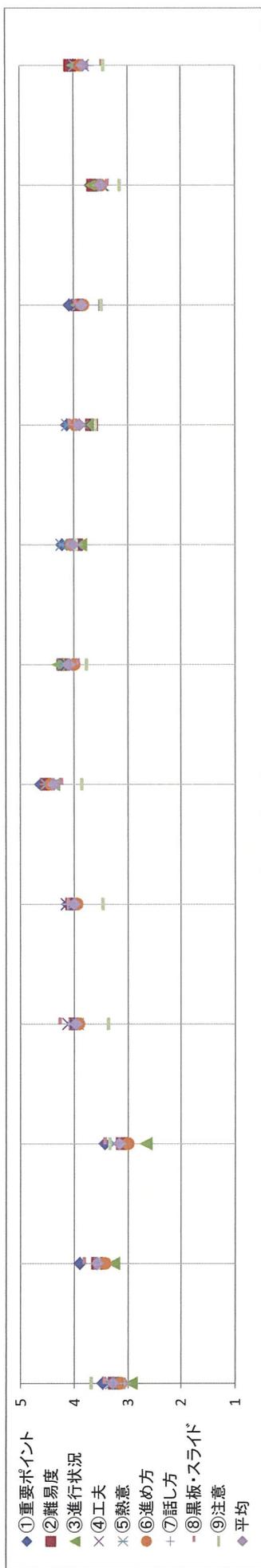
平成28年度 前期 1年生 授業評価(学生自己評価)③

科目名	薬用資源学			文章表現論			フランス語			倫理学 I			哲学 I		
	森永			深山			田中			渡部			渡部		
教員名	A組	B組	平均	1-A組	1-B組	平均	A組	B組	平均	3限	4限	平均	3限	4限	平均
クラス	3.9	4	3.42	3.29	3.42	3.36	4	4	3.23	3.23	3.53	3.29	3.23	3.29	3.29
⑩関心	2.99	3.02	2.63	2.59	2.63	2.88	3	2.5	2.79	2.88	3.06	2.6	2.79	2.6	2.6
⑪予習	3.6	3.49	2.73	2.87	2.87	2.96	3.25	3.5	3.19	2.96	3.19	3	2.96	2.87	2.87
⑫復習	3.57	3.6	3.3	3.58	3.58	3.23	3.63	4	3.15	3.15	3.25	3.03	3.15	3.03	3.03
⑬理解度	3.8	3.85	3.19	3.54	3.54	3.27	4	4	3.28	3.27	3.28	3.33	3.27	3.33	3.33
⑭満足度	3.57	3.59	3.02	3.21	3.21	3.10	3.58	3.60	3.16	3.10	3.26	3.16	3.10	2.96	2.96
平均															



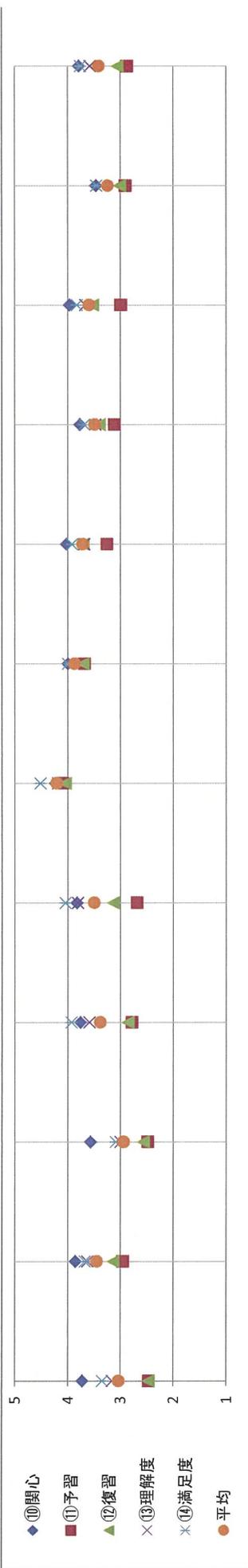
平成28年度 前期 1年生 授業評価(教員評価)④

科目名 教員名	情報処理演習 I 藤岡				心理学 藤元				中国語 I 任				有機化学 I 白谷				本草学 福田				法学 I 國府			
	1-漢		1-葉1~8		1-葉9~16		A組		B組		A組		B組		A組		B組		漢		3限		4限	
	3.47	3.9	3.43	3.99	3.43	3.99	4.04	4.12	4.21	4.21	4.62	4.52	4.29	4.14	4.23	4.05	4.08	4.13	4.08	3.68	4	3.64	4.06	
①重要ポイント	3.26	3.57	3.11	3.99	3.26	3.53	3.94	4.02	4.21	4.52	4.38	4.29	4.14	4.23	4.05	3.92	3.92	4.12	3.92	3.45	3.97	3.82		
②難易度	2.94	3.27	2.66	4	3.23	3.52	4.11	4.02	4.14	4.52	4.38	4.29	4.14	4.23	4.05	3.98	3.94	3.76	3.49	3.88	3.49	3.88		
③進行状況	3.31	3.53	3.26	3.94	3.31	3.59	3.94	4.02	4.14	4.52	4.38	4.29	4.14	4.23	4.05	3.98	3.94	3.76	3.49	3.82	3.49	3.82		
④工夫	3.13	3.43	3	3.92	3.13	3.43	3.92	4.02	4.14	4.52	4.38	4.29	4.14	4.23	4.05	3.98	3.94	3.76	3.49	3.82	3.49	3.82		
⑤熱意	3.06	3.59	3.17	4.1	3.06	3.59	4.1	4.12	4.12	4.52	4.38	4.29	4.12	4.23	4.05	3.98	3.94	3.76	3.49	3.82	3.49	3.82		
⑥進め方	3.44	3.82	3.43	4.27	3.44	3.82	4.27	4.12	4.12	4.52	4.38	4.29	4.12	4.23	4.05	3.98	4.08	3.6	3.49	3.82	3.49	3.82		
⑦話し方	3.69	3.55	3.34	3.37	3.69	3.55	3.37	3.47	3.47	4.38	4.22	4.09	4.09	4.03	3.97	3.6	3.49	3.90	3.85	3.49	3.85	3.82		
⑧黒板・スライド	3.28	3.58	3.17	3.97	3.28	3.58	3.17	4.00	4.00	4.38	4.22	4.09	4.09	4.03	3.97	3.6	3.49	3.90	3.85	3.49	3.85	3.82		
⑨注意																								
平均																								



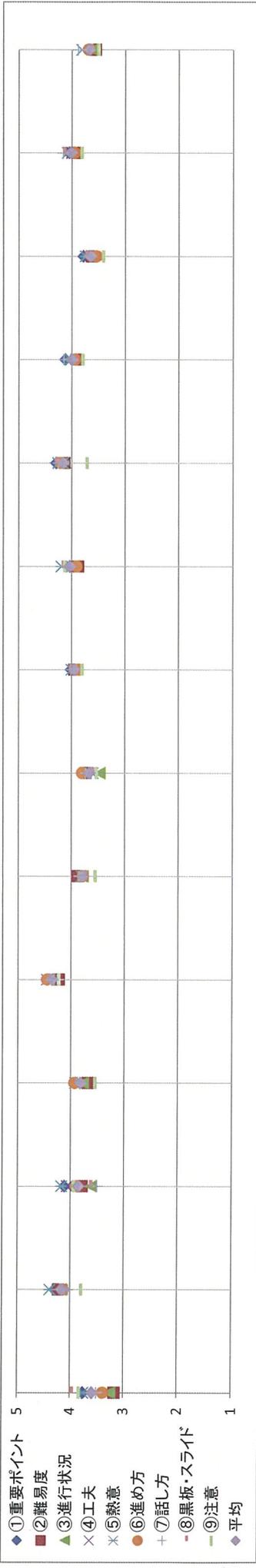
平成28年度 前期 1年生 授業評価(学生自己評価)④

科目名 教員名	情報処理演習 I 藤岡				心理学 藤元				中国語 I 任				有機化学 I 白谷				本草学 福田				法学 I 國府			
	1-漢		1-葉1~8		1-葉9~16		A組		B組		A組		B組		A組		B組		漢		3限		4限	
	3.73	2.47	2.96	3.14	2.57	2.86	3.76	2.79	3.83	2.69	4.24	4.1	3.69	3.71	3.26	3.12	3.77	3.12	3	3.97	3.47	2.91	2.88	
⑩関心	2.47	3.16	3.14	3.14	2.57	2.86	2.79	3.83	2.69	4.1	4.24	4.1	3.69	3.71	3.26	3.12	3.77	3.12	3	3.97	3.47	2.91	2.88	
⑪予習	3.16	3.35	3.63	3.63	3	3.59	3.59	3.81	3.81	4.19	4.19	4.19	4	3.69	3.48	3.48	3.69	3.48	3.67	3.83	3.46	3.36	3.58	
⑫復習	3.35	3.04	3.68	3.68	3.09	3.39	3.39	4.05	4.05	4.52	4.52	4.52	4	3.92	3.69	3.69	3.92	3.69	3.83	3.76	3.46	3.76	3.76	
⑬理解度	3.04	3.04	3.45	3.45	2.94	3.39	3.39	3.50	3.50	4.22	4.22	4.22	3.88	3.72	3.49	3.49	3.72	3.49	3.60	3.60	3.24	3.41	3.41	
⑭満足度																								
平均																								



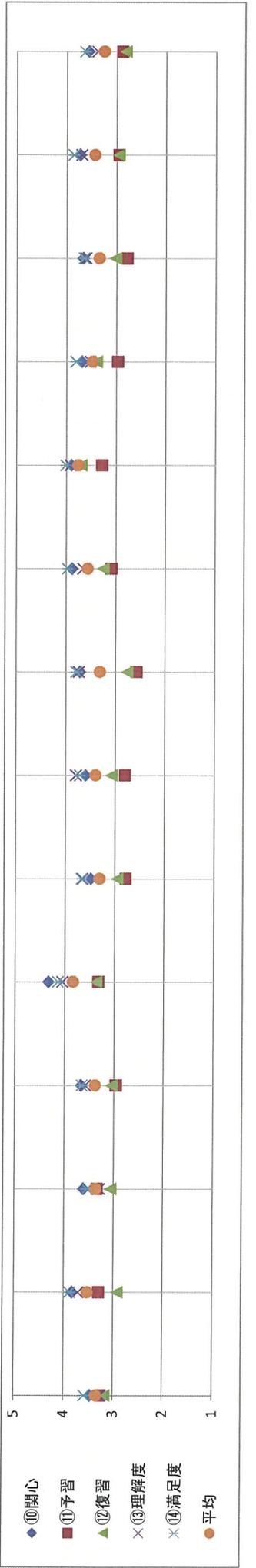
平成28年度 後期 1年生 授業評価(教員評価)①

科目名 教員名	薬学基礎英語Ⅱ エツブ		英会話Ⅱ エツブ		コミュニケーション論 芦刈		生命医療倫理学 井上(次)		基礎数学Ⅱ 井上		医学概論 岡野		文学Ⅱ 吉川	
	薬1-4	薬9-12	A	B	34A	34B	A	B	A	B	全組	3限	4限	
①重要ポイント	3.75	4.29	4.11	3.93	3.85	3.8	4.01	4.03	4.29	4.12	3.78	4.05	3.56	
②難易度	3.17	4.22	3.78	3.68	3.88	3.73	3.95	3.88	4.14	3.91	3.63	3.92	3.56	
③進行状況	3.25	4.17	3.61	3.77	3.78	3.47	3.95	3.97	4.16	4.03	3.7	4.06	3.63	
④工夫	3.67	4.21	4.06	3.91	3.8	3.6	3.92	4	4.13	4.03	3.69	4	3.81	
⑤熱量	3.75	4.38	4.17	3.91	3.8	3.73	4	4.19	4.25	4.03	3.74	4.08	3.81	
⑥進め方	3.38	4.13	3.89	3.93	3.78	3.8	3.89	3.91	4.2	3.94	3.54	3.95	3.69	
⑦話し方	3.5	4.04	3.5	3.82	3.85	3.73	4.01	4.13	4.25	4.15	3.65	4.16	3.88	
⑧黒板・スライド	3.96	4.17	3.61	3.89	3.73	3.6	4.01	4.16	4.28	4	3.72	4.14	3.63	
⑨注意	3.83	3.79	3.94	3.54	3.55	3.53	3.8	4.13	3.71	3.79	3.41	3.81	3.5	
平均	3.58	4.16	3.85	3.82	3.78	3.67	3.95	4.04	4.16	4.00	3.65	4.02	3.67	



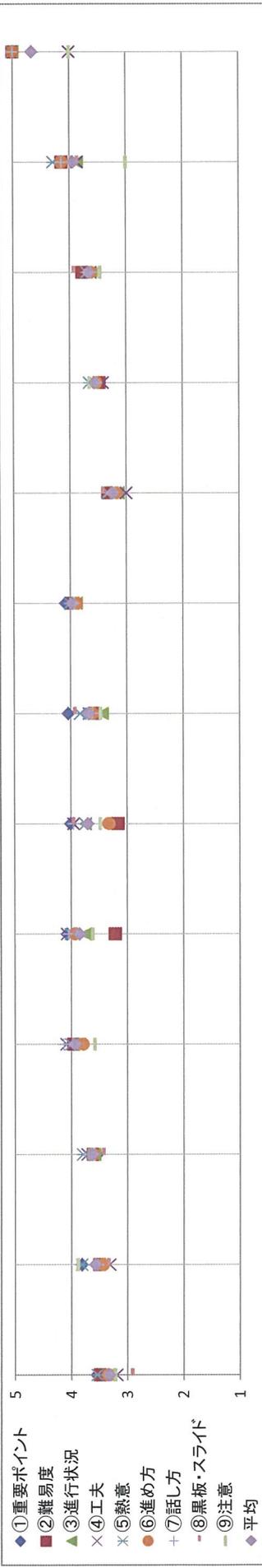
平成28年度 後期 1年生 授業評価(学生自己評価)①

科目名 教員名	薬学基礎英語Ⅱ エツブ		英会話Ⅱ エツブ		コミュニケーション論 芦刈		生命医療倫理学 井上(次)		基礎数学Ⅱ 井上		医学概論 岡野		文学Ⅱ 吉川	
	薬1-4	薬9-12	A	B	34A	34B	A	B	A	B	全組	3限	4限	
⑩関心	3.46	3.83	3.61	3.66	3.48	3.6	3.72	3.88	3.9	3.69	3.67	3.73	3.56	
⑪予習	3.25	3.29	3.33	2.96	2.78	2.8	2.57	3.09	3.28	2.97	2.78	2.95	2.88	
⑫復習	3.17	2.92	3.06	3.05	2.95	3.07	2.76	3.25	3.7	3.39	3.02	2.95	2.81	
⑬理解度	3.25	3.71	3.28	3.58	3.65	3.79	3.74	3.66	3.92	3.52	3.61	3.7	3.38	
⑭満足度	3.58	3.88	3.53	3.65	3.67	3.71	3.79	3.97	4.01	3.81	3.65	3.86	3.63	
平均	3.34	3.53	3.36	3.38	3.31	3.39	3.32	3.57	3.76	3.48	3.35	3.44	3.25	



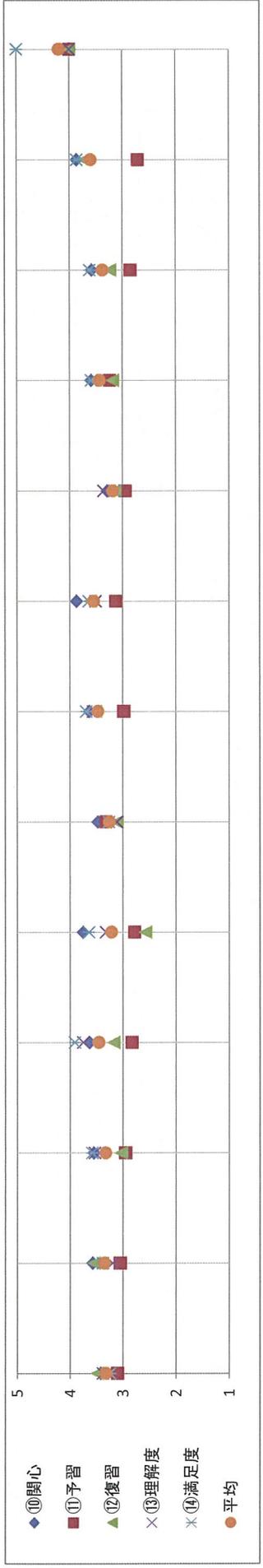
平成28年度 後期 1年生 授業評価(教員評価)②

科目名 教員名	基礎化学Ⅱ 葉田		福祉学Ⅱ 郡嶋		経済学Ⅱ 市東		機能形態学Ⅰ 清水		薬学基礎英語Ⅱ 池間				フランス語 田中	
	A	B	3限	4限	3限	4限	A	B	薬5-8	薬13-16	漢5-8	A	B	
	3.54	3.81	3.53	3.96	4.07	4	4.04	4.08	3.27	3.47	3.69	4.14	4.14	
①重要ポイント	3.49	3.5	3.61	3.96	3.21	3.16	3.58	3.95	3.32	3.47	3.77	4.14	4.14	
②難易度	3.34	3.52	3.58	3.96	3.75	3.74	3.43	3.89	3.14	3.59	3.54	3.86	3.86	
③進行状況	3.19	3.31	3.71	4.08	4.07	3.95	3.67	3.97	3	3.41	3.62	3.86	3.86	
④工夫	3.53	3.81	3.79	4	4	3.74	3.83	4	3.32	3.65	3.69	4.29	4.29	
⑤熱意	3.34	3.43	3.61	3.79	3.93	3.32	3.6	3.89	3.18	3.53	3.62	4.14	4.14	
⑥進め方	3.31	3.52	3.68	4.13	4.04	3.95	3.6	4	3.27	3.53	3.62	4.14	4.14	
⑦話し方	2.91	3.33	3.42	3.96	3.93	3.95	3.92	3.95	3.41	3.65	3.92	3.86	3.86	
⑧黒板・スライド	3.21	3.88	3.61	3.58	3.61	3.47	3.46	3.95	3.23	3.65	3.46	3	4	
⑨注意	3.32	3.57	3.62	3.94	3.85	3.70	3.68	3.96	3.24	3.55	3.66	3.94	4.67	
平均														



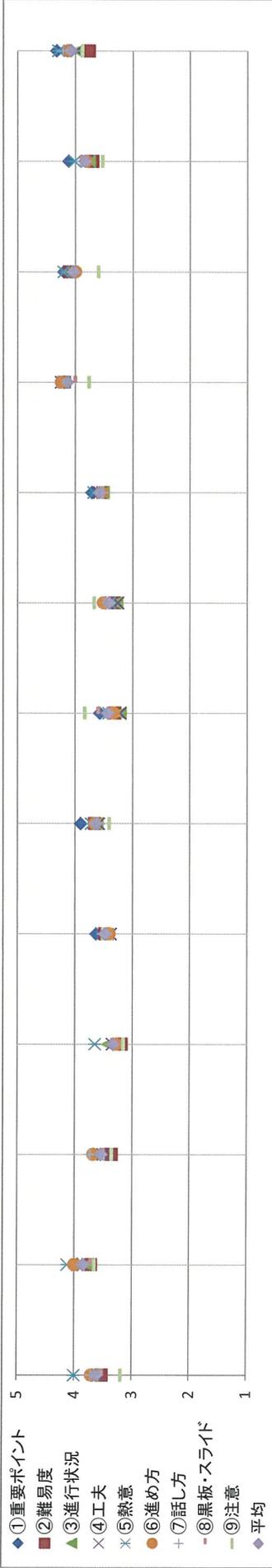
平成28年度 後期 1年生 授業評価(学生自己評価)②

科目名 教員名	基礎化学Ⅱ 葉田		福祉学Ⅱ 郡嶋		経済学Ⅱ 市東		機能形態学Ⅰ 清水		薬学基礎英語Ⅱ 池間				フランス語 田中	
	A	B	3限	4限	3限	4限	A	B	薬5-8	薬13-16	漢5-8	A	B	
	3.42	3.57	3.55	3.63	3.75	3.47	3.63	3.87	3.29	3.59	3.58	3.86	3.86	
⑩関心	3.1	3.05	2.95	2.83	2.78	3.32	2.98	3.13	2.95	3.24	2.85	2.71	2.71	
⑪予習	3.48	3.54	3.03	3.17	2.57	3.11	3.51	3.61	3.14	3.18	3.23	3.71	3.71	
⑫復習	3.38	3.19	3.53	3.75	3.32	3.11	3.56	3.51	3.36	3.59	3.62	3.86	3.86	
⑬理解度	3.24	3.38	3.58	3.91	3.64	3.26	3.69	3.64	3.14	3.59	3.62	3.86	3.86	
⑭満足度	3.32	3.35	3.33	3.46	3.21	3.25	3.47	3.55	3.18	3.44	3.38	3.60	4.20	
平均														



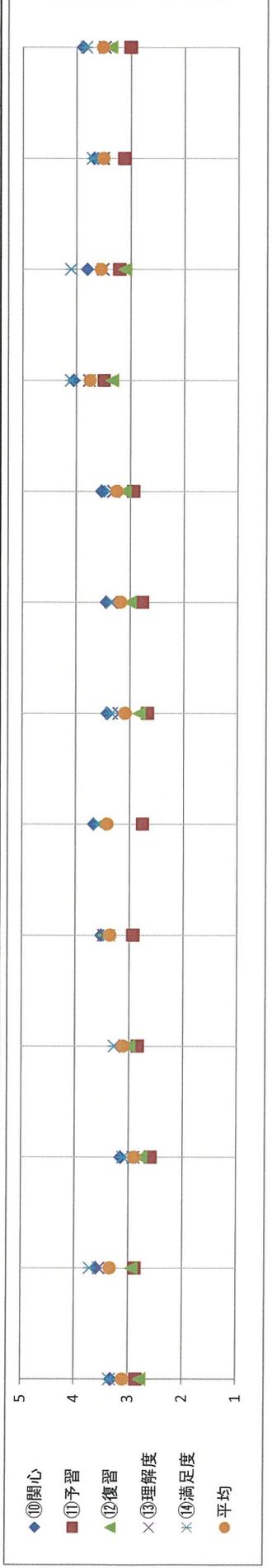
平成28年度 後期 1年生 授業評価(教員評価)③

科目名 教員名	倫理学Ⅱ		哲学Ⅱ		基礎生物学 都築他		情報処理演習Ⅱ				中国語Ⅱ		有機化学Ⅱ	
	3限	4限	3限	4限	A	B	薬9-16	薬18	漢14	A	B	A	B	
クラス	3.67	3.94	3.55	3.33	3.63	3.9	3.57	3.47	3.71	4.19	4.2	4.11	4.32	
①重要ポイント	3.52	3.71	3.36	3.19	3.48	3.66	3.31	3.32	3.52	4.19	4.1	3.7	3.76	
②難易度	3.67	3.76	3.64	3.43	3.48	3.62	3.22	3.28	3.52	4.24	4.1	3.76	3.97	
③進行状況	3.56	3.94	3.5	3.35	3.38	3.59	3.22	3.26	3.58	4.24	4.1	3.8	3.97	
④工夫	4	4.12	3.59	3.65	3.43	3.72	3.42	3.4	3.68	4.19	4.2	4.01	4.29	
⑤熱意	3.7	4	3.68	3.29	3.41	3.66	3.34	3.51	3.55	4.24	4	3.82	4.12	
⑥進め方	3.7	3.82	3.73	3.32	3.51	3.59	3.44	3.4	3.52	4.14	4	3.89	4.21	
⑦話し方	3.52	3.71	3.5	3.35	3.48	3.62	3.6	3.49	3.58	4	4	3.89	4.09	
⑧黒板・スライド	3.19	3.65	3.36	3.16	3.51	3.41	3.83	3.67	3.58	3.76	3.6	3.53	3.88	
⑨注意	3.61	3.85	3.55	3.34	3.48	3.64	3.44	3.42	3.58	4.13	4.03	3.83	4.07	
平均														



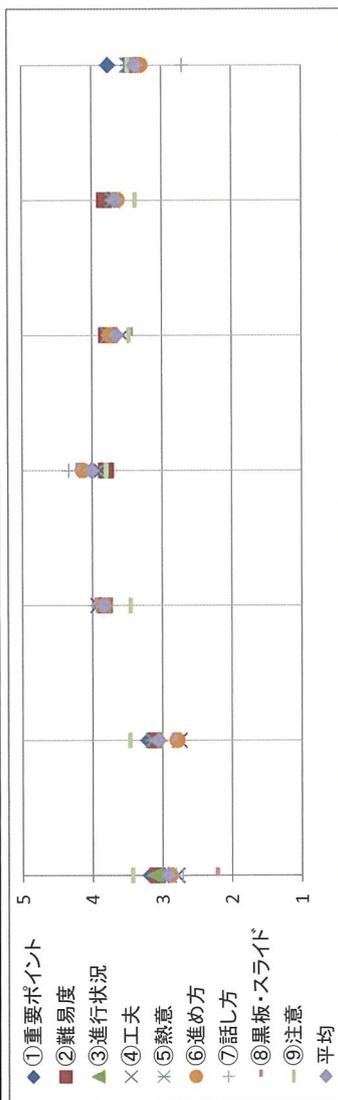
平成28年度 後期 1年生 授業評価(学生自己評価)③

科目名 教員名	倫理学Ⅱ		哲学Ⅱ		基礎生物学 都築他		情報処理演習Ⅱ				中国語Ⅱ		有機化学Ⅱ	
	3限	4限	3限	4限	A	B	薬9-16	薬18	漢14	A	B	A	B	
クラス	3.31	3.59	3.14	3.16	3.51	3.66	3.41	3.43	3.52	4.05	3.8	3.67	3.88	
⑩関心	2.85	2.88	2.59	2.84	2.93	2.76	2.67	2.77	2.94	3.48	3.2	3.11	3	
⑪予習	2.78	2.94	2.77	3	3.46	3.52	2.83	3	3.1	3.33	3.1	3.51	3.36	
⑫復習	3.19	3.53	2.91	3.26	3.46	3.55	3.19	3.34	3.3	3.76	3.5	3.5	3.47	
⑬理解度	3.33	3.71	3.09	3.26	3.37	3.55	3.33	3.32	3.37	4.1	4.1	3.7	3.82	
⑭満足度	3.09	3.33	2.90	3.10	3.35	3.41	3.09	3.17	3.25	3.74	3.54	3.50	3.51	
平均														



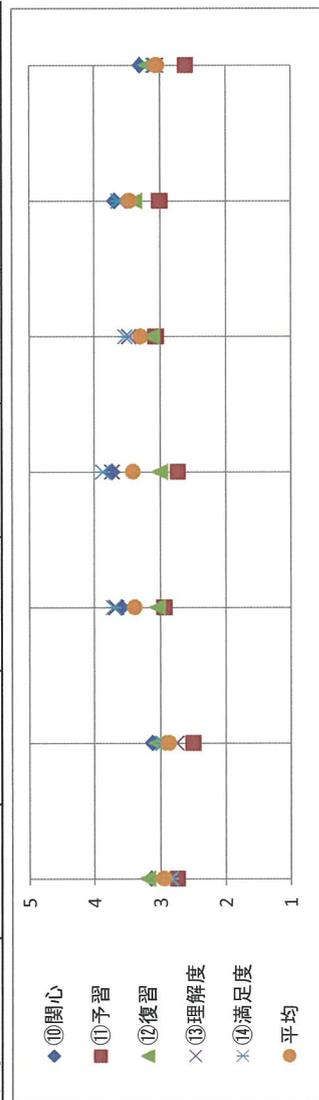
平成28年度 後期 1年生 授業評価(教員評価)④

科目名 教員名	理論化学 白木原		コミュニケーション論 服部				法学Ⅱ 國府				漢方・民間薬概論 飯塚 漢	
	A	B	12A	12B	3限	4限	3限	4限	3限	4限	漢	漢
	クラス	3.18	3.21	3.88	4	3.68	3.75	3.68	3.75	3.68	3.75	3.76
①重要ポイント	3.08	3.11	3.82	3.8	3.79	3.81	3.79	3.81	3.79	3.81	3.42	3.42
②難易度	3.11	3.11	3.84	3.87	3.74	3.69	3.74	3.69	3.74	3.69	3.39	3.39
③進行状況	2.79	2.75	3.92	3.87	3.56	3.69	3.56	3.69	3.56	3.69	3.45	3.45
④工夫	2.91	3.14	3.82	4.07	3.76	3.69	3.76	3.69	3.76	3.69	3.48	3.48
⑤熱意	2.89	2.79	3.82	4.13	3.74	3.63	3.74	3.63	3.74	3.63	3.3	3.3
⑥進め方	2.71	3.07	3.94	4.33	3.65	3.63	3.65	3.63	3.65	3.63	2.7	2.7
⑦話し方	2.21	2.82	3.94	4.2	3.44	3.69	3.44	3.69	3.44	3.69	3.42	3.42
⑧黒板・スライド	3.43	3.46	3.45	3.8	3.47	3.38	3.47	3.38	3.47	3.38	3.48	3.48
⑨注意	2.92	3.05	3.83	4.01	3.65	3.66	3.65	3.66	3.65	3.66	3.38	3.38
平均												



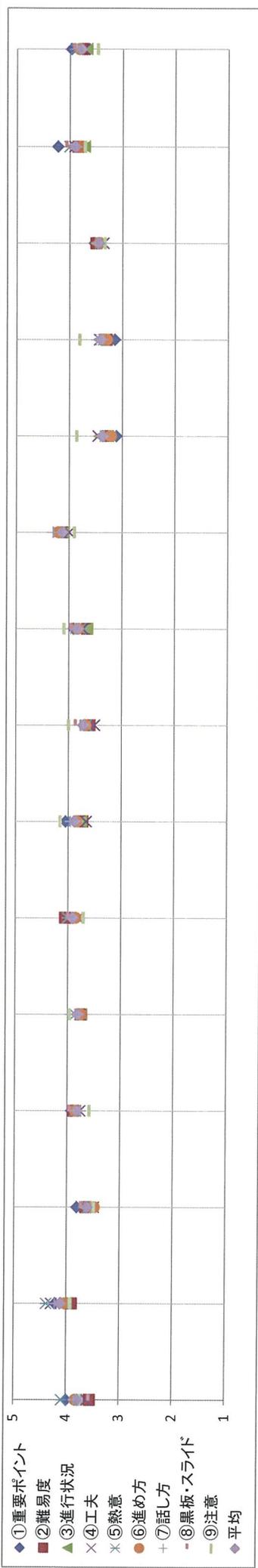
平成28年度 後期 1年生 授業評価(学生自己評価)④

科目名 教員名	理論化学 白木原		コミュニケーション論 服部				法学Ⅱ 國府				漢方・民間薬概論 飯塚 漢	
	A	B	12A	12B	3限	4限	3限	4限	3限	4限	漢	漢
	クラス	3.13	3.11	3.59	3.73	3.29	3.69	3.13	3.11	3.59	3.73	3.69
⑩関心	2.74	2.5	2.94	2.73	3.06	3	2.61	2.74	2.5	2.94	3	2.61
⑪予習	3.19	3.04	3.04	3	3.12	3.38	3.19	3.04	3.04	3.12	3.38	3.19
⑫復習	2.85	2.75	3.67	3.73	3.47	3.63	2.85	2.75	3.67	3.73	3.63	3.06
⑬理解度	2.84	2.96	3.71	3.87	3.53	3.63	2.84	2.96	3.71	3.87	3.63	3.09
⑭満足度	2.95	2.87	3.39	3.41	3.29	3.47	2.95	2.87	3.39	3.41	3.47	3.05
平均												



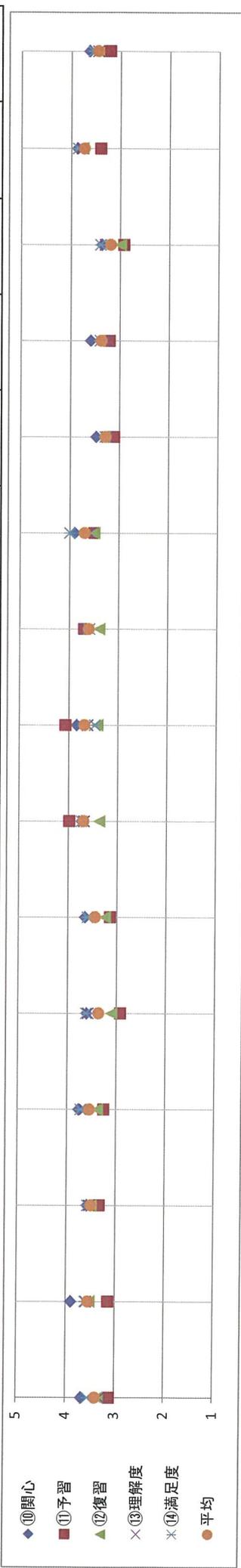
平成28年度 前期 2年生 授業評価(教員評価)①

科目名 教員名	基礎統計学		放射化学		医療コミュニケーション論		薬学英語				微生物学 I		臨床心理学		機能形態学 II	
	井上		原口		山辺		小川(和)				松原		松田(輝)		清水	
	A	B	A	B	A	B	A1・2組	A3・4組	B1・2組	B3・4組	A	B	全組	全組	A	B
①重要ポイント	3.99	4.21	3.81	3.92	3.78	3.95	4.05	3.69	3.91	4.2	3.11	3.14	3.53	4.22	3.97	
②難易度	3.55	3.9	3.64	3.88	3.74	4.05	3.73	3.6	3.65	4.1	3.27	3.3	3.5	3.84	3.74	
③進行状況	3.79	4	3.65	3.84	3.75	3.95	3.76	3.69	3.65	4.1	3.44	3.45	3.5	3.72	3.68	
④工夫	3.6	4.28	3.49	3.76	3.76	3.81	3.66	3.51	3.74	4	3.45	3.43	3.36	3.9	3.73	
⑤熱意	4.08	4.38	3.59	3.84	3.85	4	3.9	3.67	3.78	4.2	3.22	3.35	3.42	4	3.89	
⑥進め方	3.82	4.03	3.48	3.84	3.75	3.86	3.85	3.69	3.83	4.2	3.22	3.3	3.44	3.8	3.82	
⑦話し方	3.84	4.21	3.66	3.75	3.94	3.9	3.95	3.78	3.96	4.3	3.35	3.49	3.47	3.87	3.87	
⑧黒板・スライド	3.57	4.1	3.73	3.96	3.83	4	3.88	3.87	3.96	4.1	3.37	3.41	3.49	4.06	3.92	
⑨注意	3.74	3.93	3.49	3.58	3.96	3.71	4.15	4	4.09	3.9	3.86	3.81	3.33	3.71	3.47	
平均	3.78	4.12	3.62	3.82	3.82	3.91	3.88	3.72	3.84	4.12	3.38	3.41	3.45	3.90	3.79	



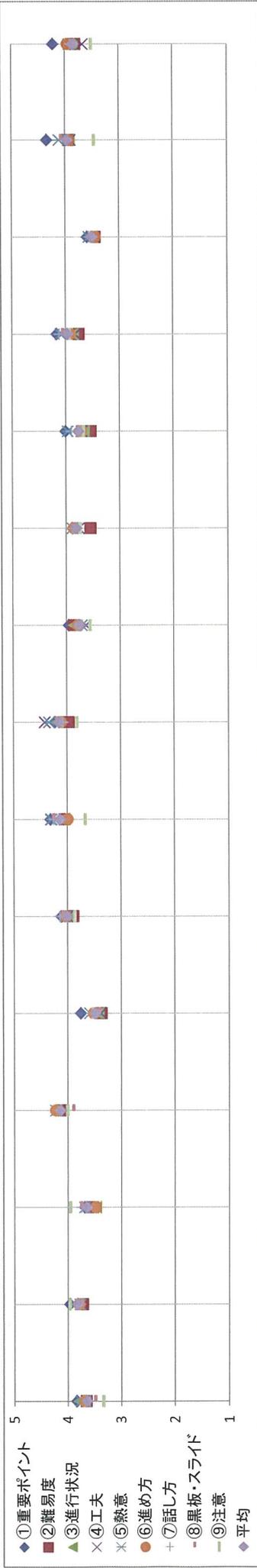
平成28年度 前期 2年生 授業評価(学生自己評価)①

科目名 教員名	基礎統計学		放射化学		医療コミュニケーション論		薬学英語				微生物学 I		臨床心理学		機能形態学 II	
	井上		原口		山辺		小川(和)				松原		松田(輝)		清水	
	A	B	A	B	A	B	A1・2組	A3・4組	B1・2組	B3・4組	A	B	全組	全組	A	B
⑩関心	3.68	3.9	3.58	3.76	3.61	3.65	3.73	3.84	3.64	3.9	3.47	3.59	3.37	3.87	3.63	
⑪予習	3.11	3.14	3.33	3.25	2.92	3.14	3.98	4.07	3.7	3.5	3.11	3.21	2.92	3.4	3.21	
⑫復習	3.34	3.52	3.49	3.38	3.1	3.24	3.37	3.42	3.39	3.5	3.3	3.41	2.99	3.76	3.45	
⑬理解度	3.31	3.59	3.53	3.63	3.58	3.6	3.68	3.62	3.7	3.6	3.25	3.28	3.3	3.78	3.45	
⑭満足度	3.55	3.61	3.57	3.72	3.62	3.6	3.73	3.47	3.59	4	3.29	3.4	3.4	3.86	3.55	
平均	3.40	3.55	3.50	3.55	3.37	3.45	3.70	3.68	3.60	3.70	3.28	3.38	3.20	3.73	3.46	



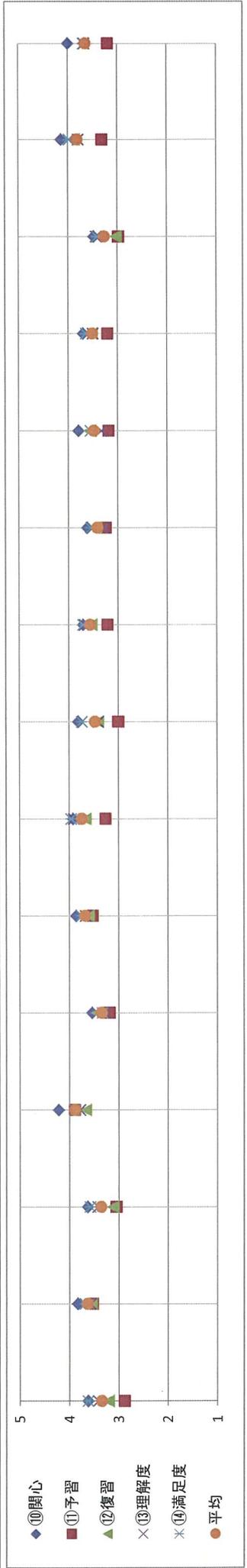
平成28年度 前期 2年生 授業評価(教員評価)②

科目名 教員名	薬学英語				物理化学Ⅰ		生命科学Ⅰ		分析化学Ⅰ		有機化学Ⅲ		フレゼンテーション論		薬理学Ⅰ	
	森内				田畠		都築		藤井		白谷		平野他		濱村	
	A1・2組	A3・4組	B1・2組	B3・4組	A	B	A	B	A	B	A	B	全組	A	B	
クラス	3.83	3.96	3.68	4.22	3.75	4.11	4.31	4.22	3.95	3.88	4	4.16	3.59	4.34	4.22	
①重要ポイント	3.65	3.72	3.53	4.11	3.36	3.89	4.05	3.96	3.86	3.54	3.53	3.75	3.44	3.93	3.81	
②難易度	3.78	3.81	3.47	4.22	3.42	3.97	4.11	4.19	3.85	3.88	3.66	3.86	3.5	3.92	3.86	
③進行状況	3.65	3.76	3.53	4.22	3.37	4	4.3	4.41	3.63	3.76	3.7	3.82	3.45	3.9	3.67	
④工夫	3.75	3.77	3.68	4.22	3.58	4.03	4.29	4.33	3.71	3.88	3.96	4.09	3.56	4.11	3.92	
⑤熱意	3.68	3.79	3.47	4.22	3.51	4.03	3.99	4.11	3.78	3.85	3.71	3.91	3.44	3.93	3.95	
⑥進め方	3.58	3.83	3.74	4.11	3.47	4.14	4.25	4.07	3.7	3.88	3.89	4.11	3.53	3.98	3.89	
⑦話し方	3.48	3.74	3.74	3.89	3.4	4.08	4.25	4.19	3.78	3.88	3.76	4.05	3.54	4.07	3.83	
⑧黒板・スライド	3.33	3.96	3.95	4	3.51	3.86	3.66	3.81	3.56	3.73	3.67	3.93	3.52	3.46	3.51	
⑨注意	3.64	3.82	3.64	4.13	3.49	4.01	4.13	4.14	3.76	3.81	3.76	3.96	3.51	3.96	3.85	
平均																



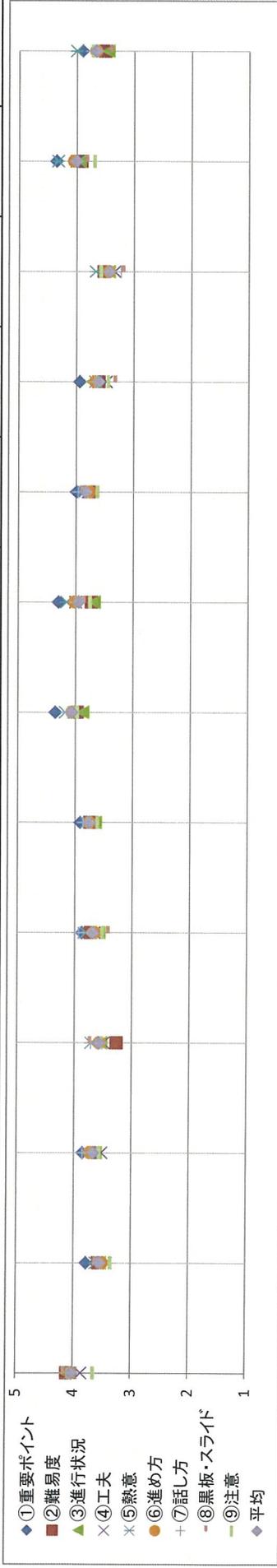
平成28年度 前期 2年生 授業評価(教員評価)②

科目名 教員名	薬学英語				物理化学Ⅰ		生命科学Ⅰ		分析化学Ⅰ		有機化学Ⅲ		フレゼンテーション論		薬理学Ⅰ	
	森内				田畠		都築		藤井		白谷		平野他		濱村	
	A1・2組	A3・4組	B1・2組	B3・4組	A	B	A	B	A	B	A	B	全組	A	B	
クラス	3.62	3.83	3.63	4.22	3.54	3.86	3.92	3.81	3.71	3.62	3.79	3.7	3.48	4.14	4	
⑩関心	2.88	3.53	3.05	3.89	3.18	3.53	3.26	3	3.21	3.24	3.18	3.2	2.98	3.31	3.19	
⑪予習	3.2	3.55	3.11	3.67	3.44	3.61	3.67	3.41	3.54	3.44	3.57	3.52	3.03	3.87	3.69	
⑫復習	3.41	3.57	3.42	3.78	3.27	3.67	3.9	3.41	3.68	3.27	3.33	3.5	3.43	3.79	3.67	
⑬理解度	3.62	3.68	3.58	3.89	3.33	3.75	3.96	3.74	3.71	3.54	3.55	3.64	3.41	3.98	3.69	
⑭満足度	3.35	3.63	3.36	3.89	3.35	3.68	3.74	3.47	3.57	3.42	3.48	3.51	3.27	3.82	3.65	
平均																



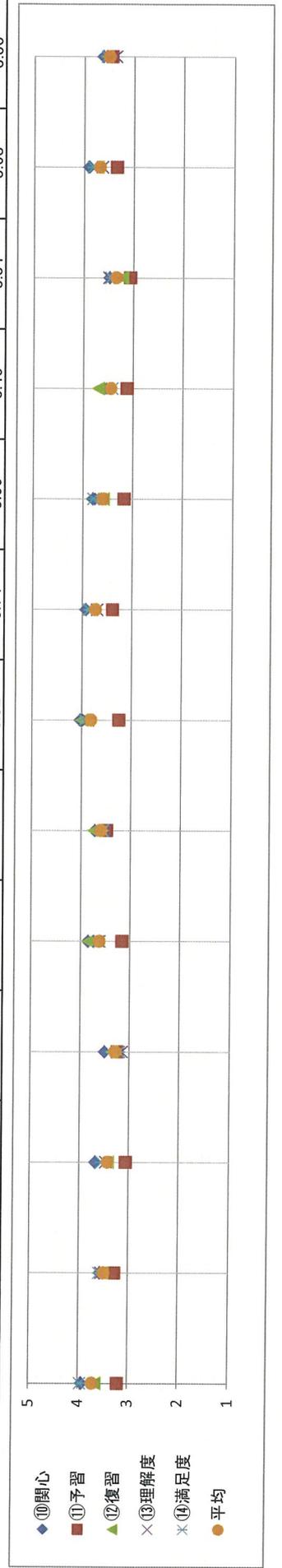
平成28年度 後期 2年生 授業評価(教員評価)①

科目名 教員名	無機化学 安川		分析化学Ⅱ 横山		薬理学Ⅱ 小松		微生物学Ⅱ 小川(和)		生薬学 城戸		介護学概論 浅賀		有機化学Ⅳ 増田	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	全組	A	B	
①重要ポイント	4.1	3.78	3.85	3.58	3.87	3.91	4.35	4.3	3.99	3.94	3.47	4.35	3.9	
②難易度	4.11	3.57	3.65	3.27	3.73	3.74	3.97	3.73	3.77	3.61	3.53	3.92	3.51	
③進行状況	4.11	3.54	3.62	3.54	3.58	3.65	3.87	3.68	3.86	3.73	3.44	3.94	3.46	
④工夫	3.86	3.43	3.52	3.49	3.66	3.72	4.01	4	3.79	3.48	3.34	4	3.61	
⑤熱意	4.03	3.61	3.65	3.71	3.8	3.8	4.18	4.16	3.86	3.67	3.67	4.32	4	
⑥進め方	4.03	3.51	3.72	3.56	3.66	3.75	4.06	4.02	3.77	3.67	3.44	4.05	3.67	
⑦話し方	4.09	3.54	3.85	3.71	3.93	3.86	4.13	4	3.96	3.67	3.23	3.98	3.74	
⑧黒板・スライド	4.17	3.62	3.59	3.73	3.42	3.77	4	3.86	3.9	3.33	3.19	3.82	3.41	
⑨注意	3.65	3.36	3.56	3.54	3.52	3.61	3.97	3.75	3.63	3.45	3.58	3.69	3.72	
平均	4.02	3.55	3.67	3.57	3.69	3.76	4.06	3.94	3.84	3.62	3.43	4.01	3.67	



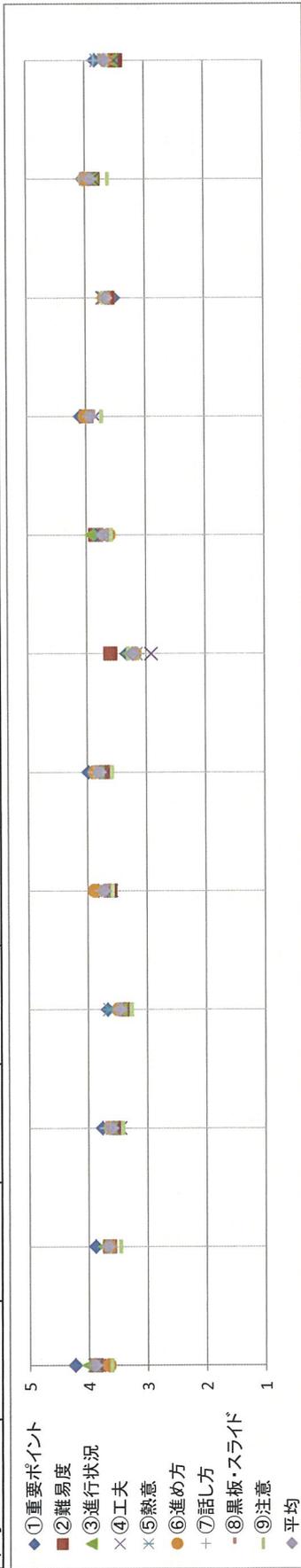
平成28年度 後期 2年生 授業評価(学生自己評価)①

科目名 教員名	無機化学 安川		分析化学Ⅱ 横山		薬理学Ⅱ 小松		微生物学Ⅱ 小川(和)		生薬学 城戸		介護学概論 浅賀		有機化学Ⅳ 増田	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	全組	A	B	
⑩関心	3.93	3.57	3.68	3.5	3.85	3.72	4.03	3.93	3.8	3.58	3.48	3.9	3.62	
⑪予習	3.2	3.27	3.06	3.24	3.16	3.48	3.25	3.39	3.17	3.12	3.07	3.34	3.44	
⑫復習	3.66	3.51	3.42	3.34	3.85	3.75	4	3.82	3.59	3.7	3.23	3.73	3.54	
⑬理解度	3.84	3.54	3.46	3.15	3.63	3.52	3.87	3.7	3.65	3.42	3.49	3.63	3.36	
⑭満足度	3.96	3.59	3.54	3.2	3.61	3.56	3.94	3.86	3.79	3.42	3.45	3.82	3.54	
平均	3.72	3.50	3.43	3.29	3.62	3.61	3.82	3.74	3.60	3.45	3.34	3.68	3.50	



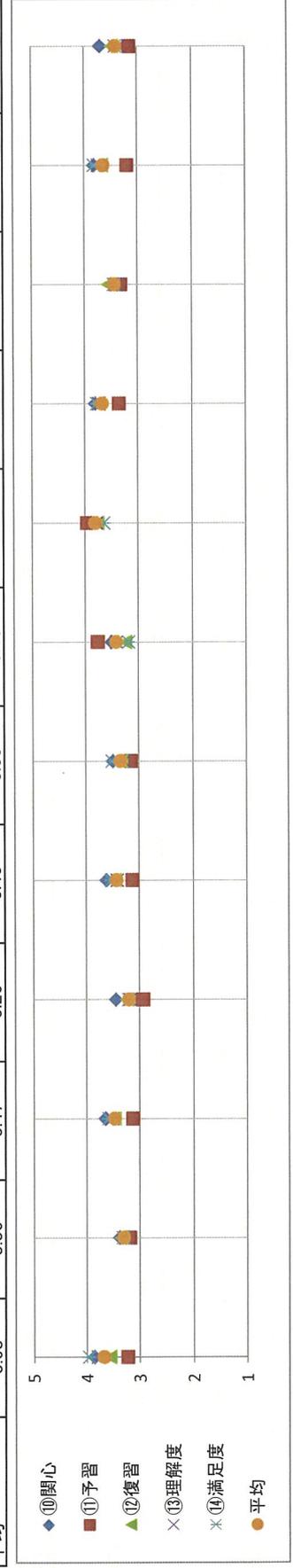
平成28年度 後期 2年生 授業評価(教員評価)②

科目名 教員名	病態・薬物治療学 I 大池		医療統計学 大脇		物理化学 II 田島		有機化学演習 白谷		環境衛生学 I 副田		生命科学 II 廣村	
	A	B	A	B	A	B	1・2組	3・4組	A	B	A	B
クラス												
①重要ポイント	4.23	3.88	3.76	3.67	3.82	3.98	3.32	3.81	4.09	3.53	4.03	3.83
②難易度	3.88	3.65	3.54	3.36	3.62	3.68	3.6	3.85	3.99	3.62	3.86	3.47
③進行状況	4	3.73	3.64	3.45	3.82	3.83	3.29	3.92	4	3.71	3.88	3.55
④工夫	3.84	3.65	3.46	3.34	3.6	3.7	2.91	3.73	3.84	3.71	3.86	3.49
⑤熱量	3.91	3.65	3.6	3.64	3.73	3.83	3.17	3.77	4	3.68	3.97	3.79
⑥進め方	3.66	3.65	3.63	3.48	3.88	3.87	3.19	3.62	4.01	3.68	4	3.64
⑦話し方	3.93	3.65	3.7	3.48	3.77	3.88	3.13	3.64	3.89	3.68	4.08	3.85
⑧黒板・スライド	3.95	3.65	3.69	3.44	3.68	3.83	3.17	3.6	3.87	3.68	4.04	3.74
⑨注意	3.61	3.46	3.42	3.27	3.58	3.58	3.3	3.58	3.74	3.71	3.62	3.63
平均	3.89	3.66	3.60	3.46	3.72	3.80	3.23	3.72	3.94	3.67	3.93	3.67



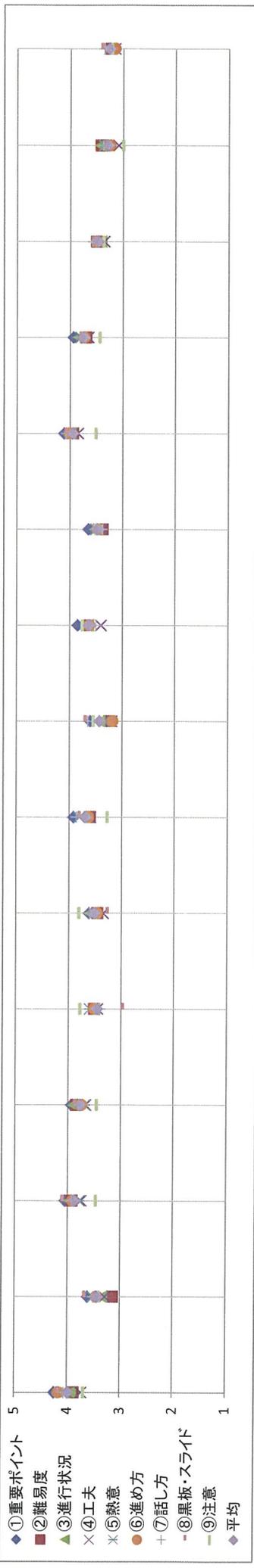
平成28年度 後期 2年生 授業評価(学生自己評価)②

科目名 教員名	病態・薬物治療学 I 大池		医療統計学 大脇		物理化学 II 田島		有機化学演習 白谷		環境衛生学 I 副田		生命科学 II 廣村	
	A	B	A	B	A	B	1・2組	3・4組	A	B	A	B
クラス												
⑩関心	3.86	3.38	3.65	3.45	3.62	3.49	3.51	3.88	3.8	3.5	3.82	3.7
⑪予習	3.23	3.19	3.13	2.94	3.13	3.15	3.77	3.96	3.36	3.32	3.2	3.15
⑫復習	3.57	3.35	3.48	3.24	3.47	3.33	3.25	3.77	3.74	3.56	3.68	3.48
⑬理解度	3.79	3.28	3.52	3.18	3.42	3.28	3.42	3.79	3.73	3.41	3.74	3.35
⑭満足度	3.96	3.32	3.59	3.21	3.53	3.51	3.19	3.65	3.77	3.45	3.82	3.42
平均	3.68	3.30	3.47	3.20	3.43	3.35	3.43	3.81	3.68	3.45	3.65	3.42



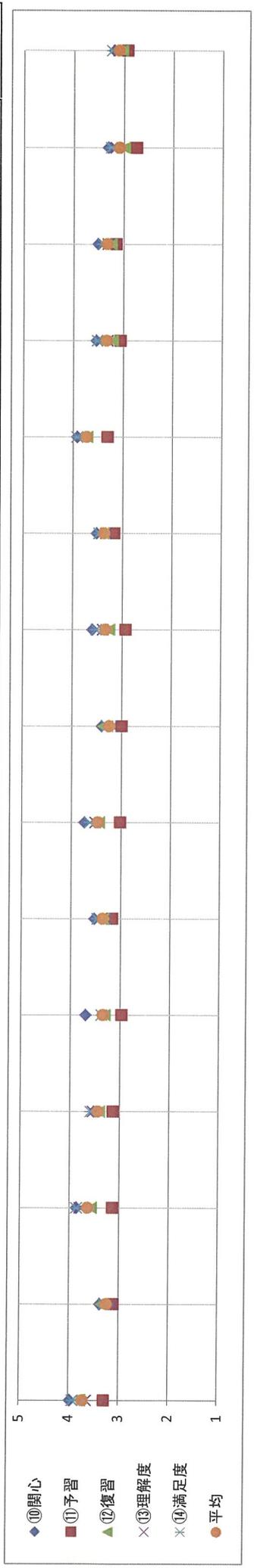
平成28年度 前期 3年生 授業評価(教員評価)①

科目名 教員名	応用物理化学 安川		病態生理学Ⅱ 吉武		食品衛生学Ⅰ 戸田		分子生物学 荒牧・岡崎		薬物動態学Ⅰ 三嶋		薬物治療学Ⅰ 小山		基礎薬学演習Ⅰ 小山他		調剤学 前田	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	全組	A	B	
①重要ポイント	4.24	3.62	4.05	3.94	3.46	3.62	3.92	3.61	3.85	3.65	4.11	3.94	3.51	3.29	3.24	
②難易度	3.88	3.14	3.92	3.83	3.51	3.46	3.61	3.24	3.66	3.38	3.95	3.7	3.5	3.42	3.23	
③進行状況	3.93	3.35	3.96	3.89	3.51	3.6	3.72	3.43	3.65	3.52	4	3.84	3.42	3.43	3.29	
④工夫	3.73	3.29	3.75	3.67	3.45	3.35	3.6	3.2	3.41	3.38	3.85	3.66	3.36	3.09	3.16	
⑤熱意	4.04	3.52	3.78	3.69	3.6	3.52	3.81	3.33	3.68	3.51	3.98	3.8	3.47	3.36	3.27	
⑥進め方	4.16	3.45	3.9	3.75	3.51	3.47	3.64	3.18	3.63	3.48	4.01	3.74	3.5	3.25	3.16	
⑦話し方	4.06	3.51	3.91	3.79	3.4	3.6	3.86	3.65	3.5	3.38	4.07	3.82	3.58	3.38	3.36	
⑧黒板・スライド	4.17	3.68	4.1	3.87	2.97	3.27	3.81	3.7	3.6	3.54	4.07	3.8	3.54	3.31	3.4	
⑨注意	3.69	3.4	3.47	3.46	3.78	3.81	3.28	3.55	3.76	3.51	3.51	3.44	3.37	3	3.22	
平均	3.99	3.44	3.87	3.77	3.47	3.52	3.69	3.43	3.64	3.48	3.95	3.75	3.47	3.28	3.26	



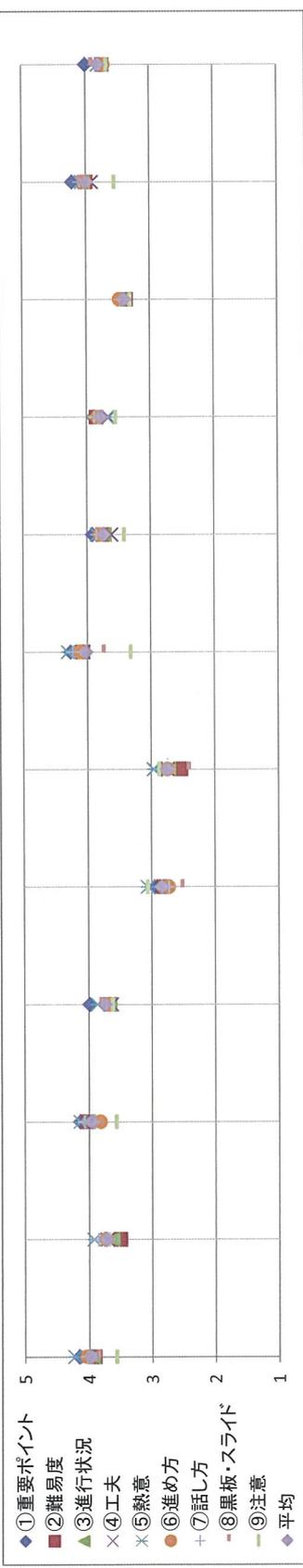
平成28年度 前期 3年生 授業評価(学生自己評価)①

科目名 教員名	応用物理化学 安川		病態生理学Ⅱ 吉武		食品衛生学Ⅰ 戸田		分子生物学 荒牧・岡崎		薬物動態学Ⅰ 三嶋		薬物治療学Ⅰ 小山		基礎薬学演習Ⅰ 小山他		調剤学 前田	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	全組	A	B	
⑩関心	3.97	3.38	3.86	3.52	3.7	3.53	3.74	3.4	3.6	3.52	3.92	3.54	3.51	3.31	3.2	
⑪予習	3.29	3.11	3.13	3.13	2.97	3.17	3.02	3	2.93	3.17	3.31	3.06	3.15	2.74	2.93	
⑫復習	3.77	3.35	3.56	3.41	3.31	3.35	3.44	3.37	3.26	3.38	3.72	3.22	3.25	2.99	3.04	
⑬理解度	3.65	3.11	3.79	3.54	3.38	3.29	3.52	3.18	3.39	3.33	3.81	3.32	3.31	3.16	3.11	
⑭満足度	3.92	3.29	3.86	3.59	3.38	3.47	3.63	3.29	3.52	3.47	3.92	3.52	3.42	3.25	3.24	
平均	3.72	3.25	3.64	3.44	3.35	3.36	3.47	3.25	3.34	3.37	3.74	3.33	3.33	3.09	3.10	



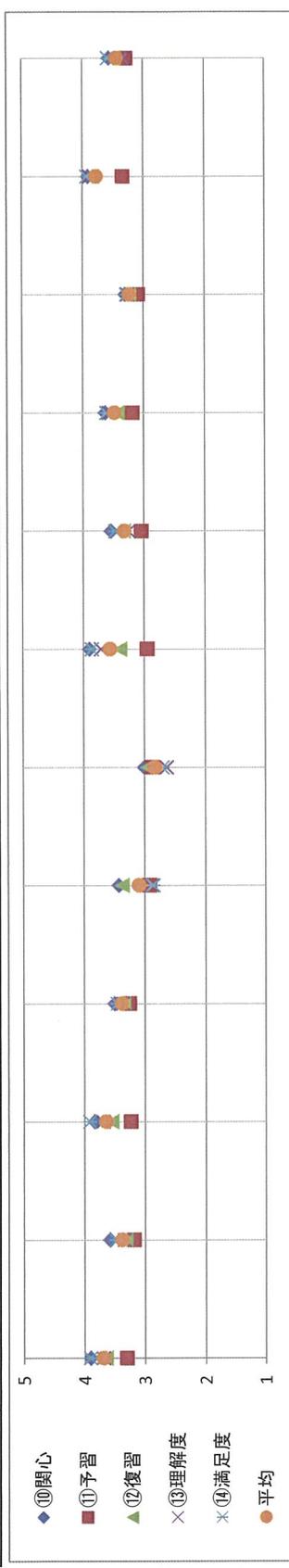
平成28年度 前期 3年生 授業評価(教員評価)②

科目名 教員名	製剤学 村山		医薬品化学Ⅱ 長		環境衛生学Ⅱ 渡辺		物理薬理学 入倉		調剤学 飯盛		薬理学Ⅲ 櫻田	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
クラス	4.15	3.75	4.13	3.98	2.95	2.83	4.26	3.91	3.89	3.4	4.21	4
①重要ポイント	3.91	3.5	4.01	3.66	2.81	2.53	4.07	3.75	3.84	4	4	3.74
②難易度	3.93	3.62	4.01	3.66	2.81	2.72	4.1	3.72	3.88	3.4	4.04	3.79
③進行状況	4.05	3.71	3.9	3.63	2.86	2.74	4.06	3.61	3.65	3.4	3.91	3.74
④工夫	4.22	3.92	4.13	3.86	3.06	2.96	4.3	3.84	3.67	3.4	4.06	3.81
⑤熱意	4.03	3.73	3.82	3.7	2.73	2.74	4.11	3.79	3.82	3.47	4.02	3.72
⑥進め方	4.02	3.85	4.06	3.73	2.71	2.85	4.22	3.84	3.87	3.44	4.09	3.84
⑦話し方	3.84	3.72	3.95	3.8	2.51	2.4	3.74	3.74	3.76	3.4	4.1	3.91
⑧黒板・スライド	3.56	3.68	3.56	3.61	3.06	2.87	3.31	3.41	3.54	3.3	3.55	3.67
⑨注意	3.97	3.72	3.95	3.74	2.83	2.74	4.02	3.73	3.77	3.40	4.00	3.80
平均												



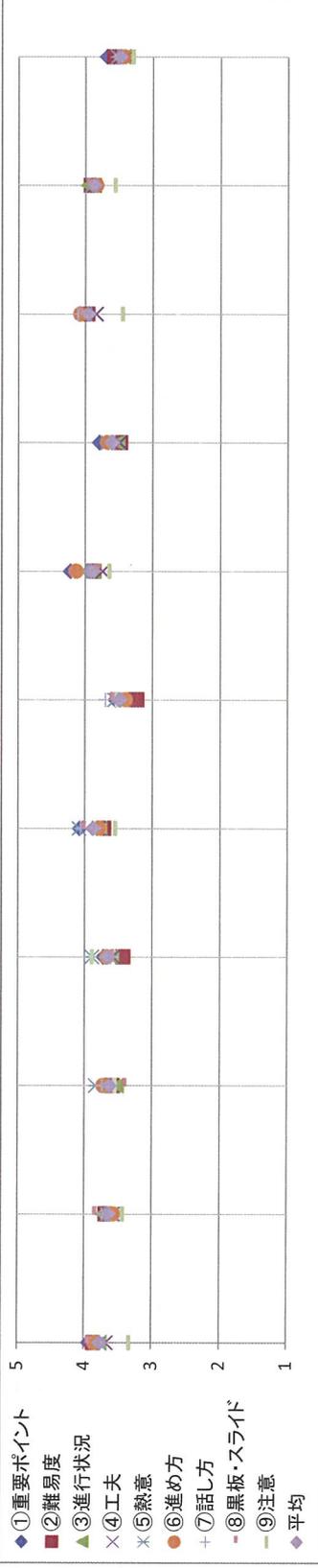
平成28年度 前期 3年生 授業評価(学生自己評価)②

科目名 教員名	製剤学 村山		医薬品化学Ⅱ 長		環境衛生学Ⅱ 渡辺		物理薬理学 入倉		調剤学 飯盛		薬理学Ⅲ 櫻田	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
クラス	3.9	3.58	3.83	3.5	3.43	3	3.9	3.54	3.63	3.3	3.91	3.56
⑩関心	3.3	3.18	3.23	3.25	2.92	2.87	2.95	3.04	3.18	3.09	3.34	3.28
⑪予習	3.65	3.32	3.55	3.35	3.37	2.94	3.4	3.33	3.43	3.23	3.83	3.47
⑫復習	3.69	3.34	3.69	3.36	2.88	2.64	3.71	3.25	3.57	3.26	3.88	3.32
⑬理解度	3.9	3.48	3.91	3.45	2.86	2.71	3.86	3.47	3.61	3.28	3.93	3.58
⑭満足度	3.69	3.38	3.64	3.38	3.09	2.83	3.56	3.33	3.48	3.23	3.78	3.44
平均												



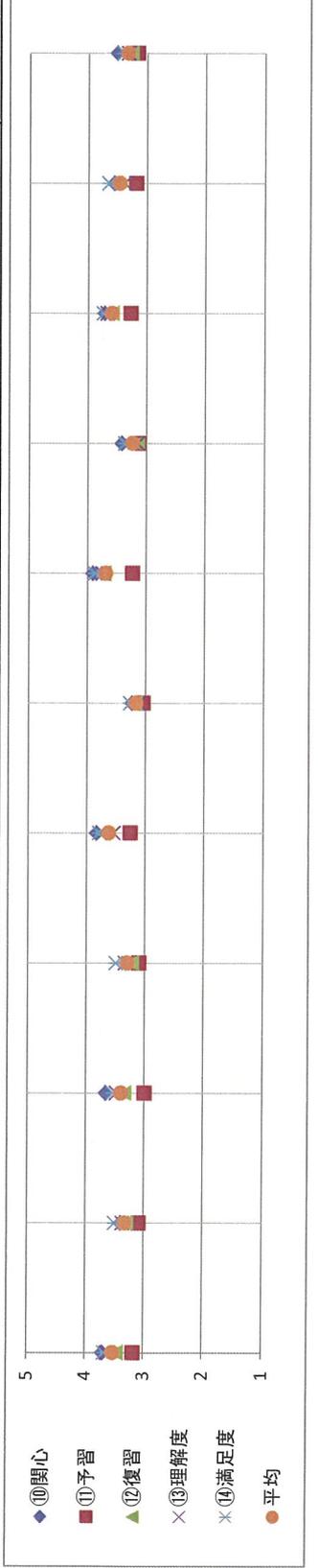
平成28年度 後期 3年生 授業評価(教員評価)①

科目名 教員名	病態生理学Ⅱ 吉武		食品衛生学Ⅱ 戸田		分子生物学 荒牧・高露		薬物動態学Ⅱ 三嶋		薬物治療学Ⅱ 小山		基礎薬学演習Ⅰ 小山他	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	全組	3.68
①重要ポイント	3.93	3.7	3.72	3.55	4.22	3.79	4.08	3.87	4.08	3.87	3.68	3.57
②難易度	3.86	3.68	3.43	3.23	3.87	3.48	3.97	3.92	3.97	3.92	3.57	3.44
③進行状況	3.76	3.73	3.6	3.46	3.88	3.52	4.03	3.97	4.03	3.97	3.44	3.39
④工夫	3.67	3.57	3.58	3.38	3.74	3.49	3.84	3.87	3.84	3.87	3.39	3.52
⑤熟慮	3.76	3.59	3.89	3.56	4.05	3.66	4.01	3.9	4.01	3.9	3.52	3.44
⑥進め方	3.84	3.57	3.67	3.4	4.14	3.67	4.08	3.84	4.08	3.84	3.52	3.5
⑦話し方	3.76	3.73	3.61	3.69	3.86	3.6	4.11	3.87	4.11	3.87	3.52	3.29
⑧黒板・スライド	3.94	3.84	3.4	3.6	3.81	3.62	4.07	3.95	4.07	3.95	3.29	3.48
⑨注意	3.33	3.43	3.89	3.53	3.64	3.61	3.45	3.56	3.45	3.56	3.29	3.48
平均	3.76	3.65	3.66	3.49	3.91	3.60	3.96	3.86	3.96	3.86	3.48	3.48



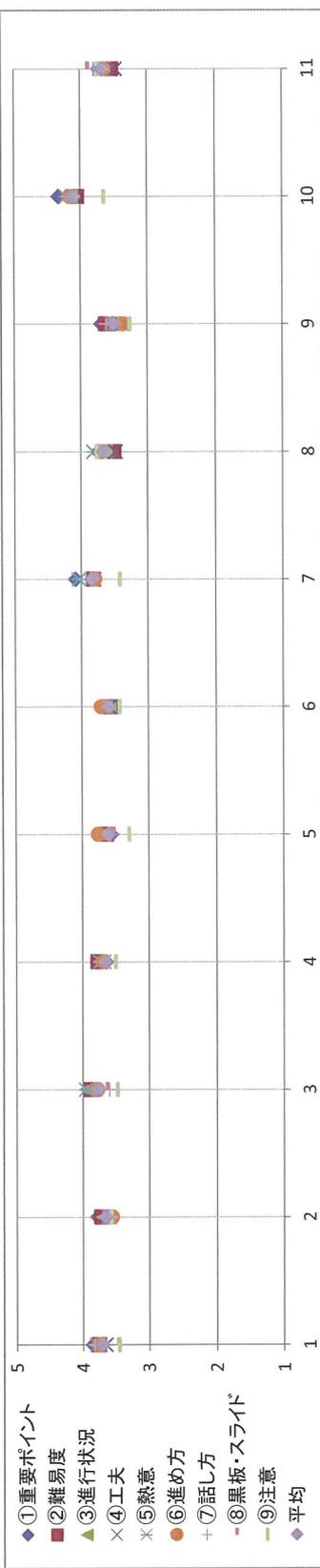
平成28年度 後期 3年生 授業評価(学生自己評価)①

科目名 教員名	病態生理学Ⅱ 吉武		食品衛生学Ⅱ 戸田		分子生物学 荒牧・高露		薬物動態学Ⅱ 三嶋		薬物治療学Ⅱ 小山		基礎薬学演習Ⅰ 小山他	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	全組	3.51
⑩関心	3.7	3.39	3.66	3.32	3.83	3.23	3.91	3.42	3.72	3.56	3.51	3.16
⑪予習	3.17	3.08	2.99	3.09	3.25	3.04	3.23	3.13	3.27	3.18	3.16	3.27
⑫復習	3.46	3.3	3.34	3.22	3.73	3.17	3.72	3.15	3.6	3.56	3.27	3.32
⑬理解度	3.62	3.36	3.47	3.33	3.54	3.12	3.74	3.15	3.67	3.38	3.32	3.39
⑭満足度	3.67	3.5	3.53	3.49	3.78	3.26	3.87	3.36	3.74	3.65	3.39	3.33
平均	3.52	3.33	3.40	3.29	3.63	3.16	3.69	3.24	3.60	3.47	3.33	3.33



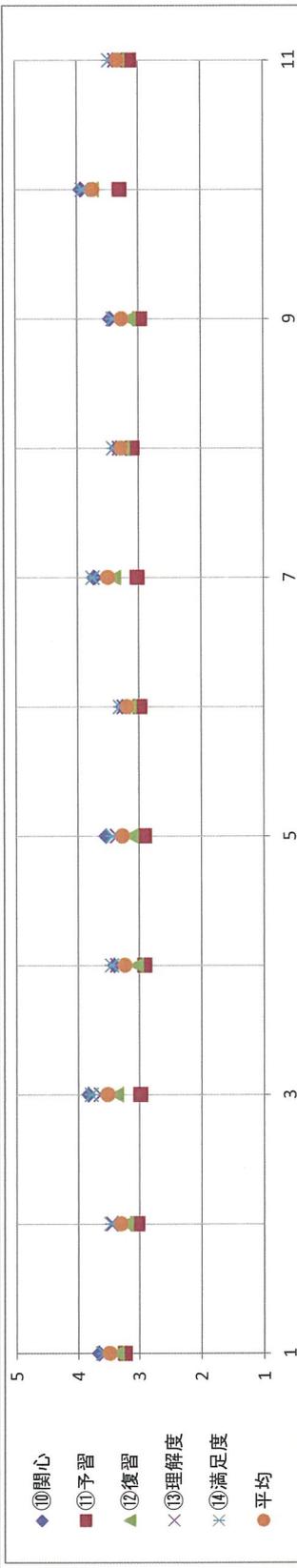
平成28年度 後期 3年生 授業評価(教員評価)②

科目名 教員名	公衆衛生学 小武家		臨床物理分析法 前田(稔)		調剤学 前田(共)		医薬品化学Ⅱ 長		調剤学 飯盛		薬理学Ⅳ 櫻田	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
①重要ポイント	3.85	3.78	3.93	3.64	3.56	3.57	4.08	3.74	3.69	4.33	3.72	3.72
②難易度	3.76	3.72	3.98	3.77	3.66	3.57	3.83	3.5	3.62	4.05	3.53	3.53
③進行状況	3.79	3.69	3.93	3.73	3.69	3.59	3.86	3.64	3.53	4.14	3.65	3.65
④工夫	3.66	3.67	3.83	3.68	3.63	3.59	3.81	3.48	3.38	4.04	3.47	3.47
⑤熱意	3.79	3.61	3.95	3.73	3.7	3.63	4.03	3.81	3.48	4.21	3.67	3.67
⑥進め方	3.76	3.56	3.78	3.68	3.76	3.71	3.8	3.69	3.37	4.16	3.65	3.65
⑦話し方	3.82	3.58	3.6	3.59	3.56	3.59	3.93	3.67	3.61	4.2	3.79	3.79
⑧黒板・スライド	3.46	3.67	3.63	3.5	3.53	3.65	3.76	3.62	3.56	4.19	3.88	3.88
⑨注意	3.45	3.58	3.48	3.5	3.29	3.43	3.42	3.76	3.26	3.65	3.74	3.74
平均	3.70	3.65	3.78	3.65	3.60	3.59	3.84	3.66	3.50	4.11	3.68	3.68



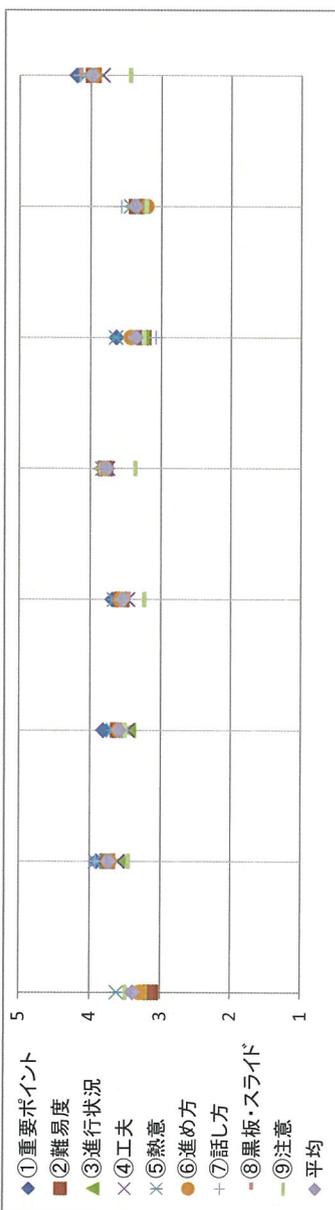
平成28年度 後期 3年生 授業評価(学生自己評価)②

科目名 教員名	公衆衛生学 小武家		臨床物理分析法 前田(稔)		調剤学 前田(共)		医薬品化学Ⅱ 長		調剤学 飯盛		薬理学Ⅳ 櫻田	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
⑩関心	3.66	3.36	3.83	3.41	3.54	3.27	3.73	3.36	3.46	3.94	3.4	3.4
⑪予習	3.24	3.03	2.98	2.91	2.91	2.98	3.02	3.1	2.97	3.3	3.14	3.14
⑫復習	3.37	3.22	3.38	3.05	3.13	3.16	3.41	3.26	3.16	3.75	3.33	3.33
⑬理解度	3.59	3.43	3.63	3.36	3.36	3.25	3.61	3.31	3.38	3.82	3.37	3.37
⑭満足度	3.58	3.46	3.78	3.45	3.43	3.31	3.75	3.41	3.41	3.91	3.47	3.47
平均	3.49	3.30	3.52	3.24	3.27	3.19	3.50	3.29	3.28	3.74	3.34	3.34



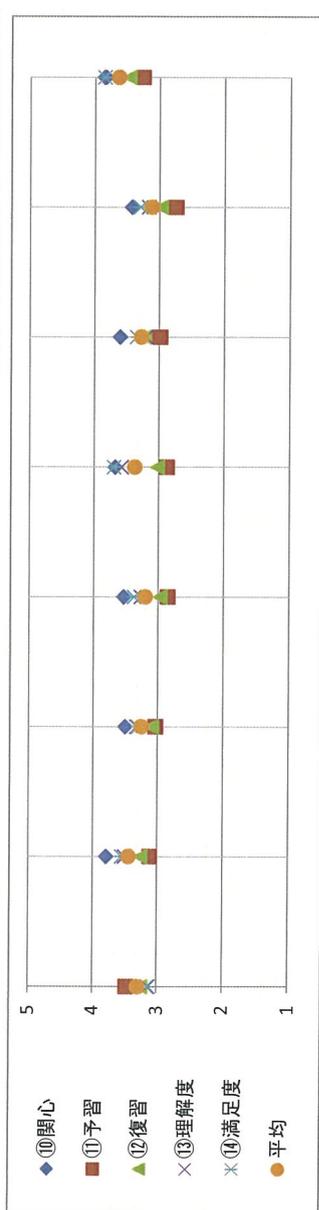
平成28年度 4年生 授業評価(教員評価)①

科目名	臨床薬学英語		薬局方概論		医療安全性学		薬事関係法規・制度Ⅱ		臨床心理学		薬物治療学Ⅲ		薬事関係法規・制度Ⅰ	
	エッブ	全組	横山	全組	下園	全組	小武家	全組	松田(輝)	全組	森山	全組	川野	全組
①重要ポイント	3.12	3.28	3.74	3.54	3.45	3.46	3.55	3.61	3.78	3.78	3.25	3.35	3.42	4.04
②難易度	3.12	3.28	3.74	3.54	3.45	3.46	3.55	3.61	3.78	3.78	3.25	3.35	3.42	4.04
③進行状況	3.12	3.28	3.74	3.54	3.45	3.46	3.55	3.61	3.78	3.78	3.25	3.35	3.42	4.04
④工夫	3.12	3.28	3.74	3.54	3.45	3.46	3.55	3.61	3.78	3.78	3.25	3.35	3.42	4.04
⑤熟意	3.12	3.28	3.74	3.54	3.45	3.46	3.55	3.61	3.78	3.78	3.25	3.35	3.42	4.04
⑥進め方	3.12	3.28	3.74	3.54	3.45	3.46	3.55	3.61	3.78	3.78	3.25	3.35	3.42	4.04
⑦話し方	3.12	3.28	3.74	3.54	3.45	3.46	3.55	3.61	3.78	3.78	3.25	3.35	3.42	4.04
⑧黒板・スライド	3.12	3.28	3.74	3.54	3.45	3.46	3.55	3.61	3.78	3.78	3.25	3.35	3.42	4.04
⑨注意	3.12	3.28	3.74	3.54	3.45	3.46	3.55	3.61	3.78	3.78	3.25	3.35	3.42	4.04
平均	3.38	3.38	3.73	3.73	3.58	3.53	3.53	3.53	3.76	3.76	3.36	3.35	3.35	3.97



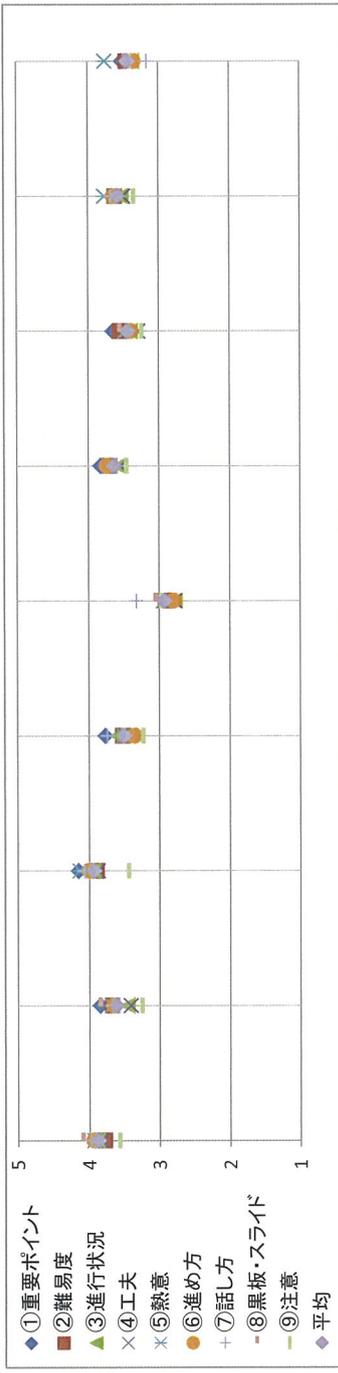
平成28年度 4年生 授業評価(学生自己評価)①

科目名	臨床薬学英語		薬局方概論		医療安全性学		薬事関係法規・制度Ⅱ		臨床心理学		薬物治療学Ⅲ		薬事関係法規・制度Ⅰ	
	エッブ	全組	横山	全組	下園	全組	小武家	全組	松田(輝)	全組	森山	全組	川野	全組
⑩関心	3.47	3.11	3.11	3.03	3.03	2.85	2.85	2.87	2.87	2.98	3.6	3.42	3.85	3.25
⑪予習	3.25	3.26	3.26	3.09	3.09	2.97	2.97	3.02	3.02	3.23	3.23	2.74	3.47	3.72
⑫理解度	3.13	3.5	3.5	3.32	3.32	3.26	3.26	3.57	3.57	3.2	3.2	3.16	3.29	3.85
⑬満足度	3.15	3.55	3.55	3.3	3.3	3.37	3.37	3.69	3.69	3.34	3.34	3.29	3.85	3.63
平均	3.30	3.44	3.44	3.25	3.25	3.20	3.20	3.36	3.36	3.27	3.27	3.12	3.12	3.63



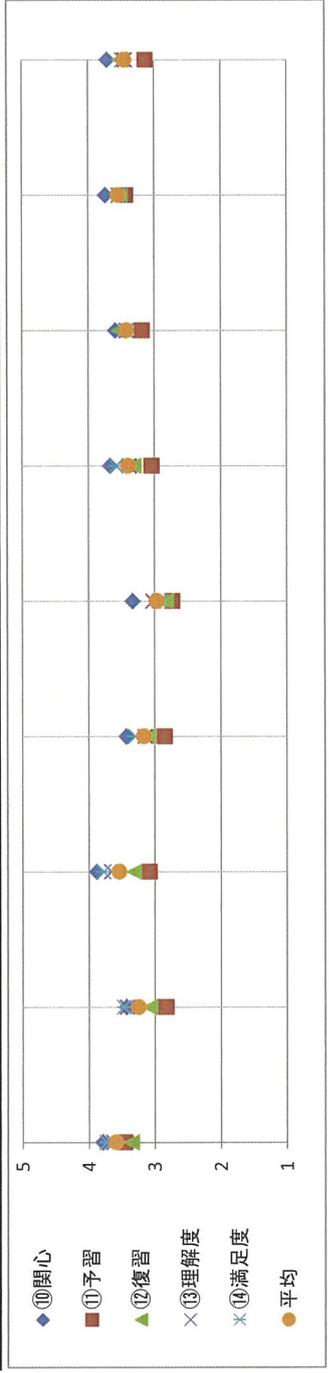
平成28年度 4年生 授業評価(教員評価)②

科目名	臨床薬学英語	医薬品情報学	臨床分析化学	臨床薬物動態学	医薬品情報学	漢方概論	薬学演習	衛生薬学演習	薬物治療学Ⅳ
大光	3.79	3.46	3.95	3.6	2.78	3.54	3.4	3.5	3.44
全組	3.84	3.41	3.88	3.31	2.78	3.54	3.29	3.5	3.44
①重要ポイント	3.92	3.68	4.15	3.77	2.83	3.83	3.65	3.66	3.52
②難易度	3.79	3.46	3.95	3.52	2.91	3.7	3.55	3.62	3.45
③進行状況	3.9	3.46	3.95	3.6	2.78	3.57	3.4	3.53	3.37
④工夫	3.84	3.41	3.88	3.31	2.78	3.54	3.29	3.5	3.44
⑤熟意	3.93	3.68	4.13	3.5	2.94	3.7	3.47	3.77	3.76
⑥進め方	3.94	3.65	4	3.35	2.8	3.74	3.4	3.64	3.35
⑦話し方	3.97	3.67	4.06	3.74	3.32	3.59	3.44	3.68	3.16
⑧黒板・スライド	4.09	3.85	3.95	3.51	3.05	3.61	3.55	3.55	3.47
⑨注意	3.57	3.25	3.44	3.23	2.97	3.46	3.24	3.35	3.41
平均	3.88	3.61	3.94	3.50	2.93	3.64	3.44	3.59	3.44



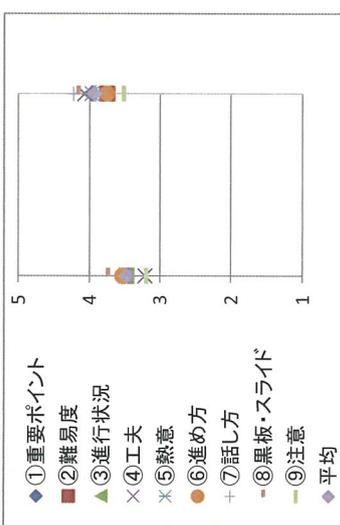
平成28年度 4年生 授業評価(学生自己評価)②

科目名	臨床薬学英語	医薬品情報学	臨床分析化学	臨床薬物動態学	医薬品情報学	漢方概論	薬学演習	衛生薬学演習	薬物治療学Ⅳ
大光	3.79	3.43	3.88	3.43	3.33	3.67	3.59	3.74	3.71
全組	3.45	2.83	3.08	2.85	2.73	3.04	3.18	3.43	3.13
⑩関心	3.35	3.08	3.31	3.1	2.83	3.31	3.52	3.51	3.51
⑪予習	3.63	3.42	3.66	3.14	3.02	3.38	3.41	3.53	3.44
⑫復習	3.73	3.47	3.78	3.29	2.92	3.58	3.43	3.54	3.48
⑬理解度	3.59	3.25	3.54	3.16	2.97	3.40	3.43	3.55	3.45
⑭満足度	3.59	3.25	3.54	3.16	2.97	3.40	3.43	3.55	3.45
平均	3.59	3.25	3.54	3.16	2.97	3.40	3.43	3.55	3.45



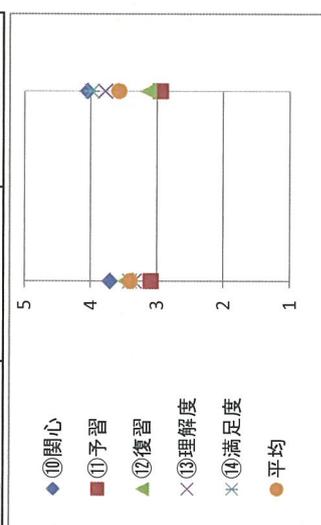
平成28年度 5年生 授業評価(教員評価)

科目名	医療統計学	診療科別治療論
教員名	大脇	小山他
クラス	全組	全組
①重要ポイント	3.53	3.97
②難易度	3.48	3.75
③進行状況	3.48	4.02
④工夫	3.21	4.07
⑤熱意	3.48	3.97
⑥進め方	3.54	3.75
⑦話し方	3.48	4.23
⑧黒板・スライド	3.74	4.16
⑨注意	3.2	3.52
平均	3.46	3.94



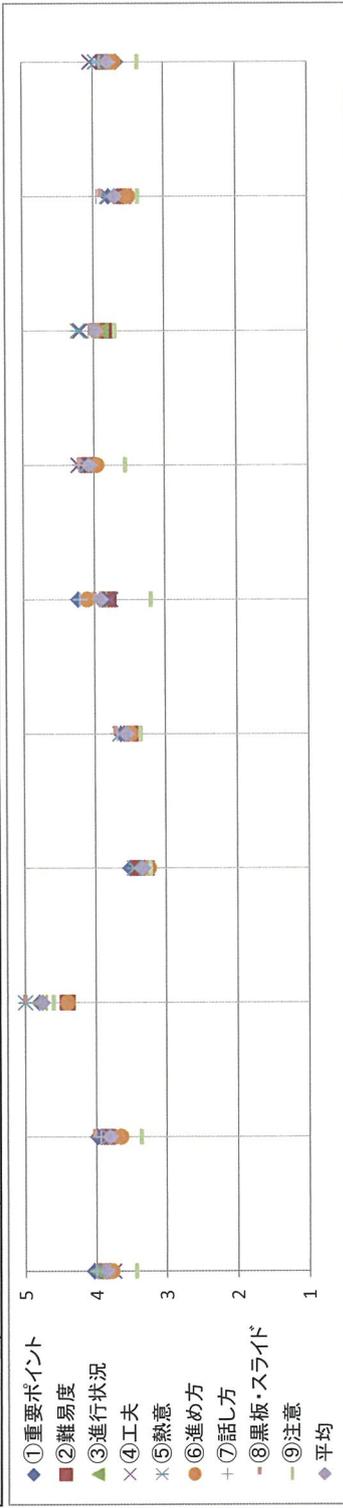
平成28年度 5年生 授業評価(学生自己評価)

科目名	医療統計学	診療科別治療論
教員名	大脇	小山他
クラス	全組	全組
⑩関心	3.71	4.05
⑪予習	3.09	2.95
⑫復習	3.47	3.13
⑬理解度	3.34	3.78
⑭満足度	3.41	3.98
平均	3.40	3.58



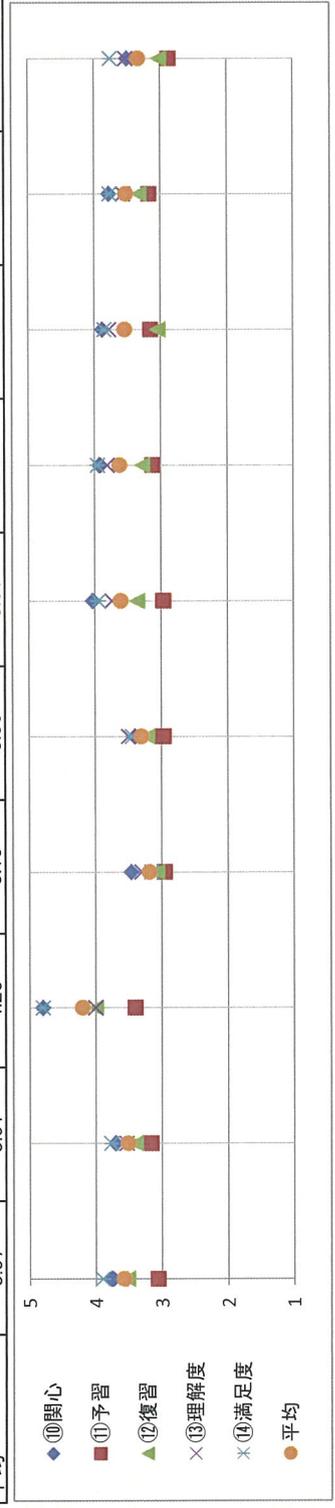
平成28年度 6年生 授業評価(教員評価)

科目名	処方解析学	診療科別治療特論	ゲノム創薬論	薬学総合演習	医薬品開発論	漢方疾患治療論	健康管理学	ターミナルケア論	救急医療概論	地域薬局論
教員名	安藤 全組	香月他 全組	荒牧 全組	松原他 全組	松田 全組	城戸 全組	藤井 全組	二ノ坂 全組	吉武他 全組	有吉 全組
クラス	4.03	3.98	4.8	3.51	3.63	4.23	4.17	3.85	3.78	3.67
①重要ポイント	3.89	3.84	4.4	3.4	3.49	3.8	4.09	3.81	3.56	3.84
②難易度	3.98	3.77	4.8	3.29	3.57	3.93	4.07	3.89	3.63	3.84
③進行状況	3.75	3.88	5	3.27	3.43	3.77	4.22	4.19	3.78	4.04
④工夫	3.87	3.81	5	3.45	3.65	4	4.1	4.22	3.8	3.96
⑤熱意	3.78	3.65	4.4	3.24	3.49	4.1	3.96	3.96	3.51	3.71
⑥進め方	4	3.93	4.8	3.35	3.68	4.2	4.21	4.07	3.95	3.9
⑦話し方	3.89	4.02	5	3.23	3.71	4	4.21	4.04	3.9	3.8
⑧黒板・スライド	3.43	3.36	4.6	3.22	3.35	3.2	3.56	3.7	3.37	3.37
⑨注意	3.85	3.80	4.76	3.33	3.56	3.91	4.07	3.97	3.70	3.79
平均										



平成28年度 6年生 授業評価(学生自己評価)

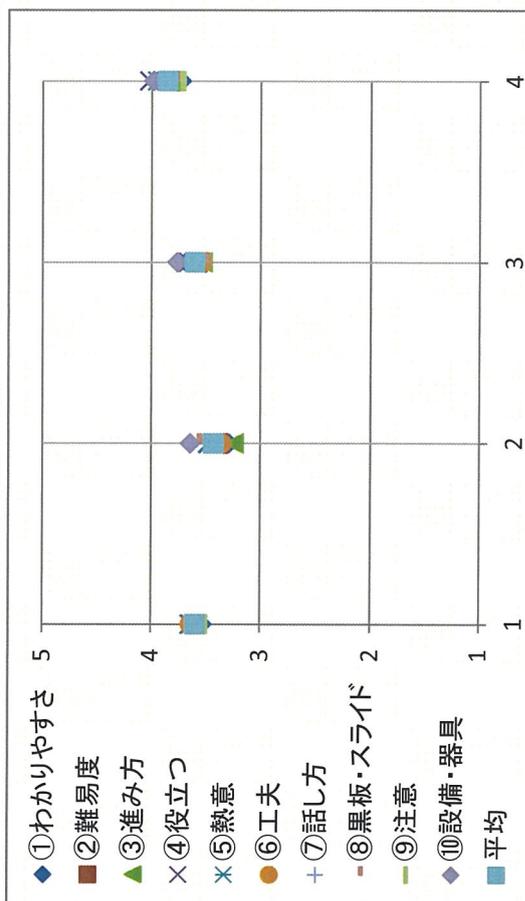
科目名	処方解析学	診療科別治療特論	ゲノム創薬論	薬学総合演習	医薬品開発論	漢方疾患治療論	健康管理学	ターミナルケア論	救急医療概論	地域薬局論
教員名	安藤 全組	香月他 全組	荒牧 全組	松原他 全組	松田 全組	城戸 全組	藤井 全組	二ノ坂 全組	吉武他 全組	有吉 全組
クラス	3.76	3.7	4.8	3.46	3.4	4.03	3.93	3.88	3.78	3.5
⑩関心	3.06	3.16	3.4	2.96	2.97	2.97	3.13	3.15	3.17	2.88
⑪予習	3.52	3.4	4	3.07	3.21	3.36	3.28	3.04	3.32	3.02
⑫復習	3.63	3.53	4	3.3	3.49	3.74	3.81	3.78	3.56	3.52
⑬理解度	3.9	3.77	4.8	3.15	3.44	3.95	3.96	3.85	3.77	3.76
⑭満足度	3.57	3.51	4.20	3.19	3.30	3.61	3.62	3.54	3.52	3.34
平均										



平成28年度 2年生 実習評価

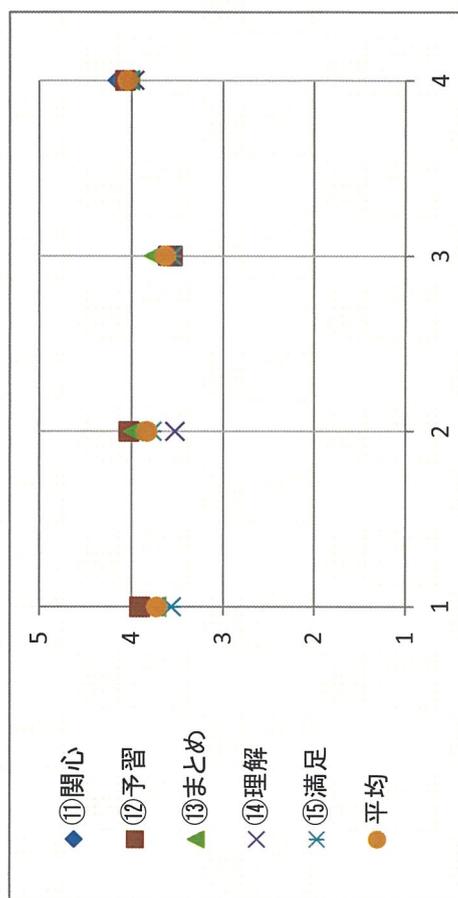
<教員評価>

科目名 教員名	物理系実習			化学系実習		
	1・2組	3・4組	原口他	1・2組	3・4組	増田他
クラス						
①わかりやすさ	3.53	3.29	3.68	3.68	3.73	3.73
②難易度	3.59	3.38	3.58	3.58	3.83	3.83
③進み方	3.61	3.24	3.53	3.53	3.83	3.83
④役立つ	3.64	3.47	3.66	3.66	4.02	4.02
⑤熱意	3.63	3.48	3.6	3.6	3.95	3.95
⑥工夫	3.63	3.36	3.54	3.54	3.86	3.86
⑦話し方	3.59	3.45	3.53	3.53	3.85	3.85
⑧黒板・スライド	3.61	3.55	3.49	3.49	3.76	3.76
⑨注意	3.5	3.4	3.64	3.64	3.71	3.71
⑩設備・器具	3.59	3.64	3.76	3.76	3.98	3.98
平均	3.59	3.43	3.60	3.60	3.85	3.85



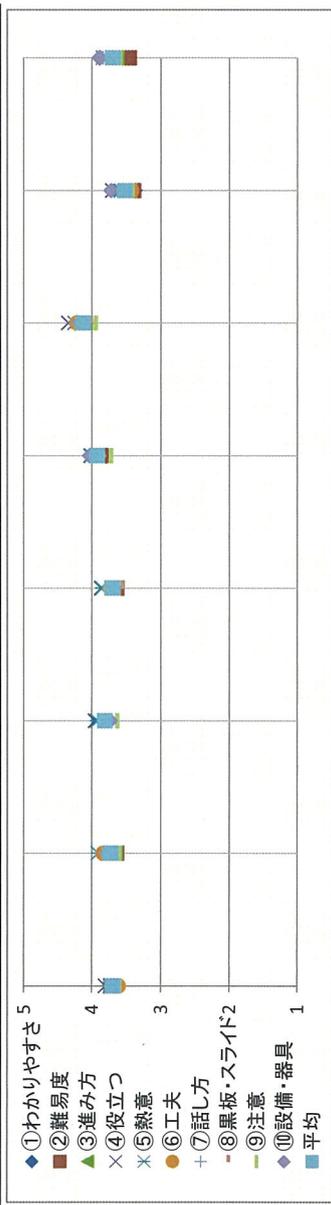
<学生自己評価>

科目名 教員名	物理系実習			化学系実習		
	1・2組	3・4組	原口他	1・2組	3・4組	増田他
クラス						
①関心	3.86	3.84	3.84	3.69	4.15	4.15
②予習	3.91	4.03	4.03	3.56	4.07	4.07
③まとめ	3.73	3.98	3.98	3.76	4.02	4.02
④理解	3.57	3.53	3.53	3.61	3.97	3.97
⑤満足	3.57	3.78	3.78	3.56	4.02	4.02
平均	3.73	3.83	3.83	3.64	4.05	4.05



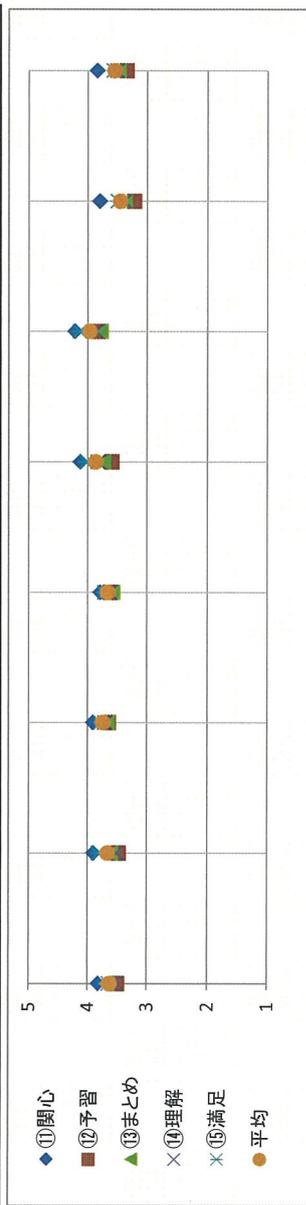
平成28年度 3年生 実習評価(教員評価)

科目名 教員名	衛生化学実習 戸田			薬理学実習 森山・小山			薬劑系実習 村山			薬劑系実習 入倉		
	1・2組	3・4組	平均	1・2組	3・4組	平均	1・2組	3・4組	平均	1・2組	3・4組	平均
	クラス	3.67	3.66	3.71	3.84	3.71	3.71	3.91	4.09	3.98	3.38	3.56
①わかりやすさ	3.71	3.64	3.81	3.81	3.64	3.72	3.87	4.13	3.78	3.4	3.46	3.64
②難易度	3.74	3.66	3.85	3.7	3.85	3.77	3.92	4.1	3.85	3.45	3.64	3.78
③進み方	3.8	3.91	3.95	3.86	3.86	3.86	4.02	4.35	3.7	3.7	3.78	3.84
④役立つ	3.73	3.91	3.92	3.85	3.85	3.85	4.01	4.26	3.58	3.58	3.84	3.69
⑤熱意	3.61	3.83	3.81	3.73	3.73	3.73	3.91	4.22	3.43	3.43	3.69	3.59
⑥工夫	3.72	3.65	3.8	3.74	3.74	3.74	3.89	4.02	3.62	3.62	3.84	3.78
⑦話し方	3.69	3.68	3.78	3.68	3.68	3.68	3.97	4.02	3.5	3.5	3.69	3.89
⑧黒板・スライド	3.6	3.6	3.63	3.63	3.63	3.63	3.72	3.94	3.42	3.42	3.59	3.89
⑨注意	3.71	3.78	3.73	3.73	3.73	3.73	4.03	4.19	3.72	3.72	3.89	3.70
⑩設備・器具	3.70	3.73	3.81	3.81	3.81	3.81	3.93	4.13	3.52	3.52	3.70	3.70
平均												



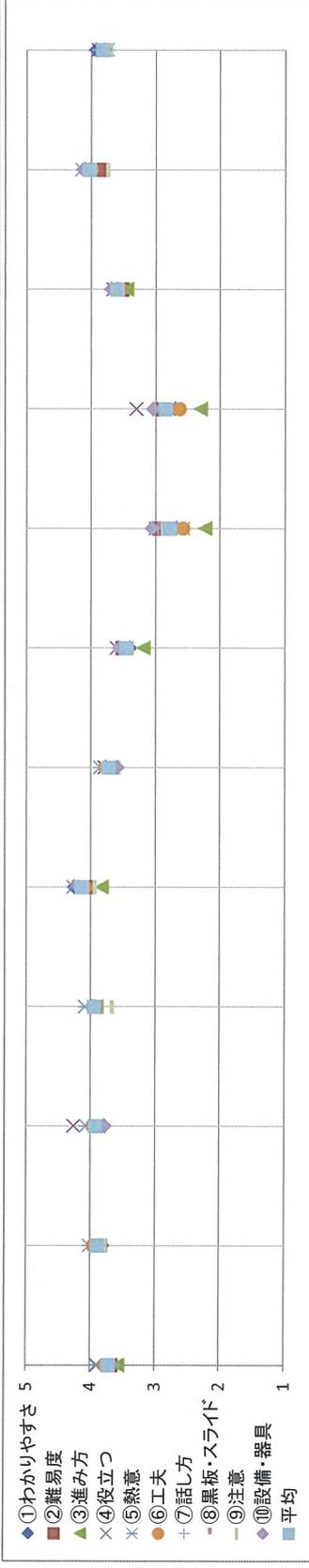
平成28年度 3年生 実習評価(学生自己評価)

科目名 教員名	衛生化学実習 戸田			薬理学実習 森山・小山			薬劑系実習 村山			薬劑系実習 入倉		
	1・2組	3・4組	平均	1・2組	3・4組	平均	1・2組	3・4組	平均	1・2組	3・4組	平均
	クラス	3.82	3.9	3.91	3.79	3.79	3.79	4.13	4.22	3.8	3.88	3.84
①関心	3.5	3.48	3.65	3.61	3.61	3.61	3.6	3.83	3.22	3.35	3.49	3.51
②予習	3.67	3.61	3.67	3.58	3.58	3.58	3.74	3.78	3.38	3.38	3.49	3.57
③まとめ	3.52	3.51	3.71	3.63	3.63	3.63	3.83	3.86	3.39	3.39	3.51	3.57
④理解	3.64	3.82	3.78	3.72	3.72	3.72	4.03	4.14	3.5	3.5	3.57	3.55
⑤満足	3.63	3.66	3.74	3.67	3.67	3.67	3.87	3.97	3.46	3.46	3.55	3.55
平均												



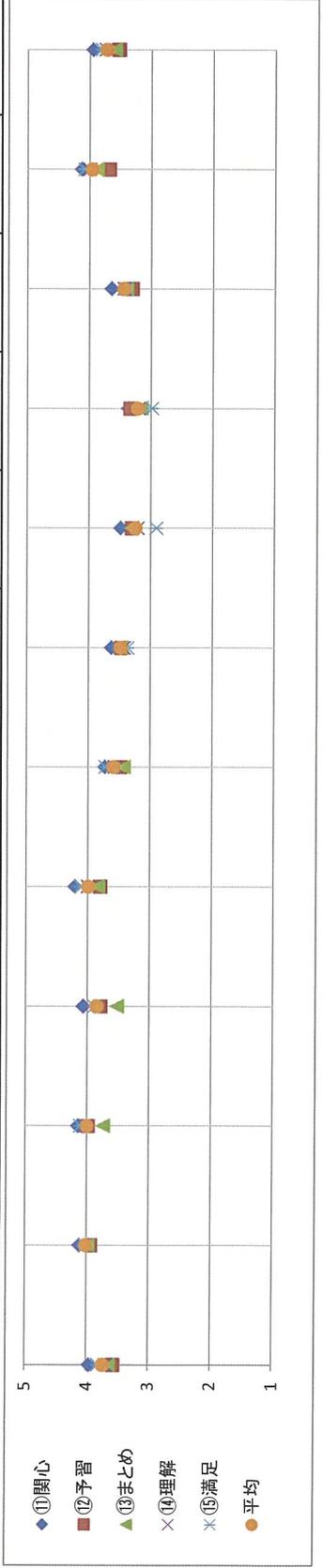
平成28年度 4年生 実習評価(教員評価)

科目名 教員名	実務実習事前学習Ⅰ 前田(共)			実務実習事前学習Ⅱ 大光			実務実習事前学習Ⅲ 飯盛			実務実習事前学習(無菌) 三嶋		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
①わかりやすさ	3.65	3.81	3.8	3.98	4.25	3.77	3.4	2.68	2.7	3.59	4.1	3.93
②難易度	3.67	3.84	3.91	3.93	4.04	3.7	3.51	2.94	2.91	3.52	3.85	3.82
③進み方	3.57	3.86	3.98	3.91	3.83	3.7	3.19	2.23	2.3	3.45	4.13	3.82
④役立ち	3.89	4.02	4.26	4.09	4.27	3.79	3.6	3	3.3	3.66	4.03	3.89
⑤熱意	3.91	4.02	4.07	4.09	4.27	3.86	3.44	2.57	2.78	3.65	4.15	3.75
⑥工夫	3.76	3.95	3.96	3.96	4.08	3.77	3.44	2.57	2.63	3.55	4	3.8
⑦話し方	3.63	3.88	3.87	3.98	4.23	3.77	3.46	2.96	2.89	3.68	4.08	3.89
⑧黒板・スライド	3.63	3.84	3.85	3.91	4.26	3.7	3.4	2.91	2.87	3.6	4.05	3.82
⑨注意	3.74	3.77	3.78	3.67	3.94	3.57	3.45	2.89	3.04	3.57	3.74	3.7
⑩設備・器具	3.7	3.88	3.78	3.93	4.19	3.59	3.56	3.06	3.04	3.69	4.13	3.8
平均	3.72	3.89	3.93	3.95	4.14	3.72	3.45	2.78	2.85	3.60	4.03	3.82



平成28年度 4年生 実習評価(学生自己評価)

科目名 教員名	実務実習事前学習Ⅰ 前田(共)			実務実習事前学習Ⅱ 大光			実務実習事前学習Ⅲ 飯盛			実務実習事前学習(無菌) 三嶋		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
⑪関心	3.96	4.12	4.15	4.07	4.21	3.73	3.63	3.49	3.37	3.64	4.13	3.95
⑫予習	3.56	3.93	3.98	3.78	3.79	3.48	3.47	3.3	3.33	3.3	3.68	3.52
⑬まとめ	3.64	3.98	3.74	3.52	3.83	3.43	3.48	3.3	3.16	3.4	3.88	3.59
⑭理解	3.68	4.02	4.02	3.96	4	3.57	3.43	3.21	3.2	3.44	4	3.74
⑮満足	3.81	4.02	4.11	3.89	4.11	3.72	3.37	2.91	2.98	3.41	4.08	3.8
平均	3.73	4.01	4.00	3.84	3.99	3.59	3.48	3.24	3.21	3.44	3.95	3.72



3. 学生コメント総括

平成 28 年度 学生による授業および実習評価アンケートのコメント欄に記載された代表的な内容を以下に記す。

【授業】

<良かった点>	<改善してほしい点>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 例え話（身近な事例）や豆知識 ・ 毎回、宿題や小テストがある ・ まとまったプリント ・ どうしてそうなるかを説明してくれる ・ 講義の概要がわかるイントロダクション ・ パワーポイントが工夫されている ・ 講義の重要ポイント、覚えることが明示されている ・ 臨床的な話（将来的な話） ・ 他職種視点からの話 ・ メリハリのある授業（適切な余談） ・ 試験前の演習 ・ 黒板の字が大きい ・ 小テスト、問題プリント ・ 要点がまとまったプリント ・ 質問に丁寧に答えてくれる ・ 前回の復習を軽く入れる ・ 重要ポイントの明示 ・ 見やすいスライド ・ 小テストに添削が入る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題を解く機会を増やしてほしい（小テスト、宿題、演習） ・ パワーポイント、板書の字（サイズ、色、誤字、省略字） ・ スライドが速い ・ テスト範囲を明示してほしい（教科書のページ数など） ・ 提出物を返却しない場合、プリントを2部ほしい（プリントを多めに準備） ・ ノートを書く時間の確保 ・ 授業の終了はゆとりをもってほしい（質問の時間を確保） ・ 後方の席で私語をする人を注意してほしい ・ あいまいな説明、学生が不安になる発言、プレッシャーを感じる発言は控えてほしい ・ 授業前にスライドをアップしてほしい ・ 重要ポイント、覚えるポイントは厳選するか優先順位を示してほしい ・ 口頭だけでの説明 ・ 時間配分（後半のスピード、講義延長、補講） ・ 課題の答えが欲しい ・ 複数教員による講義は、授業形式・レベルを合せて欲しい（同じ科目は1人の先生で教えてもらいたい） ・ 黒板の字をきれいに（読みやすく）書いて欲しい ・ 時間オーバー ・ ホワイトボードの字を濃くして欲しい ・ 補足が多すぎる（事前資料に載せて欲しい）

	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻 ・話を聞くだけの授業 ・スライドのアップを早めにして欲しい ・テキストの誤字脱字
--	---

【実習】

<良かった点>	<改善してほしい点>
<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な指導 ・実習前の説明がわかりやすい（スライド、デモ） ・実際に機械などに触れて使い方を学ぶところ 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習時間の長さ（班によって差がある） ・器具の不足 ・レポート提出期限が早い ・実習指導内容を先生方で統一して欲しい ・デモをして欲しい ・待ち時間が長い ・長い説明

FD委員会の見解

【良かった点】

・要点がまとまった資料や重要ポイントを明確に伝える授業を高評価する学生が多い。また、小テストや問題演習で出題例を明示することも定期試験に向けての勉強方法が明確になるため学生評価が高い。特にクォーター制の学年は短期間で定期試験に臨むためか、これらのことについて高評価する学生が多かった。

・教員の手間はかかるが、レポートや小テストをきちんと添削し返却することも評価されている。

【改善してほしい点】

・複数教員で担当する授業、実習については、指導方針などの統一性がなく学生が混乱しているようである。事前に綿密な打ち合わせを実施する必要がある。

・話が飛ぶ授業や資料に載っていない情報の補足は、授業の流れが遮られるため、学生の集中力や授業に対するモチベーションが下がるように思われる。

【全体としての印象】

・メリハリがありテンポのよい授業、実習が高評価される。
 ・なぜこの授業、実習をやっているのか（将来のどこにつながるのか）がわかる説明が好まれる。

・先生の努力が垣間見える資料や授業展開は高評価される。

教員相互授業参観報告

平成 28 年度

平成 28 年度「教員相互授業参観」実施要領

FD 委員会

1. 目的

教員の講義力向上の一助とするとともに、受講している学生の受講態度等を観察し、教員が授業の現状理解を深めることを目的とする。

2. 期間

第 1 回目： 5 月 2 日～ 6 月 30 日

第 2 回目： 10 月 1 日～11 月 30 日

3. 要領

- ①第 1 回と第 2 回の実施期間に、少なくとも年 1 回実施（参観）すること。
- ②1 年生、2 年生、3 年生、4 年生の講義授業科目を対象とし、実習科目や演習科目は除く。
- ③授業参観者は、原則として、講座内の教員の参観対象科目（1～4 年次の科目）から、参観したい科目を選ぶこと。センターの教員は、ご自身の講義科目に近い講座内から選択をお願いします。
- ④参観希望者は、前もって E メールなどで講義担当者の許諾を得ておく。
- ⑤参観時間は 30 分以上とする。
- ⑥参観者は、参観終了後、感想用紙（下記⑧参照）に感想を記入し、電子ファイルをメールアドレス（安川）：k-yasukawa@daiichi-cps.ac.jp 宛てに添付メールで提出する。
- ⑦感想用紙の提出は、第 1 回目は 7 月 6 日、第 2 回目は 12 月 6 日までとする。
- ⑧感想用紙は、dysv10 → public_new → 委員会 → FD 委員会 → 教員相互授業参観 → 平成 28 年度 → 「H28 授業参観感想用紙.docx」を使用する。

4. 附記

- ・ 提出された感想用紙は FD 委員会（委員長）が保管し、コピーを講義担当教員に渡すものとする。また翌年度の授業参観実施のための参考資料とする。
- ・ 第 1 回目と第 2 回目の感想提出教員のリスト等を、各回提出期限後に行われる教員連絡会議にて連絡する。

平成28年度「相互授業参観」感想用紙

参観日時	月 日 時限	参観者名	
学年・学期 講義名	(年 期)	講義担当 者	

(1) 感想（良かった点・参考になったこと等）のご記入をお願いします。

--

(2) 参観者から見た学生の様子

--

平成 28 年度前半 教員相互授業参観感想

平成 28 年 5 月 2 日～6 月 30 日 (前半) の教員相互授業参観感想の提出状況

	学年	クラス	参観日	参観者名	講義名	講義担当者名
1	1	B	2016/6/27	栞田 厚司	有機化学 I	白谷 智宣
2	1	B	2016/6/27	小川 鶴洋	薬用資源学	森永 紀
3	1	B	2016/6/28	白谷 智宣	薬用資源学	森永 紀
4	1	B	2016/6/28	池谷 幸信	薬用資源学	森永 紀
5	2	A	2016/5/9	下園 拓郎	薬理学 I	濱村 賢吾
6	2	A	2016/5/9	岡野 善郎	薬理学 I	濱村 賢吾
7	2	B	2016/5/18	飯塚 晃	薬理学 I	濱村 賢吾
8	2	A	2016/5/27	横山 さゆり	分析化学 I	藤井 由希子
9	2	B	2016/5/30	増田 寿伸	有機化学 III	白谷 智宣
10	2	B	2016/5/30	濱村 賢吾	生命科学 I	都築 稔
11	2	A	2016/6/29	安川 圭司	放射化学	原口 浩一
12	3	B	2016/5/18	副田 二三夫	食品衛生学 I	戸田 晶久
13	3	B	2016/6/14	大脇 裕一	物理薬剤学	入倉 充
14	3	A	2016/6/17	戸田 晶久	医薬品化学 II	長 普子
15	3	A	2016/6/29	小武家 優子	食品衛生学 I	戸田 晶久
16	3	B	2016/6/29	廣村 信	食品衛生学 I	戸田 晶久
17	3	B	2016/7/11	長 普子	環境衛生学 II	渡辺 和人
18	4	—	2016/5/17	城戸 克己	漢方概論	福田 直通
19	4	—	2016/5/18	香川 正太	臨床分析化学	長島 史裕
20	4	—	2016/5/25	小川 和加野	薬物治療学 III	森山 峰博
21	4	—	2016/6/8	大光 正男	薬事関係法規・制度 I	川野 愛
22	4	—	2016/6/10	入倉 充	医薬品情報学	大脇 裕一
23	4	—	2016/6/22	森内 宏志	薬事関係法規・制度 I	大光 正男
24	6	—	2016/5/27	村山 恵子	処方解析学	安藤 伸一郎

(1) 感想 (良かった点・参考になったこと等) のご記入をお願いします。「1年」

白谷先生 (有機化学 I ; B クラス)

プレゼンは大きくて見やすく、説明は丁寧でゆっくりとした言葉遣いが分かりやすいと思いました。また、繰り返し理解してほしいところを強調されていました。印象に残った言葉として、

- ①ファクター ②憶えていてください。重要です。
- ③構造式は正確に書いてください。(理解度が分かります。)
- ④図中で重要なところは、特に数値で比較できるので、大切にしてください。
- ⑤アルカンの単結合とアルキンとアルケンの多重 (二重と三重) 結合との相違性 (距離、形等) が、特徴であることを強調されていました。

内容としては、sp 混成軌道について説明され、まとめとして sp 混成軌道、sp² 混成軌道、sp³ 混成軌道について化学構造と数値に基づいて比較されていました。また、s 軌道は球状で原子核に引かれている。距離が長い p 軌道はくびれているので引きつける強さは s に比べて小さい。よって、最も短い距離の C-H 結合→s 性が大きく→電気陰性度が大きい等。分かりやすく説明されていたと思いました。

森永先生 (薬用資源学 ; B クラス)

○講義は、確認小試験の解説、講義、小テストと流れており、学生がいま覚えるべきことその都度確認しているので、学生も講義に対して真摯に取り組んでいて、受講態度はきわめてよかった。講義資料が事前に配布されおり、講義は、その資料で説明され、必要ところは教科書で補うというふうに進められていた。また、いまどこを説明しているかは、スライドで示しながら行うので、学生が認識しやすいように工夫がされていた。また、資料には練習問題もついていて、学生が講義中でも演習できるようになっていた。説明では、声の大きさも適度で、あまり急ぐような口調ではないので、非常に聞き取りやすく、また、繰り返して説明したり、学生が興味をもつような例えを交えながら説明をするので、学生も理解しやすいのではないかと思います。また、1年生の講義ということもあってか、非常に基本的なところから説明されるので、基礎学力が乏しい学生であってもついていけるように気にかけているところが見受けられた。同じ1年生を教える立場として、大変勉強になりました。ありがとうございました。

○パワーポイントと板書による講義であった。教科書を中心として、教科書の不足分をプリントとして受講生に配付されていた。板書の仕方については、ノートが取りやすいように大きな文字でゆっくりと板書されていた。最後列の受講生でもはっきり聞こえるよう一定速度で丁寧に講義されていることが印象に残った。学生は講義内容を聞き取りやすく感じていると思われる。プリントはポイントとなる部分が空白となっていて、受講生が聴講して埋めていくという形式のものであり、重要事項を書くことによって記憶しやすいように配慮されていることも参考になった。自分の講義と照らし合わせ、話す速度や丁寧な話

し方が今後の自分の授業方法に大変参考になりました。

○講義を参観した上で、以下に箇条書きで挙げたことが本講義の良い点であり、理解しやすい講義であったと評価する。

- ・スライドを主にするのではなく、教科書に準拠している(引くべき点が明らか)
- ・噛み砕かれた内容で、例や喩えなども汎用されている
- ・実物の写真等を用いた説明により生薬薬用部位の解説が十分にできていた
- ・臨床上重要になる情報を加えている点

本講義に対する改善点は写真だけでなく実物に触れてもらう機会や標本などを用いた体験型のものにするによりよくなると考えられる。加えて、講義を行う環境には幾何か問題点が存在する。スライドが小さいことや、スライドの表示が斜めになっていること、黒板側にある梁が大きく、後方から黒板、スライドを見る場合にこれにより阻害される傾向がある。

(2) 参観者から見た学生の様子 「1年」

白谷先生 (有機化学 I ; B クラス)

B クラスでの授業参観でしたが、ほとんどの学生は、静かで顔もあがっており、真剣に先生の話の聞いているように思いました。また、丁寧に繰り返し説明されており、学習の仕方まで伝えているように感じました。重要性を強調されるたびに、教科書にメモを取っている学生がいました。学生がどのように理解しているのか聞いてみたくなりました。ただし、後方の座席に座っている 2~3 人の学生が、携帯に目を移したり、居眠りをしていました。本日の授業は 403 室でしたが、他教室でも同様の状態かと思いました。教卓近くで右半分と左半分のそれぞれにスイッチがあると良いと思いました。(黒板近くの電気を消している状態では、左側のスクリーン (プレゼン) は見やすいが、右側の黒板で板書されるとほとんど色チョークの区別がつかず見えない状態である。また、黒板近くの電気を付けている状態では、右側の黒板の板書は見やすいが、左側のスクリーン (プレゼン) は見えにくい状態でした。

森永先生 (薬用資源学 ; B クラス)

○来ている学生を計測したところ、59 名であった。後ろにある座席表で存在すべき学生は 80 数名であるので、三割弱の学生は何らかの理由で来ていないかサボタージュの状態にあると考えられる。59 名の大半はまじめに受講しているが、教室の黒板側からみて中ほど、または後方の学生は睡眠、遅刻、教科書を開きすらしめない、携帯電話で LINE を用いて他人とコミュニケーションをとるなど受講態度が頗る悪い。その他の学生も見限りでは教科書、配布資料、ノートを上手く活用できておらず、板書に専念、試料のみに専念、教科

書の上に専念というタイプが散見された。これを見るに大学での学習法が十分に習得で来ていないことがうかがえる。クォーター制であるので、1期での教育を経てある程度は大学での勉強法が身につけていると期待して参観したが、実際にはそうなってはいなかった。受講態度が悪い学生は専ら問題ではあるが、それだけでなくまじめに受講している学生についても改善すべき点が多く見受けられた。

○講義開始時に教員から聴講態度についての注意があった効果もあり、受講生の聴講態度は良かった。おしゃべりする受講生はなく、皆まじめにノートをとり熱心に聴講していた。途中で、回覧された生薬を興味深く見ていたのも印象的であった。

○学生の受講態度は非常によく、集中して受講しているように思われた。ただ、スライドの字が小さいのか、あるいは下のほうまで記載があつて見えなかったのかで、後部座席の学生が途中で前に移動するシーンがあつた。学生は、資料・教科書に書き込む姿がよく見受けられ、資料を十分に活用しているように見受けられた。

(1) 感想(良かった点・参考になったこと等)のご記入をお願いします。「2年」

濱村先生(薬理学I; Aクラス)

○最初に授業科目名を名乗り、挨拶してから授業が開始された。まず前に行った授業アンケートの結果を報告し、それぞれについて回答していた。座席は指定であるが、不都合な場合は前の席に移動することが可能であった。授業は板書で行われていたが、大きな文字でしかもカラーで色分けされ、後ろからもはっきり良く見えた。声はゆっくりで、後ろまでよく通る声であった。途中で授業理解の確認のために、プリントの演習問題を与えて、時間を十分与えて解かせてから解答と解説を行っていた。とても丁寧で分かりやすい授業であった。板書での授業は、学生が全員参加し、私語もなくとても好感が持てた。しかしノートを取ることに一所懸命であったので、学生の理解度はどうなのか学生の授業満足度はどうなのかを聞いてみたい。どちらも一長一短だと思うが、板書とPPでプリント配布での授業はどちらがいいのかを考える良い機会となった。

○早い時期にアンケートをとり、講義に対する学生の要望を聞き、それらを講義に反映させている点は良かったと思います。板書のやり方、チョークの色など学生の意見を汲み取り、講義途中の小話など講義自体や方法に工夫を凝らしていたと思います。学生への講義中の細かい指示が的確で、この講義内で何を話すかということは何度も繰り返していた点、同時になぜここが大事か、前後との繋がりを強調していた点は、は学生の理解度を高める上で効果的と考えます。板書した内容を学生が書き写すための時間を数分間付与するやり方は、当方の講義の際にすぐに取り入れたいと思います。板書の仕方及びチョークの色を学生に確認されていた点も参考にします。低学年の講義には板書の方がpptよりも適していると改めて確信しました。

(同 B クラス)

良かった点は、①テーマは自律神経節遮断薬であり、内容的にもよく整理されていると思った。②板書による講義であったが、ポイントを色分けしたり、学生がノートをとる時間を設けたり講義途中で確認問題を解かせたりと、学生が理解しやすいように工夫されていると思った。③板書も大きな見やすい字であり、また聞き取りやすい声での講義であり、内容も理解しやすい講義であったと思う。④話をする学生もいないで、講義に集中できる環境下での良い講義だと思った。⑤新しい話題など、盛り沢山の内容で私にとっては大変勉強になった。改善した方が良かった点は、①講義中の飲食(机上に飲み物やパンなどを出して講義中に飲食)、スマホの操作、帽子をかぶったまま受講(個人的な感想です)に対しては、辞めさせた方が良かったと思う。(スマホについては、早稲田大学では全員机の上の目立つところに出しておく、隠れて操作をしたりする学生がいなくなったと聞いて、私自身も講義する時には携帯も含めて机の目立つ場所に出すよう指導している。学生同士の監視下の状態にしている) ②・講義内容に「なぜ」が少ないように思った。教科書の内容を一方的に講義して、学生が黒板を一生懸命写すだけでは、折角のポイントも理解できない学生がいるようであった。(学生がイメージ作りしやすい話し、例えば「ダビンチの目の瞳孔が開いているのは、副交感神経遮断薬を点眼したため(当時はメ大きい女性が美人だと思われていたらしい)」とかを話すると、記憶に残りやすいかなと感じた。私もこの事実は当時の講義で聞いて、未だに記憶している)

③講義内容は前回までのことを理解している学生にとっては、とてもわかりやすいと思うが、理解していなかった学生には、ついていけないのではないかなと思う。(毎回講義の最初に前回講義した時に使用したプリントなどで10分位のミニ試験をしたら、少なくとも学生は復習してくることになるので、新しいことも理解しやすくなると思った)

藤井先生 (分析化学 I ; A クラス)

スライドの文字、マイクの音量、話すスピードも適切であり、理解しやすいように配慮してあった。講義室が情報処理演習室であったので、前の席、後の席にかかわらず、スライドがはっきりわかるので環境的に非常に良い。授業スライドをコピーして、授業前に配布しているので、講義中ならびに復習時にも役立つ。授業スライドに、図ないし写真を多く取り入れて、理解しやすいように工夫されている。説明の後に練習問題を解かせて、授業の内容を自分(学生)自身がどの程度理解できているかを確認できるところがよい。今回の授業では、先生ならびに学生に動きがなかったため、単調な感じがした。学生に教科書をめくらせたり、文字を記入させたり、ふんだんに動作を取り入れ変化をつけるとさらに良くなると思う(眠気防止にもなる)。

白谷先生 (有機化学 III ; B クラス)

有機化学 III の最終日にあたる講義で、B クラス (63 名) が 406 講義室の前方に着席して受

講していた。講義内容は、有機化学では大事なアリル位とベンジル位のラジカルハロゲン化についてであった。講義は、パワーポイント資料を用いて進行していたが、重要なポイントは教員が何度も板書を行うことで、受講する学生にとっては、これを眼で追いかけ、ノートを取るなど身体を動かすことで飽きさせないよう構成されていた。また、映し出されるパワーポイント資料は、シンプルで、要点良くまとめられていた。また、この資料の右上にテキスト（ソロモンの有機化学）の該当ページが示されており、学生はテキストに付箋をしたり、書き加えたりしていた。配布されたプリントは講義内容が簡潔にまとめられ、これに演習問題が加えられており、試験前の学生にとっては理解するうえで役に立っていると思えた。途中、マイクの声が切れることがあったが、地声だけでも十分に聞き取れる明瞭さと速さであった。

都築先生（生命科学Ⅰ；Bクラス）

「水溶性ビタミン」に関する講義でした。講義始めに「本日のポイント」を板書したうえで、トピックを盛り込んだプレゼンテーションを展開し、板書に進んでいくという流れでした。生命科学Ⅰという科目の特性上、講義における重要ポイントが毎回変わるために、始めに提示することは、学生にとっては力配分がわかることとなり非常に参考になりました。また、講義とは全く関係ないと思われたイントロダクションも、実は暗記を促すうえで重要な鍵になりうるものであると講義後半になるにつれ痛感しました。学生が自己学習をして身につけることを第一に考えられた講義であったと思います。

板書に関して非常に参考になったことは2点あります。1点目に、今から黒板に書こうとすることを読み上げたうえで板書をされるので、学生目線からすると何を書くのかが想像が付きやすいということです。これにより、学生が板書を写すスピードが上がっているものと思いました。2点目に、学生が板書を写し終えたことを適宜確認しながら進められていたことです。Bクラスは特に学生間の学力差やノートに写すスピードの個人差が激しく苦労しますが、常に気を配っており勉強になりました。

原口先生（放射化学；Aクラス）

授業は主にパワーポイントを用いて行われ、補足的に教科書や配付資料、板書を用いられていました。30分程度かけて前回の講義ポイントを復習してから講義に入りました。スライドの文字も大きく、重要な箇所は色で強調し、長い棒でスクリーン上の文字を指しながら説明され、演習問題の解説も丁寧になされており、学生にとっても分かり易いのではないかと感じました。「まとめ」のスライドも入っており、何が言いたいのかが明確でした。私自身の講義でもパワーポイントを用いるので、大変参考になりました。

(2) 参観者から見た学生の様子 「2年」

濱村先生 (薬理学 I ; A クラス)

○遅刻や授業途中での退出などまったくなかった。A クラスだったためか、全員熱心に授業を受けていた。板書だったため、全員熱心にノートを取っていた。後ろの男子グループに若干私語が見られたが、それは授業内容に関するものであった。寝たり、内職したりするなどの学生は皆無であったので、学生の授業満足度は高いと思った。

○学生の皆さん、講義に参加している様子でした。2年生 (A クラス) ほとんどの学生が、講義に耳を傾け、集中力を持続している印象を受けました。ほとんどの学生が板書された内容をノートに書き取っていました。

(同 B クラス)

集中している学生もいたが、飲食をしたりして、集中していない学生も散見した。スマホを操作している学生も数名いた。全体的には、話をしている学生もいないで、講義に集中しているようであった。理解している学生は熱心に講義をきいているが、理解していない学生はノートもとらずに寝たり、飲食したり、中座したりしているようであった。(ただし、学生個々がどの程度内容を理解しているかは、見た目ではよくわからなかった)内容的には良い講義であったと思うが、折角の講義時間をもったいないと思った。

藤井先生 (分析化学 I ; A クラス)

静かにまじめに講義を聴いていたが、後方に居眠りをしたり、携帯電話をさわっている学生が 2、3 名ほどいた。

白谷先生 (有機化学 III ; B クラス)

受講者が少ないぶん、講義中はとても静かで、ノートを取ったりして真剣に講義を聴いていた。スマホなどをいじっている学生は全く見受けられなかった。

都築先生 (生命科学 I ; B クラス)

学生は、講義を始めると静かに受けており、受講態度は良好であったと思います。

私も板書にて講義をするために、学生の板書スピードに着目して受講しました。今回の見学で、書き終えるのが遅めの学生は書くスピードが遅いわけではなく、書き始めるのが遅いことが分かりました。今後の講義を進めていくうえで大いに参考になりました。

原口先生 (放射化学 ; A クラス)

参観した授業は A クラスでしたが、ほとんどの学生が授業に集中し、各自パワーポイントや配付資料、教科書を見ながらノートを取っていました。ごく数名、居眠りをしている学生がいましたが、全体的には学習態度は良いように感じました。

(1) 感想 (良かった点・参考になったこと等) のご記入をお願いします。「3年」

戸田先生 (食品衛生学 I ; A クラス)

パワーポイント、板書等、様々な媒体で、講義を展開していた点。中間試験の解説をパワーポイントにて行っていた点。特に、記述問題の採点基準として、キーワードとなる用語の使い方について触れていた点。中間試験の得点分布や模範解答を掲示し、学生へ情報提供していた点。学生アンケートの要望を反映して、確認試験を実施していた点。座席が後ろで見えにくい学生に関しては、学生の反応を確認したり、座席移動を促していた点。寝ていた学生を注意していた点。講義の中で、関連科目との科目横断的な捉え方について、具体的に触れていた点(感染症の分類や一次予防等、3年後期「公衆衛生学」との関連について触れていた)。私が、3年後期「公衆衛生学」の講義を担当するので、科目同士のつながりの重要性が把握でき、大変参考になりました。

(同 B クラス)

○配布プリントが2色刷り(赤・黒)であり、学生にとってわかりやすい資料だと思いました。スライドを dysv07 に入れている点も参考になりました。英語のビデオ動画やサイエンスの論文など、最新の知見を学生にわかりやすく説明されていました。ゆっくりとした口調で問いかけるように講義されている点、スライドに動画や写真、イラストを入れて、学習内容を学生に印象づけておられる点など、とても参考になりました。

○中間試験後の授業でもあり、得点分布などの学生への開示のみだけではなく、試験内容について重要なポイントは何であったかを詳細に解説を行っていた。これまで自分自身がプリント配布と板書で行っていたことだけに、講義時間の配分を考慮されていたためか、パワーポイントを使用して行っていたことは参考になった。その後の講義内容においても、パワーポイントや板書などを併用して講義を行っていた。講義は、2年生次での生化学や微生物学等を基盤とした内容であったが、学生に対して関連付いていることを、意識させるように進めていたことは参考になった。食品衛生学の内容には、自分自身が受け持つ科目の上に成り立っていることから、2年生次に講義を行う際に、学生に対して「今習っていることが、次にどのように繋がっていくのか?」という点も意識できるように講義内容を組み立てていけばよいのか再考する上で、大変参考になりました。

入倉先生 (物理薬剤学 ; B クラス)

教科書を使用し、黒板への板書による講義であった。黒板に文字だけでなく、図を描写して説明をしていた点が分かりやすくよかった。私自身は最近、講義でパワーポイントを使用し、黒板を使用することはほとんどないが、パワーポイントによる映写では、講義のスピードが速くなりがちになったりするようである(学生による授業評価のコメントより)。講義スピード等を考えると、黒板への板書の方が聞き手にとっては聞きやすく良いのであろうと思う。板書による講義形式の良さを再確認することができた。

長先生（医薬品化学Ⅱ；Aクラス）

中間試験後の最初の授業であり、最初に Power Point を用いてその総評並びに解説がなされた。Power Point による総評と解説は、よくまとめられており参考となった。授業は、Power Point を中心として進められるのと共に板書を適宜使用しながら実施されていた。配布資料も用いられていた。教室の後方から授業を参観させて頂きましたが、マイクの音量、話し方、進行速度、文字の大きさなど全てが適切であり全く問題はないと思いました。また、教科書のページ数を説明しながら講義が進められており、学生には分かり易くとても工夫された講義であったと思いました。個人的には、特に参考になったのが、話し方です。特徴のある言い回しと優しい口調が好感を持たれるものと思います。この点に関しては、自分自身には無い物を感じました。今後は、自分の担当授業にも取り入れていきたいと思います。

※参観させて頂いた講義とは直接関係のないことですが、プロジェクターの光源はBクラスが使用している210教室のものと比較して209教室のそれは極めて良くないと思います。自分自身も同じ教室を使用していますので、要望として記しておきます（光源を交換するか、プロジェクターを換えてほしい）。

渡辺先生（環境衛生学Ⅱ；Bクラス）

スライドを使わず、板書をされていた。板書の文字が大きく良く見えた（一番後ろからでもはっきり見えた）。マイクの声は聞き取りやすく、説明のスピードも適切で、ちょうどよいと思った。板書であれば学生はノートを取りやすいし、取らざるを得ないので復習がしやすいと思った。環境衛生学という生活に密着した内容でとても分かりやすかった。特に三重項酸素の説明の仕方を大変分かりやすくされており、講義の参考になった。最近スライドを使わない講義はあまりないが、スライドを使わない講義の良さをあらためて認識した。

（2）参観者から見た学生の様子 「3年」

戸田先生（食品衛生学Ⅰ；Aクラス）

パワーポイントよりも板書の際に、学生の集中度を感じた。座席が前の学生の方が、講義に対して意欲的に感じた。一方、寝ていた学生や途中入室して来た学生は、座席が真ん中以降の学生であった。

（同Bクラス）

○ほとんどの学生が熱心に授業を聞いており、途中で退室する学生もいませんでした。私語もなく、スライドの内容をノートにメモしていました。

○試験内容の解説時には、学生のほとんどが聞き入っており、その後の講義も私語もなく学生は講義を聴講していた。

入倉先生（物理薬剤学；Bクラス）

1 講時目（朝 9 時スタート）の講義であったが、大部分の学生は 2～3 分前には集合していた。数名の学生が講義開始間際に到着し、1 名の学生が講義開始後 10 分頃に到着した。概ね学生の集合時間については良好であった。講義時間中、多くの学生が授業に集中し、黒板の板書についてノートをとる等、授業態度は良好であった。私語をしたり、スマホをいじったりする学生はいなかった。講義室の後方に着席している数名（2～3 名）の学生については、講義に集中していないように見えたが、概ね学生全体の授業態度は良好であった。

長先生（医薬品化学Ⅱ；Aクラス）

Aクラスの授業ではあったからか否かは分からないが、後列の学生を含めて殆ど全ての学生は授業に集中しており、ノートを懸命に取っていた。ただ、後方のほんの一部ではあるが、あまりノートを取らず授業に集中していない学生も見受けられた（2～3 人程度）。自分自身の講義でも恐らくこのような学生についての状況を確認することは困難であると思われる（前方からは状況の判断が極めて難しい）。何れにしても、全体的には、学生は熱心に授業を受講しており、申し分のない受講状況であったと思われる。

渡辺先生（環境衛生学Ⅱ；Bクラス）

午後からの授業で B クラスであったが、ほとんどの学生は良く聴いていた。途中で 3 名が寝ていたが、2 人は少し経った頃起きて聞き始めた。私の観察範囲では、ほとんどの学生がノートをとっていた。講義を聞いているもののノートを取っていない学生や、別の勉強をしていると思われる学生も少数見られた。

（1）感想（良かった点・参考になったこと等）のご記入をお願いします。「4 年次以降」

福田先生（漢方概論）

確認問題をおこなっており、要点を覚えさせているところ。パワーポイントを使用している講義は、教える内容をまとめてあるので理解がしやすい。漢方概論であるが、生薬に対する解説も取り入れられており、簡単な生薬学の復習も出来ている。

長島先生（臨床分析化学）

解りやすい板書（ビジュアル的に訴える内容）、先生の声の大きさ、原理にまで振り返って言及している点は、特に参考になった。そして、講義内容も解りやすく、まったく飽きることのない授業内容のため、私自身も今後の講義に関して、何より学生目線に立った講義を行おうと、考えさせてくれる講義内容だった。先生から学生への一方的な講義では、

学生も居眠りなどしてしまいがちだと思ったが、本講義は、板書を学生自身が書き留めて講義を進めていくので、そのようなことは無く、学生が集中してノートを執っていた。青本の使用で、国家試験を意識しての講義は、4年生も良く理解している感じであった。様々なテキストを使って、必要な情報を適切に学生に与えていたことも参考になった。

森山先生（薬物治療学Ⅲ）

一度だけ黒板が使われたが、後方席にいても見える文字で見やすくよかった。かなり大きく書かれているのではないと思う。マイク音量も十分で、後ろに座っていても良く聞こえた。私の集中力の問題かもしれないが、1-2回、語尾が聞きづらいところがあった（例えば：・・・は使われる／ない）。ただ、学生は資料を持ってきているので、問題ないのかもしれない。带状疱疹薬と同時に鎮痛薬の説明をするのは、「薬物治療学」ならではのことで、带状疱疹と言う病態を理解しながらどのような薬が必要かを理解できてよかった。

川野先生（薬事関係法規・制度Ⅰ）

昨年度の学生アンケートで教科書のみで講義が進められていて、どこをしているかわかりづらいという意見から今年度は改善がなされ、パワーポイントを使った講義ですすめられるようになって、学生の理解度も向上しているようだった。行政での経歴があり、現場の経験を踏まえた講義の部分は参考になった。

大光先生（薬事関係法規・制度Ⅰ）

講義内容 覚せい剤関連法規

参考になった点としては、よくできた演習プリント、重要部分を上手くハイライトするスライド、はっきりとした声。

アドバイスとしては、講義が淡々と進むので、講義に関連した雑談などがはいるとアイズブレーキングになると思いました。また、覚せい剤関連の事件等の写真のスライドなどが入るとより興味を持っていただけると思いました。

大脇先生（医薬品情報学）

授業の始めにその日の授業の概略を説明してから進めていた。説明用のスライドを印刷し配布資料としているため、スライドの見えにくい学生にも助けになるし、授業中の書き込みにも使用でき有用である。オリジナルの練習問題も配布し、授業で話した内容を練習問題で確認しながら進めていた。学生の理解が深まる工夫が見られた。

(2) 参観者から見た学生の様子 「4年次以降」

福田先生 (漢方概論)

後方に着席している学生は、講義を聞いていない、他のことをおこなっている。あるいは寝ている学生がいた。

長島先生 (臨床分析化学)

解りやすい板書と、長島先生の講義内容が明解だったため、特段に授業中の居眠りや、他ごとをする学生はおらず、講義に集中していた。

森山先生 (薬物治療学Ⅲ)

特に問題は感じられない。

川野先生 (薬事関係法規・制度Ⅰ)

抜け出し等もなく、比較的まじめに聴講していた。

大脇先生 (医薬品情報学)

私語をするような学生は見られなかった。携帯やスマホをいじるような学生は見られなかった。遅刻者が2名いた。全体として静かな良い環境で授業が進められていた。

平成 28 年度後半 教員相互授業参観感想

平成 28 年 10 月 1 日～11 月 30 日（後半）の教員相互授業参観感想の提出状況

	学年	クラス	参観日	参観者名	授業科目	授業担当者名
1	1	A	2016/10/1	長島 史裕	基礎生物学	香川 正太
2	1	A	2016/11/17	小松 生明	機能形態学	清水 典史
3	1	A	2016/11/21	森山 峰博	機能形態学 I	清水 典史
4	2	A	2016/10/3	藤井 由希子	分析化学 II	横山 さゆり
5	2	A	2016/10/18	古賀 貴之	生命科学 II	廣村 信
6	2	B	2016/10/25	エップ デニース	医療統計学	大脇 裕一
7	2	A	2016/10/27	田畠 健治	微生物学	小川 和加野
8	2	A	2016/10/28	清水 典史	薬理学 II	小松 生明
9	2	A	2016/11/25	福田 直通	生薬学	城戸 克己
10	2	A	2016/11/28	大渡 勝史	生薬学	城戸 克己
11	2	A	2016/11/28	森永 紀	生薬学	城戸 克己
12	2	B	2016/11/30	原口 浩一	物理化学 II	田畠 健治
13	3	A	2016/10/31	飯盛 恵美子	調剤学	前田 共秀
14	3	B	2016/10/31	三嶋 基弘	調剤学	前田 共秀
15	3	B	2016/11/16	荒牧 弘範	薬理学 IV	櫻田 司
16	3	A	2016/11/21	松原 大	分子生物学	高露 恵理子
17	3	A	2016/11/22	安藤 伸一郎	薬物動態学 II	三嶋 基弘
18	3	A	2016/11/22	古賀 多津子	薬物動態学 II	三嶋 基弘
19	3	B	2016/11/22	櫻田 司	薬物治療学 II	小山 進
20	3	B	2016/11/24	小山 進	病態生理学 II	吉武 毅人
21	3	A	2016/11/25	吉武 毅人	公衆衛生学	小武家 優子
22	3	A	2016/11/29	高露 恵理子	薬物治療学 II	小山 進
23	3	B	2016/11/29	岡崎 裕之	薬物治療学 II	小山 進
24	3	B	2016/11/29	前田 共秀	薬物動態学 II	三嶋 基弘
25	3	B	2016/12/20	香月 正明	薬物動態学 II	三嶋 基弘
26	3	B	2016/12/20	渡邊 和人	薬物動態学 II	三嶋 基弘
27	3	A	2016/12/21	渡邊 和人	食品衛生学 II	戸田 晶久

(1) 感想 (良かった点・参考になったこと等) のご記入をお願いします。「1年」

清水先生 (機能形態学 I ; A クラス)

○細胞の構造に関する講義を聴講しました。

パワーポイントや板書やビデオ様々な媒体を併用しながら丁寧に進めていく授業でした。声の大きさもスピードとも丁度よく、聞き取りやすかったと思います。

また、重要なところは配布プリントに穴埋めをさせながら、何度も強調して説明しており、わかりやすい授業でした。大変工夫されている授業だと思いました。

○パワーポイントおよび配布プリントを使用しての講義であったが、よく内容が整理されており、また、図や写真も豊富に取り入れられて分かりやすいスライドであった。重要な点を強調しながら授業が進められていた。

香川先生 (基礎生物学 ; A クラス)

講義は時間どおりに始まり、当日の講義のパワーポイントのプリントを配布し、それと同時に問題も渡されていた。その問題は提出用と自分用とに別れており、一方は講義終了後に提出し、もう一方は自分が自宅で復習できるように配布されていた。学生が自宅で講義の復習をする上で有効であると思います。マイクを使わずに講義が行われており、学生にとっては静かに集中して講義を聞かなければならないので、講義に集中できるように思う。板書の字も大きく、講義室の後列部分の学生にも充分に見える大きさであったと思う。

(2) 参観者から見た学生の様子 「1年」

清水先生 (機能形態学 I ; A クラス)

○生徒は全員、授業にまじめに取り組んでおり、板書した内容をワークシート形式の配布プリントに記載することに集中していました。特にムービーを用い説明した際は、学生の集中度を感じました。今後、自身が講義する上で大いに参考になりました。

○授業中は、学生の私語もなく静かであった。多くの学生はスライドとプリントを見ながら内容を理解しようと真剣に講義を聞いているようだった。

香川先生 (基礎生物学 ; A クラス)

学生は静かに講義を聞いていた。学生の中には、板書の事柄をノートに書き留めている雰囲気がない学生も見受けられたが、全体的に講義に集中していたように思う。

(1) 感想 (良かった点・参考になったこと等) のご記入をお願いします。「2年」

城戸先生 (生薬学 ; A クラス)

○前回授業で用いた穴抜き問題の復習・解説と、新しい内容の学習を行うという内容だった。声は聞き取りやすく、教室中ほどにプロジェクターの副画面が設置されていることから、生徒が内容を聞き損ねたり、見落としたりすることはないと感じた。縦に長い教室のため、板書をせず画面を使った講義をしていることや、生徒の要望に応じて照明を暗くするなど、受けやすい講義づくりができていたと感じた。内容については、暗記事項が多く教えるににくい生薬学のなかで、暗記の助けになるように生薬の名前の由来や教科書には載っていない特徴的な性状などに触れていることが印象的だった。また、前回の小テストの解説に十分に時間を取ったり生薬成分の複雑な分子構造の要点をわかりやすく説明していたほか、国試を念頭に置いた覚え方や得点のテクニックなど実践的な勉強法についても触れており、生徒の良い助けになるだろうと感じた。

○講義の最初の 30 分間は前回の講義内容について、確認問題を使った解説と補足説明であり、前回講義内容についての理解が深まる取り組みだと感じられた。事前に学生が解答し、それを講義の中で復習していく効果的な方法と思われた。薬草園へ実際の薬用植物の見学するようにも促しており、あらゆる手段で生薬学の理解を深めてもらおうとする考えが感じられ、講義からも熱意が伝わりました。

○小テストで学生の理解度を高めているのは良い。前回の重点項目の復習をするのは理解を深めるために良い。スライドで教科書のどの部分を話しているのかを示しているのが、学生が把握しやすい。・代表的な生薬を中心に話をしており、重要な部分は赤いアンダーラインで強調しているので、学生がポイントを押さえられ、良いと思います。

横山先生 (分析化学Ⅱ ; A クラス)

話しながら図を白板に書いたり、学生の集中力を意識した授業で理解しやすかった。配布されているパワーポイントが非常に見やすく学生にとっても復習がしやすいと感じた。授業の中で学生たちは実際に問題を解く機会が用意されていたのも良かった。

小川 (和) 先生 (微生物学 ; A クラス)

パワーポイントを用いて講義を行っているが、スライドのプリントを学生に配布し、重要な個所を記入させることで、学生の意識が散漫にならないように工夫されていた。用いたスライドも、適当な情報量で見やすく、重要度が星印で示されており、理解しやすいものであった。小テストの解答中に学生の進捗を見てアドバイスしたり、講義中も学生への質問を適宜入れたりするなど、学生とのコミュニケーションを取りながら講義を進める手法は、今後自分が講義をする上で参考になった。

大脇先生（医療統計学；Bクラス）

Dr. Owaki spoke slowly and explained very clearly, so that if students are listening and paying attention, they would definitely understand the topic and his lectures. The PowerPoint slides were clear and understandable with a class outline and keywords each time.

I thought it was good that he gives all the materials at the beginning of class and then works through each slide with explanation. He repeated and reviewed appropriately and his lectures were clear. He also presented how the material related to the national exams (CBT, 国家試験), which kept the students paying attention.

Unfortunately he had an old classroom with poor sound and equipment that often did not work properly.

廣村先生（生命科学Ⅱ；Aクラス）

特に配布資料のプリントが参考になりました。私も講義の際には、スライドを一部空白にして学生に記入させる形式のプリントを事前に配布しておりましたが、基本的には単語を括弧の中に埋めるといった形式でした。一方で廣村先生のプリントは生体内の代謝反応を所々で抜き出して記入させるのではなく、全体の流れについて順を追って記入させていたのでとても理解しやすかったです。

小松先生（薬理学Ⅱ；Aクラス）

声は明瞭で聞き取りやすかった。板書で薬理作用機序が大きな字で書かれており見やすく、また、書くスピードも、学生のノートへの記入ができるよう配慮されているようであった。作用機序の説明には、分かりやすい言葉や学生がイメージしやすい言葉が使われていた。

田嶋先生（物理化学Ⅱ；Bクラス）

熱容量に関する講義で、演習問題（モル熱容量の計算など）を混ぜながら、解説された。板書とスライドをうまく使い分け、板書内容も丁寧であった。要点をまとめたプリントと小テスト問題を配布し、解説された。学生に解く時間を与え、分かりやすく解説しており、Bクラス学生のレベルを意識した授業のように感じた。小テスト問題を解答させ、解答用紙を回収している。また、アンケート形式で今後取り入れてほしい内容を記入させ、回収後、次の授業に取り入れる工夫をされており、大変参考になった。

(2) 参観者から見た学生の様子 「2年」

城戸先生 (生薬学 ; A クラス)

○皆静かに聞いており、重要ポイントに標しを付けていたので、理解も進んでいるものと思われる。

○席数に余裕のある講義室だったが、生徒は前方に集まっており、意欲を持って臨んでいることが感じられた。私語もなく、スマートフォンを活用してプロジェクターで映した画面の必要な情報を保存するなど、積極的に聴講していた。

○講義中のおしゃべりや居眠りもなく、教科書をよく学生は見ており、生薬への関心の深さが伺えました。

横山先生 (分析化学Ⅱ ; A クラス)

後方の学生を含め、ほとんどすべての学生が前を向いてしっかりと聞いており、良い授業態度であった。

大脇先生 (医療統計学 ; B クラス)

The students were quiet and sat through the lectures, and they seemed to have no stress from the subject or class. 3 hours is a long time to sit through a statistics lecture. If Dr. Owaki had access to a class set of computers, he could do so much more with active learning, and keep the students involved by applying what they are learning. It is interesting that Statistics is part of the 2nd year curriculum now when the students have no opportunity to do research or read research....I heard it was a 5th or 6th subject before, which makes more sense with regards to application.

廣村先生 (生命科学Ⅱ ; A クラス)

プリントを事前に配布して記入させる形式だったので、学生は頑張って記入していました。その時に、ただ記入だけに集中するのではなく、先生の嘸み砕いた表現も端の方に書き込んでいる学生もいて、表現の仕方の参考になりました。

小松先生 (薬理学Ⅱ ; A クラス)

数人寝ている学生がいたが、大半の学生は、ノートへの記入や講義中に行われる問題演習に真面目に取り組んでいた。

田島先生 (物理化学Ⅱ ; B クラス)

教室で約50名Bクラスの学生が受講しており、適度な環境での講義であった。配布されたプリント問題を真剣に取り組んでいる。特に私語や携帯を使う学生は見られない。(11時～11時30分)

(1) 感想 (良かった点・参考になったこと等) のご記入をお願いします。「3年」

前田 (共) 先生 (調剤学 ; A クラス)

学生ははじめに講義を聞いていた。パワーポイントのスライドは後方でもはっきり見ることができたが、PDF ファイルの添付画面は薄くて見えなかった。製品の画像を多く取り入れてあったので、わかりやすかった。また、動画を学生に見せてあったので、今後の授業展開の参考になった。

(同 B クラス)

教科書 (調剤指針) に沿って、ページを示しながら、パワーポイントを使った講義が行われていた。パワーポイントは、項目ごとに整理されており流れのある構成になっていた。文字の大きさも表以外は見やすかった。製剤の使用方法については、動画を交え興味をそそるような工夫がされていた。話すスピードは適度であり、聞きやすかった。講義項目が国試に出題されたことや薬剤師の仕事に結びつけた話もあった。見学している時間内には、板書はなかった。資料を配布したり、小テストを通算 4 回実施しており、理解度チェックもされていた。中間試験に関連して、どのような所を勉強しておくか、ヒントを与えていた。

吉武先生 (病態生理学Ⅱ ; B クラス)

講義開始時、学生は着席済みであった。講義の声の大きさ・速さは適切で、聞き取り易かった。学生の理解を助ける工夫として、スライド中のイラストが大変分かり易い点が挙げられる。テキストとスライドが連動しており、システムティックな授業設計となっていた。区切りの良い箇所では国家試験問題を学生に解かせることは、授業への緊張感を維持することに役立っていたと感じる。また、学生を指名して解答させていた点は、アクティブ・ラーニングの側面を持っており参考になった。本講義の参観により、病態生理学との役割分担を明確にして、めりはりのある薬物治療学の授業を作っていく必要があると再確認した。

三嶋先生 (薬物動態学Ⅱ ; A クラス)

○授業の進め方は、まずその日に習得すべき単元の講義が行われ、その後、国家試験の過去問題が提示され、問題を通して、講義内容のポイントが解説されていた。国家試験に出る重要な点がわかりやすく説明され、学生にとっては実践的かつ、分かりやすい授業であろうと思えた。

○授業のはじめに、今日行う演習問題が講義室前方のスクリーンに示されていた。どこをしているのかがわかり、学生はテキストを開いて授業に参加していた。今日の演習問題は国試の過去問であった、まず問題を解く鍵や 6 年制になってからのコンパートメントモデルの出題傾向などを説明された。重要なポイントが理解できると思う。問題の解説は、先生が問題を読んでどうやって解くのかグラフ等を板書しポイントを説明された。

それから設問 1 から順番に公式に当てはめて、丁寧に解説された。黒板の文字は一番後ろからも十分見えた。大事な所は、チョークで色分けし何度もグラフのこの部分！と示されていた。予め作成したパワーポイントと違って板書を目で追って説明を聞く授業もわかりやすく新鮮だった。来週は、小テストをするので勉強しておいて下さい。と、復習を促された。この後、みんなの苦手な非線形コンパートメントモデルに講義が進められていた。授業に毎回出て勉強することが成績アップの最も近道だなと感じた。

(同 B クラス)

○授業開始時に小テストを行っていた。小テストも評価に加わっているためか、学生は真剣に取り組んでいた。10 分間の予定で、ほぼ全ての学生が解答を終えた様子で、適切な難度であった。講義はスライドと板書を併用しており、スライドにテキストの該当部分を示し、板書で解説していく形式で進められており、講義がテキストのどこを話しているのかが分かり易かった。また板書は大きな文字で見易かった。

○独自に作成されたテキストに従い、演習問題の解説をスライドと板書にて解説をされ、非常に分かりやすいと感じました。教室は 310 講義室で少し圧迫感がありましたが、学生とのほどよい距離であると感じました。

○最初に約 15 分間の小テストが行われた。先に行われた講義の内容について、教員は学生の理解度の把握、学生は講義の復習・確認する意味で小テストを行うことは有用である。テストの結果を踏まえ、学生および教員がそれぞれにどのようにフィードバックするかが重要と思われた。講義はパワーポイントと板書をうまく組み合わせて、また、演習形式の問題も入れて進行した。問題解説の板書は丁寧に重要ポイントが整理されて記載されており、理解しやすかったと思われる(肝クリアランス、全身クリアランス、タンパク結合率、AUC などの説明)。今日の講義の進行速度は、ゆっくりとしたものであり学生は理解しやすく、B クラスの学生でも復習にもさほど時間は要しないと思われる。

小山先生 (薬物治療学Ⅱ ; A クラス)

授業の初めに前回の講義内容に関する確認試験がありましたが、組織図を書かせる問題で、単に言葉を覚えるのではなく視覚的にも理解を深める内容となっており、参考になりました。話し方、特にスピードは聞き取りやすく、授業の進行具合も学生の理解とあっているように感じました。私自身、早口になる傾向があるので今後の授業では気をつけていきたいと思いました。

(同 B クラス)

○2 時限目、10 時 45 分、定時に講義が開始され、学生はすべて着席済みであった。前回講義の復習のため、課題を与え自主的に問題を解かせていた。その後、パワーポイントで解答・解説をしていた。約 20 分ほど時間を費やし丁寧な復習講義を行っていた。講義の声は明瞭で、テンポも良く聞き易いものであった。パワーポイントスライドは、図や

写真を多く利用したもので見やすく理解しやすいものであった。講義の中で、試験に出題されやすい重要なポイントを交え要点を上手に強調していた。本講義の参観により、薬理学を教える一教員として、薬物治療学に繋げることを念頭に置き、今後講義しなければならないことを再確認した。講義中後部座席に座っている学生にも目配せしてもらえると、学生の緊張感も増し効果的かもしれません。ただ、縦長の講義室で、学生の受講態度を観察しながら講義するのはやや難しい面がある。以上、本講義は質の高いものであり、3年次学生が今後受験しなければならない各種試験（CBT 及び薬剤師国家試験など）に十分対応できるものと感じた。

○講義の開始時にテキストとプリントを用いた前回の講義の復習から入っていた点は反復による学生への知識の定着を促す上で有効だと感じた。解説の板書も見やすい図と文字で行われていた。病態に関する講義ということでスライドの解剖図を用いて進められていた。疾患の発症に関わる組織や部位、原因についてテキストの内容と並行してわかりやすい解説が行われていた。スライドの説明図のフォントが小さくて後方からは見づらい部分が見受けられた。

櫻田先生（薬理学Ⅳ；Bクラス）

定時に講義が開始され、先日実施された中間試験の成績結果について説明がなされた。まず、前回の講義について、スライドも利用し、復習が行われた。このことで、前回からの講義の流れを学生たちに思い起こさせていた。その後、シラバスに沿い、今回の講義が開始された。講義では、スライドに図や要点を示し、スライドが見にくいことも考慮し、図に関してはテキストの掲載ページを示し、要点はさらにわかりやすい方法で板書で対案し、補足説明も行われて、とても理解しやすく感じた。板書の字の大きさや赤チョークの使い方など見やすかった。講義の話すスピード、声の抑揚など、耳に入りやすく、気持ちのいい講義であった。講義の時々、薬剤師国家試験を意識して、過去に出題されて箇所を指摘し、学生の講義に集中させようとする努力がみられた。全体として、いい講義が展開されていると感じた。ひとつ問題点をあげると、学生が講義室後部に座っていて、後部にいる学生への配慮が必要と感じた。

小武家先生（公衆衛生学；Aクラス）

講義開始時、学生は着席済みであった。講義の声の大きさ・速さは適切で、聞き取り易かった。学生の理解を助ける工夫として、様々な取り組みを行っていた。前回の授業の復習として、国試問題を解かせ、知識を確認していた。授業開始時にシラバスに基づき、本日の進捗を説明し、コアカリの到達目標も明示しており、学生がシラバスを確認するように誘導していた。教科書を活用して講義を行い、学生達も熱心にマークを付けていた。市民公開講座等の紹介も行い、関心を深める努力を行っていた。

戸田先生（食品衛生学Ⅱ；Aクラス）

授業に先立ち授業アンケートが行われた。講義は主にパワーポイントを使い、教科書および参考資料も合わせて効率よく行われた。私は主に板書の講義をしているが、構造式を示すにはパワーポイントで大きく映写すればより正確で分かり易いと感じた。一部、配色を変えての説明もあったが、要点は活字の大きさや色を変えたりすれば、より効果的と思われた。パワーポイントを使った講義では、講義室を移動して講義が進行できるメリットがある。Aクラスなので、ほとんどの学生が真面目にノートをとっていたが、1名最初から寝ていた学生がおり、途中で先生が移動して注意をされていた。また、これからの休暇中の予習（復習？）のポイントを学生に伝えていた点は良かったと思う。講義の最後に小テストを組み入れ、学生の理解度の確認もされており、密度の濃い授業であった。

高露先生（分子生物学；Aクラス）

講義開始の前に、中間試験の結果について報告があり、単位取得のための具体的な説明があった。講義担当者の交代が今回からということもあり、担当する講義範囲について、全般的な内容の中から、今回の講義内容の位置づけを説明しておくことで、学生に対してわかりやすく解説していた。講義としては、教科書に準じてスライドと板書を用いて行っており、大変丁寧に説明していた。具体例を示すなど、身近なものとしてとらえることができ、理解しやすい工夫がなされていた。全般的に、学生に対して理解を促す工夫がなされており、質の高いものと思われた。

（2）参観者から見た学生の様子 「3年」

前田（共）先生（調剤学；Aクラス）

遅刻をして来た学生が3名ほどいた。授業開始後はまじめに授業を受けていた。しかし、しばらくするとスマホを操作したり、居眠りをする学生が数名見られた。

（同Bクラス）

ほとんどの学生は教科書を広げて講義を聞いていたが、持って来っていない（購入していない？）者も散見された。動画は非常に興味を持って聞いていたが、講義を通して、メモを取る学生が少なかった。また、内職・携帯使用・居眠りなどをしている学生が数名いたが、全体として静かに講義に臨んでいた。

吉武先生（病態生理学Ⅱ；Bクラス）

講義中のスマートフォン使用者は無く、静かに受講していた。講義中居眠りをしている学生は見当たらなかった。講義スライドの「追記」を、きちんとテキストにメモしている学

生が多かった。dysv 07 ファイルに保存されている講義スライドを事前に印刷し、講義に持参している学生も数名いた。

三嶋先生（薬物動態学Ⅱ；Aクラス）

○ほとんどの学生が熱心に集中して勉強出来ている様子であった。

○遅刻してくる学生も数名いたが、着席されると私語もなく比較的全員が集中して授業を受けていた。2限目の授業であったが、後ろから見る限り寝ている学生の姿はなかった。後部座席の学生しかわからないが、みんなテキストを開いて授業に参加し、赤線などのラインも引いて予習もされていた。テキストの上にスマホを置いて触っていたが一概に遊んでるとか別のことをしているという感じではなかった。

（同Bクラス）

○スマホを見ている学生が1名、居眠りが1名と少なく、殆どの学生が真面目に講義を聴いていた。ノートは講義内容をテキストに直接書き込んでいる学生が多かった。全員、静かに授業を受けており、私語はなかった。

○ポイントを板書されるためほとんどの学生がノートを取っていました。携帯を触る学生が数人いましたが、おしゃべりをする学生はおらず、静かな講義環境でした。

○最初に小テストが行われたが、ほんの一部を除き多くの学生が真摯に取り組んでいた。講義は、Bクラスの一番後ろの席で参観したが、周りの学生で講義中に寝る学生はほとんどいなかった。また、私語をする学生もいなかった（参観していたためかもしれない？）。講義の中での演習問題の板書による解説は、ほとんどの学生がノートを取っていた。

小山先生（薬物治療学Ⅱ；Aクラス）

遅刻者もおらず、後方に座っている学生も皆真剣に授業を聞いており、受講態度はよかったですと思います。

（同Bクラス）

○講義中の携帯使用者、私語などは無く、静かに受講していた。前回講義の課題に関する解答・解説は、熱心に聞きメモを取っている学生が多かった。講義開始30分後には、後部座席の数名が居眠りをしていました。後部座席の数名が、講義用テキストを持参していなかった。スクリーン上のパワーポイントスライドを見ずに、机の教科書（あるはプリント？）を見るためか下を向いている学生が多かった。授業参観は40分間であったが、途中退出する学生はいなかった。指定された座席についていなかったせいか、後部に座席を取っている学生が多かった。

○講義最初の問題については真面目に取り組んでいる様子が見られた。学生の座っている位置が全体的に教室右後方に偏っていたり、スライドの解説をしているのに下を向いている学生が散見されたりと、授業に取り組む意欲にばらつきが感じられた。

櫻田先生（薬理学Ⅳ；Bクラス）

講義には 71 名の学生が聴講していたが、履修者はこの数よりも多くいると思われる。座席表があるにもかかわらず、自由に着席している学生が多くいた。講義室は 19 列で、後部 5 列に 24 名が着席しており、前部 10 列までに半分の 37 名が着席していた。教科書を持参していない学生が後部座席に多く見られた。前に座っているから、意欲的とは言わないが、上記の点からも勉学に対する意欲のなさを感じ、この講義ばかりでないことも予想され、教員ひとりひとりの意識も必要であるが、大学全体としての問題であるとも感じた。この講義では、携帯等使う学生は見られなかった。

小武家先生（公衆衛生学；A クラス）

講義中のスマートフォン使用者はなく、静かに受講していた。講義中居眠りをしている学生は見当たらなかった。皆、教科書を持参しており、教員の指示により、熱心にマークを付けていた。

戸田先生（食品衛生学Ⅱ；A クラス）

A クラスの学生なので、若干 1 名を除き真面目に受講していた。

高露先生（分子生物学；A クラス）

中間試験結果について、ヒストグラムなどを用いて、今回のみならず、今までの成績と合わせた解説であったので、学生は大変真面目に聞いていた。また、再試験対策などにも言及しており、学生の立場に立ったものであった。講義が教科書に即していたものであるので、板書内容を教科書に書き写している学生が多く見受けられた。A クラスということもあるかもしれないが、眠っている学生や携帯電話を使用している学生は見受けられず、皆しっかりと講義に臨んでいた。

教員による授業の自己評価報告

平成 28 年度

平成 28 年度 教員による授業の自己評価について

教員の教育力向上を目的として、従来「学生による授業アンケート」と「学生アンケートに対する教員コメント」を実施し、一定の効果を得ていたが、さらなる教育力改善のため、専任教員を対象として「教員自身による授業の自己評価」を平成 26 年度より開始した。

平成 26 年度は「教員による自己評価」及び「次年度への計画」が記載項目として挙げられていたが、平成 27 年度は、「学生による授業評価に対するコメント」を追加した。これにより、授業に対する PDCA サイクル（授業（D）、自己評価及び学生評価（C）、次年度への計画（A/P））を 1 枚のシートで確認することができるようになった。

さらに、平成 28 年度は、自己評価の項目を①授業に対する自己評価、②学生による授業評価に対するコメント、③昨年の改善計画に対する自己評価、④次年度へ向けての改善計画の 4 項目とし、「③昨年の授業改善計画に対する自己評価」を追加した。これにより、昨年の自己評価による改善計画（P）、授業の実施（D）、授業の自己評価（C）、昨年の改善計画の自己評価（C）、次年度への改善（A/P）と、教員自身の授業に対する PDCA サイクルがさらに充実した。学生評価を加味することでさらに自己点検の際、学生の意見にたいする振り返り効果も得られるものである。

「教員による授業の自己評価」は、前期・後期終了後、学内サーバー(¥¥dysv10)の FD 委員会内フォルダーに教員個人が提出する方法で実施された。平成 28 年度は前期 44 件、後期 36 件について自己評価が提出された。提出された教員による自己評価は、印刷物として図書館で、学生・教職員を問わず、誰でも自由に閲覧できるよう設置している。

平成 28 年度 教員による授業の自己評価

担当者名		平成 28 年度	(前期・後期)
担当科目・ 授業回数	(回)	学年	() 年

1. 教員による授業評価

- (1) 授業計画と講義内容について説明しましたか。 はい いいえ
- (2) 講義内容への学生の理解度を深めるための工夫について、自己評価（該当箇所に○）を行って下さい。

	改善が必要 ←————→ 改善不要						該当 せず
	0	1	2	3	4	5	
① 配付資料のわかりやすさ							
② 板書の読みやすさ、わかりやすさ							
③ 講義で使用したスライドのわかりやすさ							
④ 重要な事項の強調方法の適切さ							/
⑤ 学生の理解度に応じた講義スピードの調節							/
⑥ 試験内容や試験方法に対する工夫							/

2. 学生による授業評価に対するコメント

3. 昨年の改善計画に対する自己評価

4. 次年度へ向けての改善計画

FD 活動報告

平成 28 年度

平成 28 年度 FD 講習会

平成 28 年度は、FD 委員会主催・共催を含めて下記 3 回実施した。本年度は、実務実習事前学習が大きく変化することから、実務実習事前学習に関する講習会を 5 月に開催した。この際、ルーブリックに関する話題が提供され、ルーブリックに関する講習を望む声が教員から多く上がり、ルーブリックに関する講習会を後期に実施した。また、例年通り学生委員会との学生指導に関わる講習会を共催した。講習会の概要及び実施したアンケート結果の取り纏めを記載した。

実施したアンケートをもとに、平成 29 年度はルーブリック及び研究資金獲得に関する講習会を実施する予定である。

1. FD 委員会主催講習会

日時：平成 28 年 5 月 31 日 13:00～15:00

場所：東大教室

講師：平田 収正 先生

大阪大学大学院薬学研究科教授

演題：薬学実務実習に関するガイドラインについて

2. FD・学生委員会共催講習会

日時：平成 28 年 9 月 12 日（月）13:00～14:35

場所：第一薬科大学 東大教室

講師：服部文香先生

臨床心理士

演題：「発達障害および学習障害学生の症状と対応方法」

3. FD・SD 委員会共催講習会

日時：平成 28 年 9 月 27 日 16:30～18:00

場所：S22 教室

演者：宮浦 崇 先生

九州工業大学 学習教育センター 准教授

演題：「学び」を支援する道具立て ～ルーブリックを活用する～

薬学実務実習に関するガイドラインについて

大阪大学大学院薬学研究所

平田 收正



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

本日の話題提供

1. 薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂と薬学実務実習に関するガイドラインについて
2. 薬学教育の質を担保するためのFDについて
(薬学教育評価機構・第三者評価基準から)
3. 大阪大学の薬学教育プログラムについて

中央教育審議会の提言

【2004年(平成16年)9月・大学分科会】

薬学教育の修業年限延長の趣旨を踏まえ、
今後薬学教育関係者の中で真摯に取り組みられることが
必要な事項について提言

【内 容】

- (1) 第三者評価の体制の整備 (教育の質の保証)
- (2) 実務実習の指導体制整備
- (3) 共用試験の実施に向けた検討
- (4) 実務実習時の患者の安全確保、責任体制の
明確化、事故防止・発生後の対応
- (5) 関係行政機関、関係団体等の協議の場の設置

新薬剤師養成問題懇談会 (新六者懇)

【構成6団体】

- ・ 文部科学省 (高等教育局医学教育課)
- ・ 厚生労働省 (医薬食品局総務課)
- ・ 一般社団法人日本病院薬剤師会
- ・ 公益社団法人日本薬剤師会
- ・ 国立薬学部長 (科長・学長) 会議
- ・ 社団法人日本私立薬科大学協会

薬学実務実習に
関する連絡会議
(カイトラインの作成)

【オブザーバー6団体】

- ・ 全国薬科大学長・薬学部長会議
- ・ 公益社団法人日本薬学会薬学教育委員
- ・ 一般社団法人薬学教育協議会
- ・ 公益社団法人日本薬剤師研修センター
- ・ 特定非営利活動法人薬学共用試験センター
- ・ 一般社団法人薬学教育評価機構

平成28年
日本薬学教育学会
第1回大会
8月27日・28日
京都薬科大学

薬学教育改革支援体制

日本薬学会

- 薬学教育委員会を設置し、モデル・コアカリキュラム改訂や、薬剤師教育の充実、学士カ・博士カの向上、生涯研鑽等に関する事業を実施。

薬学教育協議会

- 全国8地区に病院・薬局実務実習調整機構を設け、薬学教育者ワークショップや実務実習のマッチングを実施。

日本薬剤師研修センター

- 薬剤師の生涯学習支援や、認定実務実習指導薬剤師等の養成・認定事業を実施。

薬学共用試験センター

- 薬学共用試験（CBT・OSCE）を統括。

薬学教育評価機構

- 薬学教育の質の保証と向上を目的とした薬学教育第三者評価を実施。

6年制薬学教育に対応するカリキュラム

6年制薬学教育において、

科学の進歩に合った学生の育成、社会の要求を満たす学生の育成には、教育内容の見直しが必要。



知識偏重ではなく、技能、態度もバランスよく

教育するための

モデル・コアカリキュラム

を作成する。

充実した薬学教育の実現に向けて

H18 (1)	H19 (2)	H20 (3)	H21 (4)	H22 (5)	H23 (6)	H24 (7)	H25 (8)	H26 (9)	H27 (10)	H28 (11)
共用試験										
↑ トライアル 1 2 3 4 5 6 7										
↑ 実務実習 1 2 3 4 5 6										
↑ 第三者評価 トライアル 1 2 3										
↑ 国家試験 97回 98回 99回 100回 101回										
↑ モデル・コア 薬学教育モデル・コアカリキュラム + 実務実習モデル・コアカリキュラム 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム										

薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂

現行のモデル・コアカリキュラム

日本薬学会（平成14年8月）

「薬学教育モデル・コアカリキュラム」

薬剤師、薬学研究者等を目指す学生が学んで欲しい内容を整理した薬学専門教育のガイドライン。



文部科学省(平成15年12月)

「事前学習・病院実習・薬局実習モデル・コアカリキュラム」の目標、方略を作成し、その後評価（案）も作成。

事前学習
77 SBOs, 1ヶ月

薬局実習
116 SBOs, 2.5ヶ月

病院実習
108 SBOs, 2.5ヶ月

薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂

文部科学省

薬学系人材養成の在り方に関する検討会

薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会

文部科学省・大学における医療人養成推進等委託事業

日本薬学会

薬学教育委員会

薬学教育モデル・コアカリキュラムおよび実務実習
モデル・コア・カリキュラムの改訂に関する調査研究

モデル・コアカリキュラムの改訂に関する調査研究委員会
(薬学教育委員会委員・協力委員 + 全薬系大学教員)

→ 平成25年12月に

「薬学教育モデル・コアカリキュラム」の改訂が完了

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムの構成

【現行薬学教育モデル・コアカリキュラム】

- A 全学年を通して
: ヒューマニズムについて学ぶ
- B イントロダクション
- C 薬学専門教育 (C1-C18)

【実務実習モデル・コアカリキュラム】

- I 実務実習事前学習
- II 病院実務実習
- III 薬局実務実習

【改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム】

- A 基本事項
- B 薬学と社会
- C 薬学基礎
- D 衛生薬学
- E 医療薬学
- F 薬学臨床 (実務実習)
- G 薬学研究

薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂作業

- ⇒ 改訂の方針・手順の決定
- ⇒ 大学、関連機関・組織に対するアンケート実施
- ⇒ 「薬剤師として基本的資質」の決定
- ⇒ 改訂モデル・コアカリキュラム原案の作成

【モデル・コアカリキュラムの改訂に関する調査研究委員会】

- 日本薬学会薬学教育委員会委員
 - 協力委員
- 74大学：各1名
日本薬剤師会：10名
日本病院薬剤師会：10名
- 7領域に分かれて
原案を作成
- ⇒ 大学、関連機関・組織からの意見聴取
 - ⇒ 修正・パブリックコメントの聴取
 - ⇒ 再修正・最終案の決定

現行の実務実習モデル・コアカリキュラム

I. 実務実習事前学習

- ① 事前学習を始めるにあたって
- ② 処方せんと調剤
- ③ 疑義照会
- ④ 医薬品の管理と供給
- ⑤ リスクマネージメント
- ⑥ 服薬指導と患者情報
- ⑦ 事前学習のまとめ

II. 病院実習

- ① 病院調剤を実践する
- ② 医薬品を動かす・確保する
- ③ 情報を正しく使う
- ④ ベッドサイドで学ぶ
- ⑤ 薬剤を造る・調べる
- ⑥ 医療人としての薬剤師

III. 薬局実習

- ① 薬局アイテムと管理
- ② 情報のアクセスと活用
- ③ 薬局調剤を実践する
- ④ 薬局カウンタースタッフで学ぶ
- ⑤ 地域で活躍する薬剤師
- ⑥ 薬局業務を総合的に学ぶ

改訂モデル・コアカリキュラム：F 薬学臨床

- (1) 薬学臨床の基礎
 - ① 早期臨床体験
 - ② 臨床における心構え
 - ③ 臨床実習の基礎
- (2) 処方せんに基づく調剤
 - ① 法令・規則等の理解と遵守
 - ② 処方せんと疑義照会
 - ③ 処方せんに基づく医薬品の調製
 - ④ 患者・来局者応対、服薬指導、患者教育
 - ⑤ 医薬品の供給と管理
 - ⑥ 安全管理
- (3) 薬物療法の実践
 - ① 患者情報の把握
 - ② 医薬品情報の収集と活用
 - ③ 処方設計と薬物療法の実践 (処方設計と提案)
 - ④ 処方設計と薬物療法の実践 (薬物療法における効果と副作用の評価)
- (4) チーム医療への貢献
 - ① 医療機関におけるチーム医療
 - ② 地域におけるチーム医療
- (5) 地域の保健・医療・福祉への参画
 - ① 在宅医療・介護への参画
 - ② 地域保健への参画
 - ③ プライマリケア、セルフメイカーシヨンの実践
 - ④ 災害時医療と薬剤師

薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂のポイント

- ### 薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂
1. 「薬剤師として求められる基本的な資質」に基づいてGIO、SBOsを見直すこと。
 2. 学習成果基盤型教育 (Outcome-based Education (OBE)) の考え方を導入すること。
 3. 改定後のカリキュラムで学んだ学生が社会に出た時 (10年後) の薬剤師が必要とする新たな内容を含むこと。従って、現行のカリキュラムの枠を超えた議論が必要。

薬剤師として求められる基本的な資質 (1)

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する。

6年卒業時に必要とされている資質は以下の通りである。

- (薬剤師としての心構え)
医療の担い手として、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識をもち、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感および倫理観を有する。
- (患者・生活者本位の視点)
患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。
- (コミュニケーション能力)
患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。
- (チーム医療への参画)
医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。

薬剤師として求められる基本的な資質 (2)

(基礎的な科学力)

生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。

(薬物療法における実践的能力)

薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。

(地域の保健・医療における実践的能力)

地域の保健、医療、福祉、介護および行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。

(研究能力)

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。

(自己研鑽)

薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

(教育能力)

次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。

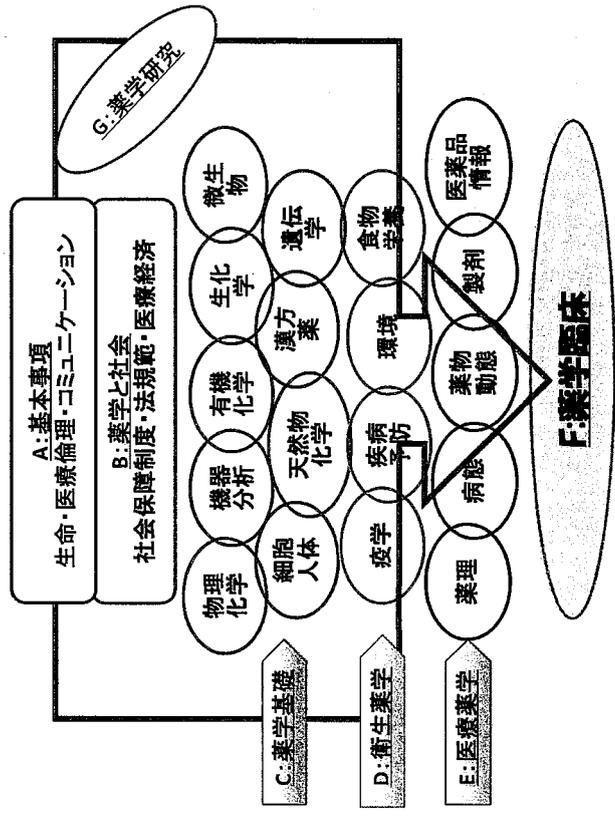
薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂のポイント

薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂

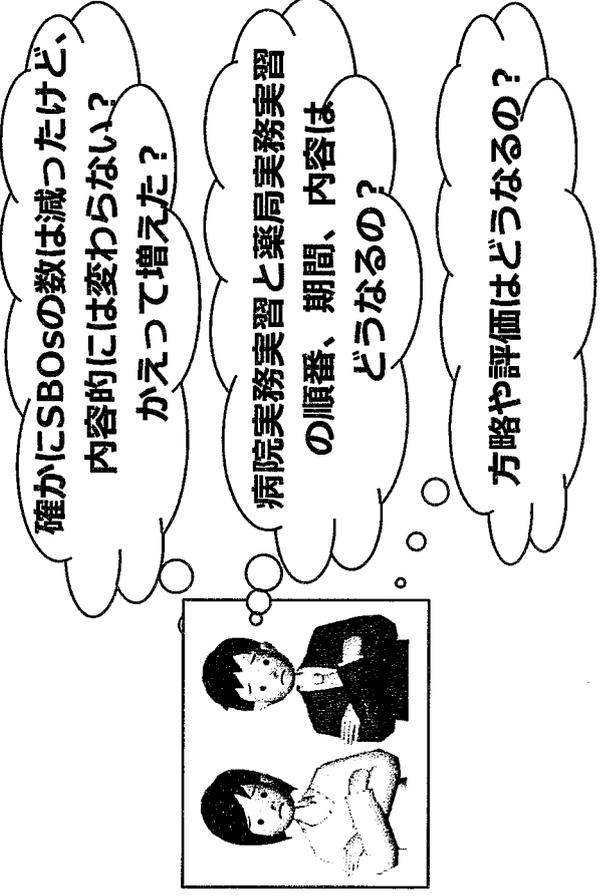
2. 学習成果基盤型教育 (Outcome-based Education (OBE)) の考え方を導入すること。

従来は、
プロセス基盤型教育

薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂のポイント



薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂



薬学実務実習に関する連絡会議

▶ 新六者懇のもとに薬学実務実習に関する連絡会議を設置

【目的】

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習の在り方実施体制等の大枠や方針について、関係機関間の調整を図るとともに、各機関の役割や検討事項を明確化し、薬学実務実習の実施に向けて各機関の取組へと引き継ぐことを目的として、協議の場を設ける。

【検討事項】

- (1) 改訂コアカリに基づく薬学実務実習の在り方
- (2) 薬局実習と病院実習の区分、分担
- (3) 方略作成の必要性
- (4) 実習施設の確保
- (5) その他、必要な事項

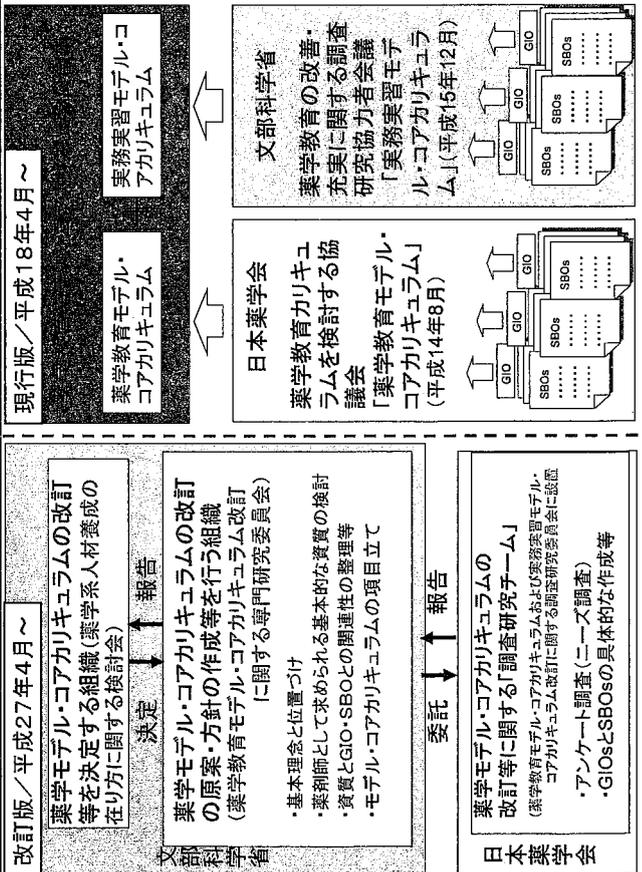
▶ 平成26年度に「薬学実務実習に関するガイドライン」を策定

平成26年度作成 ＜薬学実務実習に関するガイドライン＞ について

より有意義で効果的な
薬学実務実習を目指して

薬学実務実習に関する連絡会議 WG

薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂の体制 比較



改訂モデル・コアカリキュラムと 「薬剤師として求められる基本的な資質」

薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂の概要 (平成26年12月25日改訂)

○従前のモデル・コアカリキュラム

日本薬学会が「薬学教育モデル・コアカリキュラム」(H14.8)を作成し、文部科学省の協力者会議が「実務実習モデル・コアカリキュラム」(H15.12)を作成。

○改訂の体制

・文部科学省の「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」が改訂を決定。
・検討会の審議を踏まえ「薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会」が改訂の原案・方針等を作成。
・具体的なモデル・コアカリキュラムの作成は日本薬学会に委託。
※上記三者が連携して改訂作業を実施。

○改訂の基本方針

・6年制学部・学科の学士課程教育に特化した内容とする。
・現在の「薬学教育モデル・コアカリキュラム」及び「実務実習モデル・コアカリキュラム」の二つを関連づけて一つのモデル・コアカリキュラムとして作成する。
・薬剤師として求められる資質を明確にし、その資質を身に付けるために学ばなければならない形に変更する。

○改訂のポイント

・医療人である「薬剤師」として求められる基本的な資質を設定。
①薬剤師としての心構え、②患者・生活者本位の視点、③コミュニケーション能力、④チーム医療への参画、⑤基礎的な科学力、⑥薬物療法における実践的能力、⑦地域の保健・医療における実践的能力、⑧研究能力、⑨自己研鑽、⑩教育能力

「基本的な資質」を前提とした学習成果(成果基盤型教育 (outcome-based education))に力を置き、「基本的な資質」を身につけるための一般目標(GIO)を設定し、GIOを達成するための到達目標(SBO)を明示。

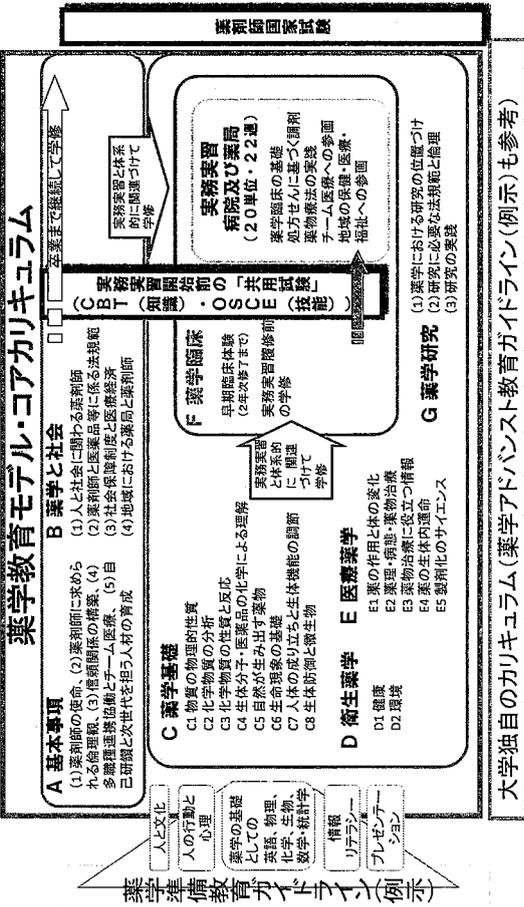
【大項目：A基本事項、B薬学と社会、C薬学基礎、D衛生薬学、E医療薬学、F薬学臨床、G薬学研究】

・医療人としての薬剤師を養成するため「A基本事項」、「B薬学と社会」を充実。学生は6年間継続して学修。
・「F薬学臨床」は今後の薬剤師業務の進歩を想定し大幅に昇直し、他の大項目は「F薬学臨床」と体系的に関連づけて教育できる見直し。
・教育課程の時間数の7割はモデル・コアカリキュラムに示された内容を、3割は大学独自のカリキュラムを履修。

平成27年度から各大学において改訂モデル・コアカリキュラムに基づく新たな教育を開始

薬学教育モデル・コアカリキュラム(平成25年12月改訂、27年度から実施)

- ・6年制薬学部のカリキュラム作成の参考となる教育内容ガイドラインであり、学生が卒業までに身に付けておくべき必須の能力の到達目標を提示
- ・「薬剤師として求められる基本的な資質」を設定し、それをもとにつけるための一般目標、到達目標を設定する
- ・学習成果基盤型教育(outcome-based education)に力点
- ・教育課程の時間割の7割はモデル・コアカリキュラムに示された内容を、3割は大学独自のカリキュラム等を履修



薬学準備教育ガイドライン(例示)

大学独自のカリキュラム(薬学アドバンスト教育ガイドライン(例示)も参考)

薬剤師として求められる基本的な資質

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊厳を深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通じて社会に貢献する。
6年卒業時に必要とされている資質は以下の通りである。

- (薬剤師としての心構え)**
医療の担い手として、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識をもち、薬剤師の義務及び法を守るとともに、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感及び倫理観を有する。
- (患者・生活者本位の視点)**
患者の人權を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。
- (コミュニケーション能力)**
患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々には有益な情報を提供するのためのコミュニケーション能力を有する。
- (チーム医療への参画)**
医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。
- (基礎的な科学力)**
生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。
- (薬物療法における実践的能力)**
薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。
- (地域の保健・医療における実践的能力)**
地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。
- (研究能力)**
薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。
- (自己研鑽)**
薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。
- (教育能力)**
次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。

医療人材養成のための

新しいカリキュラム 学習成果基盤型教育 Outcome-based education (OBE)

アウトカム (最終的な成果) の提示、どこまで達成したか確認しながら学習する。
学習者がどこまで到達したかを総合的に評価しながら学習を進める。
薬学部6年卒業時のアウトカムとして
「**薬剤師として求められる基本的な資質**」を明示。
その**資質修得を目指して、学習目標を定める。**
形式は現在のGIO/SBOですが、それは**資質修得への評価・確認点**



改訂モデル・コアカリキュラム 「F:薬学臨床」の重要ポイント

F 薬学臨床 GIO

患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

※F薬学臨床における代表的な疾患は、がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症とする。
病院・薬局の実務実習においては、これら疾患を持つ患者の薬物治療に継続的に広く関わること。

以下 **5つの中項目**でGIOが提示されている。

改訂モデル・コアカリキュラム

F:薬学臨床

(1) 薬学臨床の基礎

「原則として2年次修了までに学習する事項」
早期臨床体験
早期体験学習や一次救命処置も重要な臨床教育として位置付け

計数・計量調剤
疑義照会
医薬品管理と供給
服薬指導
リスクマネージメント

薬物モニタリング
医薬品情報
薬局カウンターで学ぶ

把握【医薬品情報の収集と活用】
薬物療法の実践(処方設計と提案)
薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)

医療への貢献

【医療機関におけるチーム医療】
【地域におけるチーム医療】

(5) 地域の保健・医療・福祉への参画

在宅医療・介護への参画【地域保健への参画】
プライマリケア、セルフメディケーションの実践
災害時医療と薬剤師

F 薬学臨床 GIO

患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

※F薬学臨床における代表的な疾患は、がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症とする。

病院・薬局の実務実習においては、これら疾患を持つ患者の薬物治療に継続的に広く関わること。

以下 **5つの中項目**でGIOが提示されている。

改訂モデル・コアカリキュラム

F:薬学臨床

(1) 薬学臨床の基礎

処方せんに基づく調剤

薬物療法の実践

【患者情報の把握】
【医薬品情報の収集と活用】

【処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】

【処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】

チーム医療への貢献

【医療機関におけるチーム医療】
【地域におけるチーム医療】

(5) 地域の保健・医療・福祉への参画

在宅医療・介護への参画【地域保健への参画】

プライマリケア、セルフメディケーションの実践

災害時医療と薬剤師

改訂コアカリ 前)は、実務実習に行く前の1～4年次終了までに到達すべきSBOs。

【③処方せんに基づく医薬品¹⁾

1. 前) 薬袋、薬札(ラベル)にべき事項を適切に記入できる。(技能)
2. 前) 主な医薬品²⁾(一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。
3. 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)
4. 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。
5. 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。
6. 前) 無菌操作の原理を説明できる。
7. 前) 抗悪性腫瘍薬などの実務実習で到達すべき目標³⁾を達成できる。(技能)
8. 前) 処方せんに基づき調剤される⁴⁾医薬品から該当する製品を選択できる。(知識・技能)
9. 前) 主な医薬品の一般名・⁵⁾剤形から該当する製品を選択できる。(技能)
10. 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)
11. 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)
12. 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)
13. 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)
14. 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)
15. 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。

一貫性のある薬局・病院実習の実施

薬局と病院の目標(SBO)は区別して記載していない。

- ◎実習期間中、継続的に多くの症例や事例を体験し、薬物療法の実践を行うために……
- 調剤・服薬指導・医薬品情報業務など、病院・薬局で共通する学習内容を、情報を共有して効果的に実習を行う。

- ◎学生の評価も共有して、病院・薬局で一貫した実習を行えば……
- 学生の薬剤師業務に対する理解も深まり、医療の連携も実感できる。

より多くの患者・来局者を、より多くの症例を体験するために

代表的な疾患

薬学臨床の学習で関わるべき疾患を提示。

**がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害
精神疾患、免疫・アレルギー一疾患、感染症**

さらに

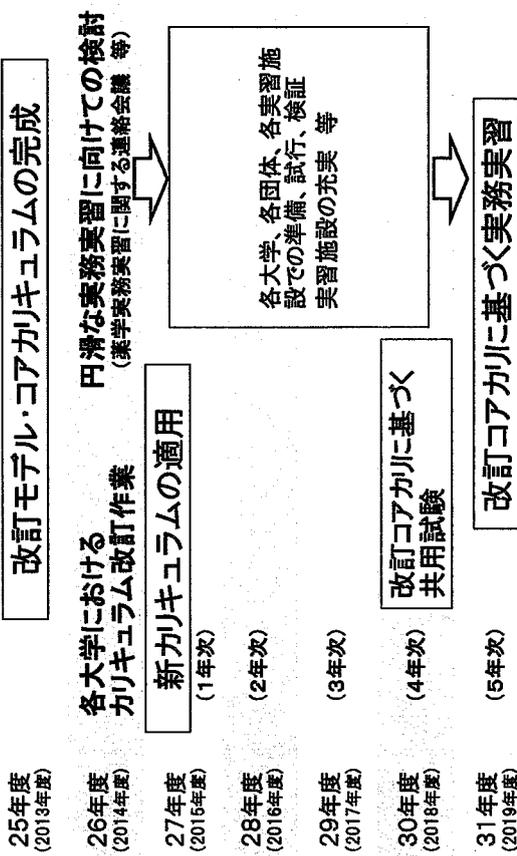
最低限共通して確保したい内容は括弧内に

「例示」している。

↑ 実習内容標準化(公平化)のための提示

「薬学実務実習に関するガイドライン」の概要

改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した
薬学実務実習を実施するために



薬剤師養成問題懇談会(六者懇)

(趣旨)
学校教育法の一部を改正する法律及び薬剤師法の一部を改正する法律が成立し、平成18年4月より薬剤師養成のための薬学教育の修業年限が6年となったことを受け、今後の薬剤師養成において当面する諸課題に対する各関係機関の役割を明確化し、新制度下での薬剤師養成の円滑な実施に資するため、薬剤師養成問題懇談会を開催する。

- (組織)
- メンバー
- ・ 国公立大学薬学部長(科長・学長)会議
 - ・ 日本私立薬科大学協会
 - ・ 日本病院薬剤師会
 - ・ 日本薬剤師会
 - ・ 厚生労働省
 - ・ 文部科学省
- オブザーバー
- ・ 薬学教育協議会
 - ・ 日本薬学会 薬学教育委員会
 - ・ 日本薬剤師研修センター
 - ・ 全国薬科大学長・薬学部長会議
 - ・ 薬学教育評価機構
 - ・ 薬学共用試験センター

- (懇談事項)
- ①長期実務実習の実施体制の整備について
 - ②共用試験の実施について
 - ③第三者評価の実施について
 - ④薬剤師需給について
 - ⑤生涯学習及び研修の充実方策について
 - ⑥その他

薬学実務実習に関する連絡会議の設置

薬剤師養成問題懇談会(六者懇)の下で、現在実施されている実務実習の問題点を洗い出し、平成31年から始まる「改訂モデル・コアカリキュラム」に準拠した実務実習を円滑に行えるようにするための方針や体制を協議する連絡会議を平成26年3月から開始。

その協議結果は、まず「薬学実務実習に関するガイドライン」として提示した。
⇒ 毎年見直しを行い、より良いガイドラインを目指す。

薬学実務実習に関する連絡会議

1. 目的

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム(以下「改訂コアカリ」という。)に基づく薬学実務実習の在り方、実施体制等の大枠や方針について、関係機関間の調整を図るとともに、各機関の役割や検討事項を明確化し、薬学実務実習の実施に向けて各機関の取組へと引き継ぐことを目的として、協議の場を設ける。

2. 検討事項

- (1)改訂コアカリに基づく薬学実務実習の在り方
 - (2)薬局実習と病院実習の区分、分担
 - (3)方略作成の必要性
 - (4)実習施設の確保
 - (5)その他、必要な事項
3. 実施方法

(1)会議は、国公立薬学部長会議、日本私立薬科大学協会、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会、厚生労働省、文部科学省、薬学教育協議会、日本薬学会教育委員会、文科省コアカリ専門研究委員会、大学関係者で構成。

(3)会議は原則公開とする。

4. 実施期間

平成25年11月8日から平成27年3月31日までとする。

薬学実務実習に関する連絡会議（H27以降）

1. 目的

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム（以下「改訂コアカリ」という。）に基づく薬学実務実習の在り方、実施体制等の大枠や方針について、関係機関間の調整を図るとともに、各機関の役割や検討事項を明確化し、薬学実務実習の実施に向けて各機関の取組へと引き継ぐことを目的として、協議の場を設ける。

2. 検討事項

- (1) 改訂コアカリに基づく薬学実務実習の在り方
 - (2) 改訂コアカリに基づく薬学実務実習の実施に向けた準備状況の確認
 - (3) 薬学実務実習に関するガイドラインの検証と改訂
 - (4) その他、必要な事項
- ### 3. 実施方法
- (1) 会議は、国立薬学部長会議、日本私立薬科大学協会、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会、厚生労働省、文部科学省、薬学教育協議会、日本薬学会教育委員会、文科省コアカリ専門研究委員会、大学関係者で構成。
 - (3) 会議は原則公開とする。

4. 実施期間

平成25年11月8日から平成31年3月31日までとする。

※平成26年11月18日開催の新薬剤師養成問題懇談会（新六省総）において一部改正を了承

※平成27年4月1日より施行

ガイドラインの位置づけ②

- ・次世代を担う薬剤師を育成する責務が、大学と現職薬剤師双方にあることを充分理解して薬学臨床教育を行う。
- ・コアカリの目指す学習が適切に行われ目標が達成されているか、大学と実習施設双方で常に確認・評価していくことが必要。
- ・平成31年からの実習に向け、ガイドラインに従いさらに充実した学習方法の検討、連携の準備等を行うことが望まれる。そのため実習開始までに大学や実習施設の状況等を毎年確認し、ガイドラインを検証していく。
- ・ガイドラインは、まず3年間の準備期間を目安に検証し、必要があれば改訂する。本実施後も定期的に見直し改訂していく。

ガイドラインの位置づけ①

・ガイドラインは、改訂コアカリに準拠した大学の臨床準備教育及び実務実習を適正に実施するための指針を示したもの。

・「薬剤師として求められる基本的な資質」修得を目指し、実践的な臨床対応能力を身につける実習を提示している。

・ガイドラインには、大学が主導的な役割を果たし、病院及び薬局と円滑に連携して、「薬学実務実習の在り方・目標」に述べる実習が実現されるよう、様々な工夫等を盛り込んでいる。

・内容を良く理解いただき、臨床準備教育から実習において学生が高い臨床対応能力を修得できるよう大学、実習施設で本ガイドラインを十分活用いただきたい。

「薬学実務実習に関するガイドライン」 の具体的な提示

効果的な参加・体験型臨床実習の
実施に向けて

参加・体験型の臨床実習の充実

- ・実務実習では、実践的な臨床対応能力を身につける参加・体験型学習を行う。

集合研修や講義で教えられないことは大学で、医療現場でしか学べない内容を実習で体験しながら身につける。

- ・臨床現場で幅広く事例や症例を体験して、薬剤師業務の意義・役割を理解する。

病院・薬局が連携した一貫性のある実習

- ・大学が主導的役割を果たし、病院・薬局間で重複する目標の指導を分担し、一貫性のある学習効果の高い実習を行う。

薬学実務実習に関するガイドライン 資料より

連続した22週間の実習を年間3回実施する実習期間の例示

実習のパターン

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
共用試験本試験終了の4年次2月から実習開始																
学生A	I期			II期			III期			IV期						
学生B	病院実習			病院実習			病院実習			病院実習						
学生C	薬局実習			薬局実習			薬局実習			薬局実習						
学生D	病院実習			薬局実習			薬局実習			病院実習						
学生E	病院実習			病院実習			薬局実習			薬局実習						
学生F	病院実習			病院実習			病院実習			薬局実習						

I～IV期のそれぞれの実習開始日は、全国的に同じとする。各実習施設は、原則として最大3つの期までエントリーが可能。(I期とIV期が重なるため。)

効果的な実習のための仕組み見直し

患者・来局者に早期から対応し、「代表的な疾患」を充分体験できる効果的な実習を行うための、改訂コアカリの要請

- ・病院実習と薬局実習を連続して行うことで、連携を図り一貫性を確保。
- ・実習期間は連続性のある22週間とし、各施設11週間を原則。(実習期間間に2週間から4週間程度の準備とふりかえり期間を設定。)
- ・連続した実習を確保するために4期制で割り振り。
- ・そのために全体として施設数や受入れ規模を増やす必要がある。

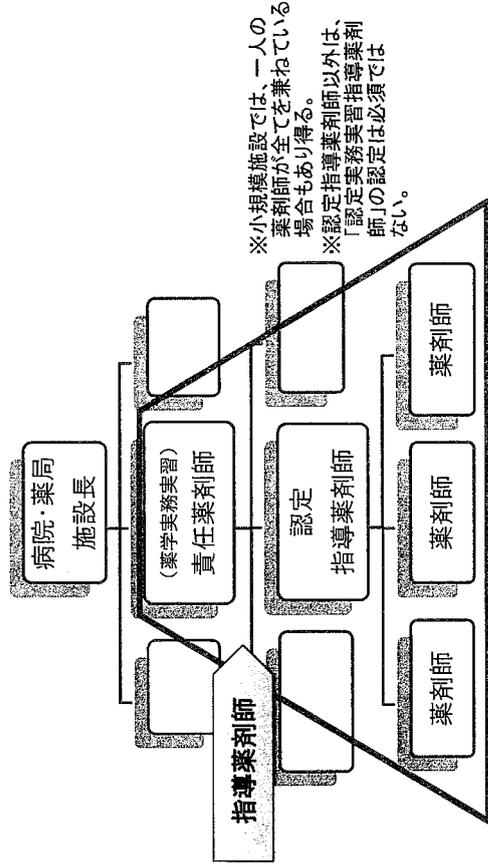
実務実習の仕組みについての提示 補足

- ・連続した期で実習を行えるよう、現行の「I期とII期」の実習を解消するために、実習の期を4期に分ける。具体的な日程については、調整機構で決める。
- ・大学は、各学生が2期連続で実習できるように調整機構において手続きを行う。
- ・期と期の間は、連続性を確保しつつも、学生に対するフォローや実習施設の準備の期間を確保する必要があることから、原則2週間～4週間とする。
- ・8月中旬と年末年始の一週間は空ける。その期間に実習期が重なる場合は、当該期を一週間延ばして実習日程を確保する方法も検討する。
- ・病院実習と薬局実習の順番については、各地区調整機構において、調整方法や施設数等の実態を踏まえ検討を行う。
- ・薬学共用試験の現行の日程、方法を前提に、具体的な日程を決定する。

- 円滑で学習効果の高い実務実習を行うために、適切かつ充実した臨床準備教育を実施。
- 実習施設による個々の学生の実務実習実施計画書の作成に積極的に関与し、実習の内容、目標、評価指標を提示。
- 実習施設と連携を密にして、内容と質の担保に関与し、学習効果を常に確認。
- 各学生ごとに実習での研修の情報を実習施設間で共有できるように、大学が主体的に関与。
- 実習に関する大学の責務について、教員間で意識を共有。

52

施設全体での実習サポート体制



54

参加・体験型の質の高い実習実施のための環境整備

- 実習施設の業務の責任者「責任薬剤師」を中心に施設全体で実習に対応する体制の整備。
- 病院一薬局実習を通してすべての学生が「代表的な疾患」を学び、すべてのSBOが実施できるよう努める。そのために 施設間連携・グループ実習も検討。
- 薬物治療、チーム医療、地域医療等を実習生が充分学べるよう積極的な業務を行っていること。

53

指導する薬剤師への指針

- 施設内全ての薬剤師が積極的に実習に参加。
- 実習生が多くの患者等に接して幅広い薬剤師業務を繰り返し体験する実習。＜単に作業を教えるのではなくその業務の意義を理解するよう教える。＞
- 大学と常に連携し実習生の「実務実習実施計画書」を作成し、実習の情報を大学-薬剤師間で共有する。
- 実習生の目標となる資質を有した薬剤師であること。
- コアカリの意義・内容の把握や、指導能力の向上に努める。

55

薬局⇒病院連携実務実習 実習内容・期間の例示

薬局実習		病院実習	
●薬局実習導入	1週間	○病院実習導入	1週間
●保険調剤 (調剤、監査、疑義照会、基本的な投薬)	3～4週間	○内服、外用薬調剤	1週間
●薬物治療モニタリング・情報提供	5～6週間	○注射薬調剤・無菌調製	1週間
(処方疑折、薬歴活用、服薬指導、健康相談)	注1) 注2)	○病棟業務実践 (チーム医療や急性期医療含む)	6～9週間 注1)
		○がん化学療法 (レジメンチェック、抗がん剤調製)	注4)
		○DI、TDM、医薬品管理室	2週間 注5)
●地域貢献の実践 (セルフメディケーション、在宅支援、地域保健活動)	2～3週間 注3)		

注1)薬局での(薬物治療モニタリング)は、患者来局時に合わせて実施することになる。したがって、実習の全期間で継続実施することを意識する必要がある。病院での薬物治療モニタリングは、学生が(病棟業務実践)の期間に計画的にベントサイトに行くことで実施する。
 注2)薬局での(薬物治療モニタリング、情報提供)では、院外処方せんによる外来患者だけでなく、在宅療養患者、健康相談者など、幅広く多くの事例を体験する。
 注3)薬局での(地域貢献の実践)では、OT販売や在宅支援、地域包括ケアシステムへの参画、学校薬剤師や災害対策など、薬局が地域保健、医療、福祉に関与する多くの事例を実践に体験する。
 注4)(がん)化学療法は、病棟業務実践の一部として実習する。
 注5)(DI、TDM、医薬品管理室)については、集中科にそれぞれ部門毎の実習をすることも可能だが、病棟業務実践の一部として実習することもできる。

薬局-病院 実務実習 具体的実習内容の例示

実習内容	大学	薬局	病院
①処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	①処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
②処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	②処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
③処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	③処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
④処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	④処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
⑤処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	⑤処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
⑥処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	⑥処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
⑦処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	⑦処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
⑧処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	⑧処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
⑨処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	⑨処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
⑩処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	⑩処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
⑪処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	⑪処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
⑫処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	⑫処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
⑬処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	⑬処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
⑭処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	⑭処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
⑮処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	⑮処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
⑯処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	⑯処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
⑰処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	⑰処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
⑱処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	⑱処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
⑲処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	⑲処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
⑳処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	⑳処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㉑処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㉑処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㉒処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㉒処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㉓処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㉓処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㉔処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㉔処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㉕処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㉕処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㉖処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㉖処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㉗処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㉗処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㉘処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㉘処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㉙処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㉙処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㉚処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㉚処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㉛処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㉛処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㉜処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㉜処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㉝処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㉝処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㉞処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㉞処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㉟処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㉟処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㊱処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㊱処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㊲処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㊲処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㊳処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㊳処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㊴処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㊴処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㊵処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㊵処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㊶処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㊶処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㊷処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㊷処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㊸処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㊸処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㊹処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㊹処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㊺処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㊺処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㊻処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㊻処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㊼処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㊼処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㊽処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㊽処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㊾処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㊾処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		
㊿処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)	㊿処方箋の読み取り・処方内容の確認(処方箋、処方箋控え)		

実務実習での評価

OBEに基づく実習生の評価

- ・ 実習生が大学の設定する到達目標にどこまで到達しているかを常に評価する。そのための評価基準を大学が主導し実習施設と連携して作成する。
- ・ SBOをチェックポイントとし、「薬学臨床」の到達点を提示したGIOの到達度を総合的に評価。

大学、指導薬剤師、実習施設の評価

- ・ 大学は、実習の状況を把握し、要改善事項があれば施設、指導薬剤師、担当教員と協議。
- ・ 薬学教育協議会は、終了時に大学と実習施設に対し調査。

薬学実務実習に関するガイドラインより

病院での、薬局での「望ましい参加・体験型実習」(例示・参考)

病院での望ましい参加・体験型実習 (特記実習)
 (病院での薬物療法のモニタリング)
 【参考例】【指導にあたる薬剤師用・学生用】
 ※ここに示す例は、各大学・実習施設の実状に合わせた調整を必要とする。

1. 実習のねらい
 卒業後に精神薬剤師として働くことができるよう、薬学教育における臨床実習で、指導薬剤師とともに病院の医療チームに参加し、その一員として業務を実践しながら以下のような臨床対応能力を身に付けること

【薬局での参加・体験型臨床実習】
 【参考例】【指導にあたる薬剤師用・学生用】
 ※ここに示す例は、各大学・実習施設の実状に合わせた調整を必要とする。

1. 実習のねらい
 薬局薬剤師の業務は、処方せん調剤、在宅療養支援、セルフメディケーションの推進、地域医療・衛生活動への参加等多岐にわたる。薬局実務実習では、それらの意義と地域医療を支える心構えを理解し、地域医療に貢献する能力を身につけることを目標とする。

1) 処方せん調剤：処方せんに基づき正確な調剤が基本であり、個々の患者に対応した情報収集とモニタリング、監査、疑義照会、服薬指導、情報提供を行う。薬剤服用歴(薬歴)や検査結果等から患者の状態を把握し、特に「代表的な疾患」については可能な限り継続的に関わって、安全で適正な薬物療法を実践する能力を高める。

OBEでの新しい評価方法例示：ループリリック評価

目標：処方せん調剤業務で「監査」ができる。

基準 観点	4 すばらしい	3 大丈夫	2 もう少し	1 がんばれ
処方せん調剤 業務での 「監査」	処方せんの指 示、調製され た薬剤が患者 個々に適切に 対応している か確実に判断 できる。	処方せんの指 示、調製され た薬剤が患者 個々に適切に 対応している か判断できる ことが多い。	処方せんの指 示が適正であ ることは判断 できるが、患 者個々に対応 する視点を失 念することが 多い。	処方せんの指 示(薬の種類・ 投与量・投与 期間等)が適 正であること が確実に判断 できないこと が多い。

知識や技能を活用・応用して、
判断、行動、表現、伝達する
総合的な能力を評価する。
できて欲しいパフォーマンスの
評価基準、目標を明確にする。

60

各団体において取り組むべき事項 ①

連絡会議(H27.2.10)資料から作成

1. 実習施設の要件等

・ガイドラインに基づく実習を行うため、「基本的な考え方」のうち以下の点(※)について日病薬、日薬において検討と見直しを行い、中央調整機構で確認するとともに、連絡会議に報告し、必要に応じて再度見直しを行う。

※ グループ実習、一施設あたりの受入れ人数

・平成27年秋頃に連絡会議を開催することとし、それまでに検討、見直し、確認を行う。連絡会議で確認を行うとともに、各地区調整機構において実施に向けた検討と準備を行う。

62

「薬学実務実習に関するガイドライン」

今後の課題

平成31年度改訂コアカリに準拠した
実務実習実施を指して

61

各団体において取り組むべき事項 ②

2. 実習施設、指導薬剤師の確保と質の向上

・各団体、大学、施設は、以下について準備を進める。
各団体は準備状況を毎年度、連絡会議に報告する。

○実習施設等の確保、質の向上

- ・調整機構における実習施設の確認・公表
- ・各大学から良い事例を汲み上げる仕組みの検討、良い実務実習に関する事例集の作成、等(協議会、調整機構)

○認定指導薬剤師関係(薬学教育協議会、調整機構)

- ・認定指導薬剤師関係ワークショップの内容検証と改善充実
- ・参加者割り振り方法の見直し

63

各団体において取り組むべき事項 ③

◎ ガイドライン実効性の担保

- ・大学、実習施設に対するガイドラインの説明、周知(各団体)
 - ・各地区で、4期制で安定的に割り振りが行えるようにするための施設確保、調整方法の検討。そのためのH31年の状況を想定したシミュレーションの実施(調整機構)
 - ・各地区において必要に応じ、病院実習と薬局実習の順番について、実態を踏まえ検討(調整機構)
 - ・各大学等の取組状況を調査、公表(文科省、関係する各団体)
- ◎ ふるさと実習の推進策の検討(協議会、調整機構、関連団体)

64

ガイドライン全文を必ずご確認ください

この資料は、あくまでガイドラインの抜粋です。必ず、ガイドライン本体をご覧ください。その上で、内容を良く理解いただき、平成31年からの実習に向けて、大学、実習施設で準備を進めていただきますようお願いいたします。

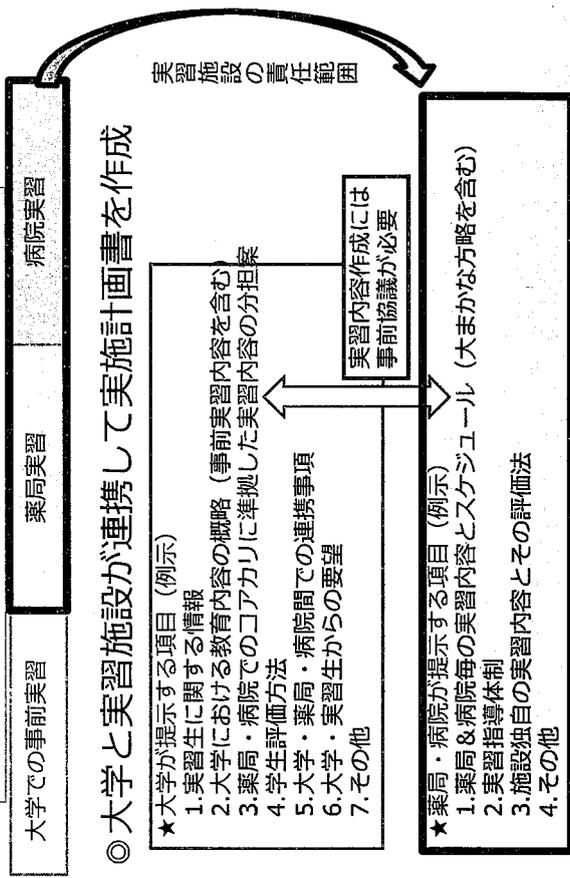
連絡会議のWebサイト

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/058/index.htm
もしくは、文部科学省のトップページで、「薬学連絡会議」で検索。

66

実務実習実施計画書(実施計画書)の作成に関して

実施計画書は、すべての実務実習をカバーする必要がある



2. 薬学教育第三者評価の目的

- 1) 教育研究活動の質を保証するため、各大学を定期的に評価し、教育研究活動の状況が最低限でも、評価基準に適合していることの認定（水準評価、適格認定）。
- 2) 目指すべき理想を掲げることによる、大学の教育研究活動の改善促進。
- 3) 大学の特徴の浮き彫りと優れた点の助長。
- 4) 薬学の教育研究活動を社会に開示して、広く国民の理解を得ること。

これからの薬学教育に求められること

改訂モデル・コアカリキュラムに沿った6年制薬学教育の実施

- ◆ 従来のカリキュラムの教育効果の検証
 - ・ 教育研究上の目的、ディプロマ・カリキュラム・アドミッションポリシーの見直し
- ◆ カリキュラム、シラバスの改訂（目標・方略・評価）
 - ・ 「資質」を身につけるための学習成果基盤型教育へ
 - ・ 各大学独自の薬学専門教育の実施（3割程度）
 - ・ 実習施設との連携による実務実習カリキュラム作成
- ◆ 主体的で実効性のある薬学教育の提供
 - ・ 共用試験・国家試験対策に過度に偏らないこと
 - ・ 十分な卒業研究を実施すること（期間・環境）
 - ・ 学習の目標到達度を適切に評価すること
- ◆ PDCAサイクルによる見直し・改善
 - ・ 自己評価・外部評価・学生の意見の反映

基準・観点の表現

- 必須条項
 - ：「・・・であること。」「・・・されていること。」等
 - ⇒ 定められた内容が満たされていることが求められるもの。
- 努力条項
 - ：「・・・に努めていること。」等
 - ⇒ 各学部・学科において、少なくとも定められた内容に関する措置を講じていることが求められるもの。
- 理想条項
 - ：「・・・が望ましい。」等
 - ⇒ 各学部・学科において、定められた内容が実施されていれば、評価において「優れている」と判断されるもの。

薬学教育評価基準

大項目	中項目	『基準』数	『観点』数
教育研究上の目的	1 教育研究上の目的	1	5
	2 カリキュラム編成	2	7
	3 医療人教育の基本的内容	8	25
薬学教育カリキュラム	4 薬学専門教育の内容	4	9
	5 実務実習	9	29
	6 問題解決能力の醸成のための教育	2	9
学生	7 学生の受入	3	8
	8 成績評価・進級・学士課程修了認定	6	17
	9 学生の支援	8	20
教員組織・職員組織	10 教員組織・職員組織	8	24
学習環境	11 学習環境	2	8
外部対応	12 社会との連携	2	8
点検	13 自己点検・評価	2	7
		(合計数)	176

改訂モデル・コアカリキュラムと薬学教育第三者評価

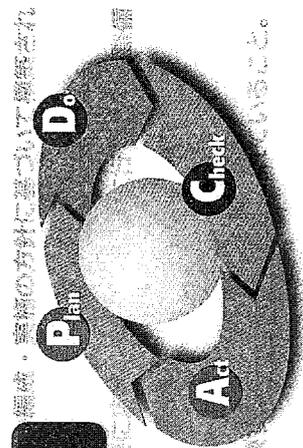
薬学教育の目的、ディプロマ・カリキュラム・アドミッションポリシー

1. 教育研究上の目的
【基準1-1】
薬学教育プログラムにおける教育研究上の目的が大学または学部理念ならびに薬剤師養成教育に課せられた基本的な使命を踏まえて設定され、公表されていること。
2. カリキュラム編成
【基準2-1】
教育研究上の目的に基づいて教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）が設定され公表されていること。
7. 学生の受け入れ
【基準7-1】
教育研究上の目的に基づいて入学受入れ方針（アドミッション・ポリシー）が設定され公表されていること。
8. 成績評価・進級・学士課程修了認定
【基準8-3-1】
教育研究上の目的に基づいて学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）が設定され公表されていること。

改訂モデル・コアカリキュラムと薬学教育第三者評価

PDCAサイクル：自己点検・評価体制、FD活動

2. カリキュラム編成
【基準2-2】
PDCAサイクルが重要！
薬学教育カリキュラムが、教育課程の編成・実施の方針に基づいて構築され、機能していること。
9. 学生の支援
【基準9-1-7】
学生の意見を教育や学生生活に反映していること。
13. 自己点検・評価
【基準13-1】
適切な項目に対して自ら自己点検・評価し、その結果が公表されていること。
【基準13-2】
自己点検・評価の結果が教育研究活動の改善等に活用されていること。



改訂モデル・コアカリキュラムと薬学教育第三者評価

PDCAサイクル：自己点検・評価体制、FD活動

2. カリキュラム編成
【基準2-2】
薬学教育カリキュラムが、教育課程の編成・実施の方針に基づいて構築され、機能していること。
【観点2-2-3】
薬学教育カリキュラムの構築と必要に応じた変更を速やかに行う体制が整備され、機能していること。
9. 学生の支援
【基準9-1-7】
学生の意見を教育や学生生活に反映するための体制が整備されていること。
13. 自己点検・評価
【基準13-1】
適切な項目に対して自ら自己点検・評価し、その結果が公表されていること。
【基準13-2】
自己点検・評価の結果が教育研究活動の改善等に活用されていること。

改訂モデル・コアカリキュラムと薬学教育第三者評価

改訂モデル・コアカリキュラムに準拠したカリキュラム策定

3. 医療人教育の基本的内容（抜粋）
【基準3-1-1】
医療人としての薬剤師になることを自覚し、共感的態度および人との信頼関係を醸成する態度を身につけるための教育が体系的かつ効果的に行われていること。
【基準3-2-1】
見識ある人間としての基礎を築くために、人文科学、社会科学および自然科学などを広く学び、物事を多角的にみる能力および豊かな人間性・知性を養うための教育が行われていること。
【基準3-2-2】
相手の立場や意見を尊重した上で、自分の考えや意見を適切に表現するための基本的知識、技能および態度を修得するための教育が行われていること。
【基準3-3-2】
学生の学習意欲が高まるような早期体験学習が行われていること。
【基準3-4-1】
薬害・医療過誤・医療事故防止に関する教育が医薬品の安全使用の観点から行われていること。
【基準3-5-1】
医療人としての社会的責任を果たす上で、卒業後も継続した学習が必須であることを認識するための教育が行われていること。

地域チーム医療を担う薬剤師養成プログラム

— 大学と地域の連携による実践的・地域医療教育プログラムの開発と普及 —
◎ 改訂カリキュラム対応実務実習支援プログラム (大学で実施)

- ・対象：学部学生・指導薬剤師・臨床系教員
- ・目的：④及び⑥で開発したモデルプログラムの改訂モデルカリキュラムに対応実務実習への組み込み・定着化に向けた支援プログラムの開発

(C1) 教育目標到達評価モデルシステムの開発

- ：地域医療を中心とする改訂カリキュラム対応実務実習における大学・病院・薬局連携によるモデルプログラムの開発
- ：平成31年度の改訂カリキュラム対応実務実習の開始を見据えたモデルプログラムの大阪府・近畿地区・全国への普及・定着化

(C2) 薬学教育者WS、アドバンストWSの改訂とモデルプログラム構築

- ：モデル・コアカリキュラム改訂に伴う薬学教育協議会と連携した薬学教育者WSのプログラム改訂とその普及・定着化
- ：大学を拠点とする地区単位の薬剤師の資質向上、地域チーム医療の推進を目的としたアドバンストワークショップのモデルプログラムの開発と普及

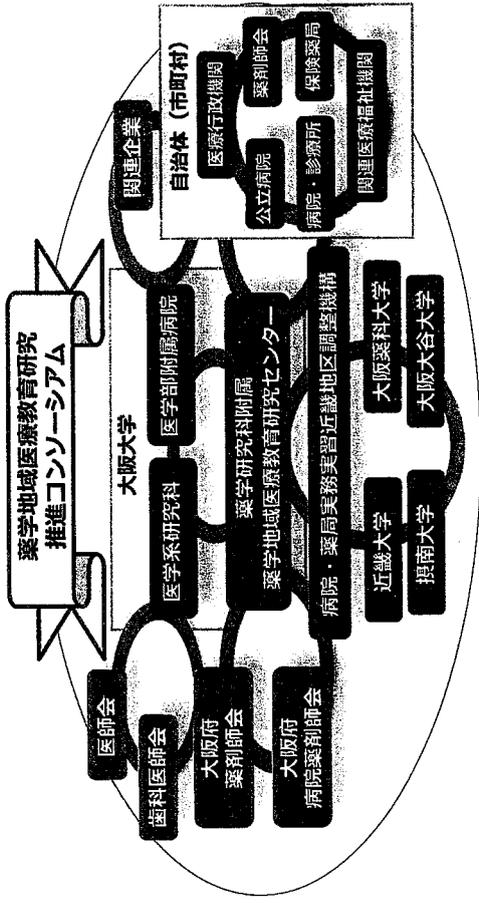
(C3) 改訂カリキュラム対応実習実施・指導モデルプランの構築

- ：改訂カリキュラム対応実習に向けた大阪版のポートフォリオの作成及び実務実習記録の改訂 (業者との連携)
- ：ルーブリック・ポートフォリオを用いた改訂カリキュラム対応実務実習における教育目標到達評価システムの開発

地域チーム医療を担う薬剤師養成プログラム

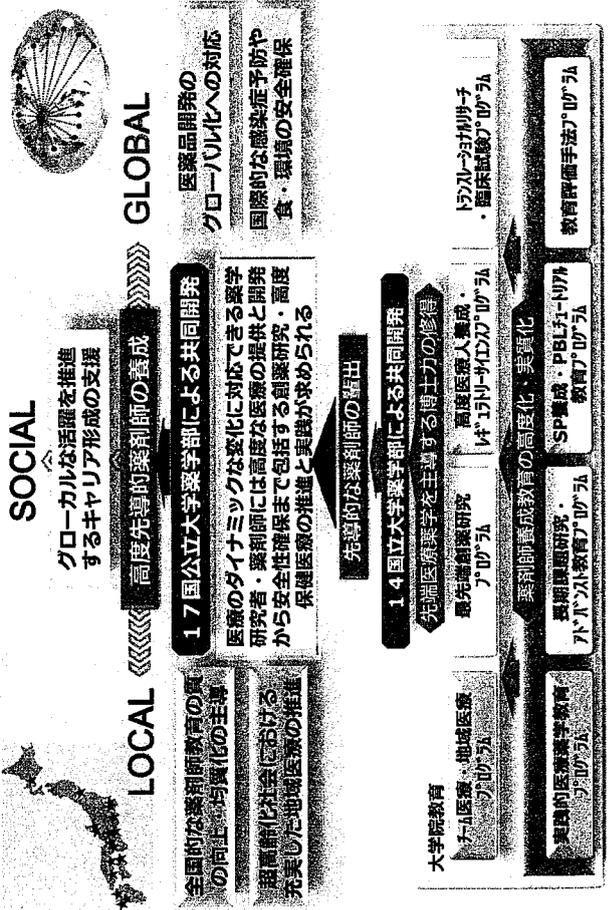
— 大学と地域の連携による実践的・地域医療教育プログラムの開発と普及 —

事業の実施体制



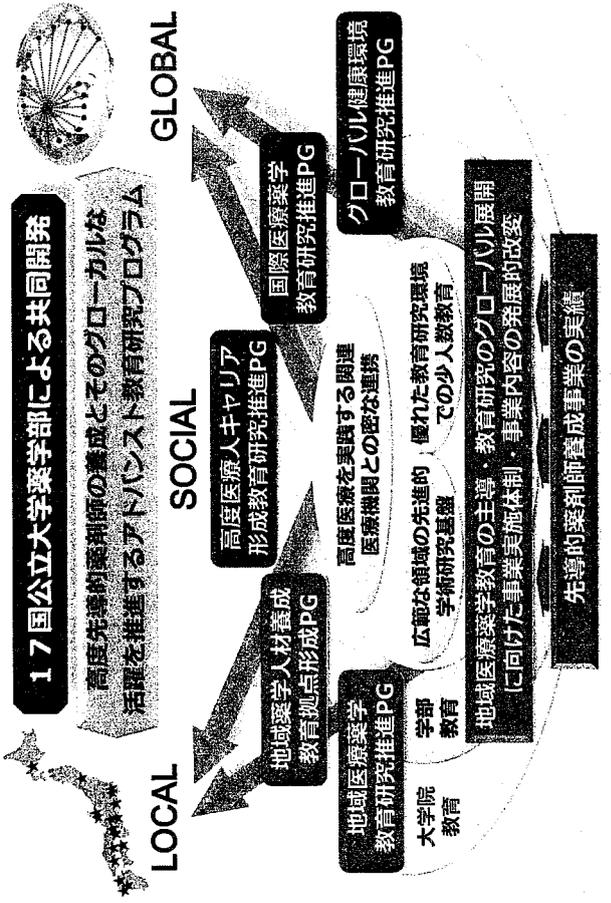
高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進する

— アドバンスト教育研究プログラムの共同開発 —



高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進する

— アドバンスト教育研究プログラムの共同開発 —



国公立大学として
さらに高度な先導的薬剤師を養成し、そのグローバルな活躍を支援する

1. 医療人としての高い倫理観と使命感、卓越した研究能力を持ち、最先端の医療や創薬研究を主導できる薬学研究者及び薬剤師を養成する。
2. 高度な薬学専門性・研究力に加え、柔軟な俯瞰力、領域を超えた汎用力をもち、国際的な学術研究や医療の発展を主導できる薬学研究者及び薬剤師を養成する。
3. グローバルな医療人としての高度な専門性と高い使命感、領域を超えた汎用力をもち、国際的な保健衛生・公衆衛生に指導的立場で貢献できる薬学研究者及び薬剤師を養成する。
4. 全国8地区において国公立大学を拠点とする大学及び医療関連機関の有機的な連携を構築し、これを基盤として学部・大学院教育の高度化・実質化、さらには社会人教育、社会貢献活動の充実に図ることによって、地域における医療の発展・向上を推進する。

第2回 FD・学生委員会共催 講習会

日 時：平成 28 年 9 月 12 日（月）13：00～14：35

場 所：第一薬科大学 東大教室

講 師：服部文香先生 臨床心理士

演題：「発達障害および学習障害学生の症状と対応方法」

出席者：47名 教員 38名 事務 9名

1 自己紹介

- (1) 服部文香（臨床心理士）
- (2) 薬科大：コミュニケーション論担当
- (3) 小学校：教育相談、心療内科でのカウンセリング

2 研修内容

「発達障害」「学習障害」とは何か？

3 発達障害とは

- (1) 「自閉症スペクトラム障害」の概要・特徴等説明
- (2) ADHDの特性と特徴の説明
- (3) LDの特徴について説明
- (4) 上記を合わせ持った人が多く、人によって特性が違うことがほとんど
- (5) 発達障害と二次障害

上手くいかない体験が積み重なり二次障害へとつながる。

(6) 大学生と発達障害

自己管理する必要性が増加している。

このため、

本人：自分で理解することが必要

保護者：本人の仲介

学校関係者：大学内で対応が困難事項を調整

4 発達障害とはどんな体験なのか

多くの当事者の体験に基づき大学における支援を説明

大学生活において考えられる支援は複雑化している。

5 まとめ

- ・ 発達障害とは何かということを理解することが重要。
- ・ 支援体制について考えること、すべてに対応できないことが多い。
- ・ 学生に自己理解を促し、「困り感」を気付かせることが大事。

発達障害および学習障害学生 の症状と対応方法

臨床心理士 服部 文香

自己紹介

- ・服部 文香 (臨床心理士)
- ・第一薬科大では1年生後期受講のコミュニケーション論を担当しています
- ・小学校の教育相談、心療内科でのカウンセリング業務などに従事する中で様々な年代の「発達障害」の方に関わってきました

本日の研修

- ①「発達障害」「学習障害」とは何か？
- ②「発達障害」であるということはどのような体験なのか
- ③大学内での対応について

発達障害

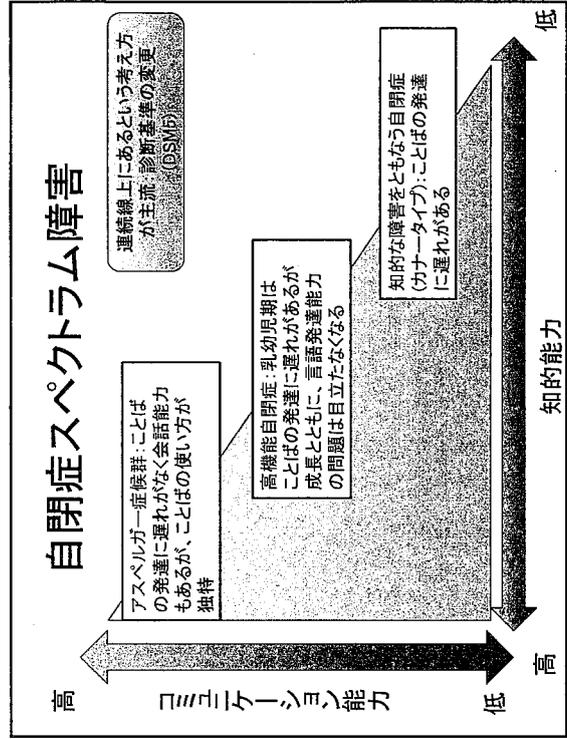
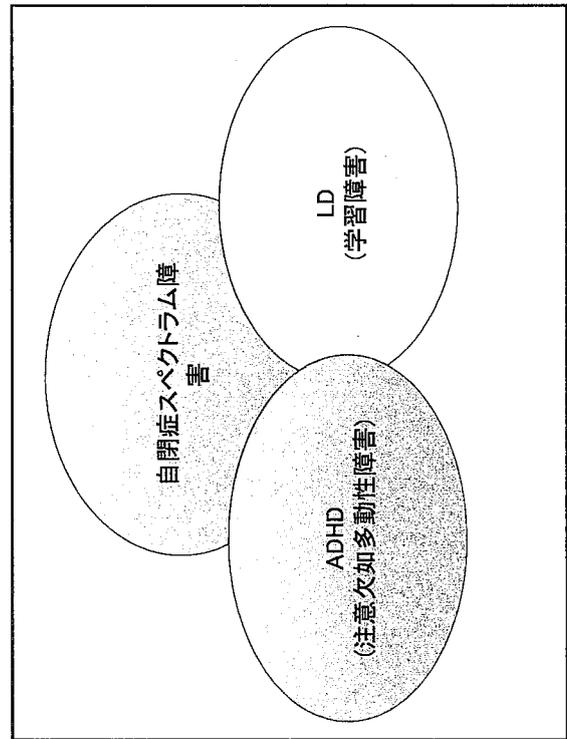
学習障害

発達障害とは？

- 脳の認知機能のかたよりのために社会不適応を起す状態
- 自閉症スペクトラム障害(自閉症・高機能自閉症、アスペルガー症候群など)、ADHD(注意欠如多動性障害)、LD(学習障害)が含まれる

発達障害とは？

- 「障害」というよりは「クセ」や「特性」
- ある種の情報は的確に処理できるのに、ある種の情報はうまく対応ができない。
- 得意・不得意のかたよりが大きいという特徴がある



自閉症スペクトラム障害

特徴として・・・

- ① 社会性の障害
(人とうまく交流することが苦手)
- ② コミュニケーションの障害
(言葉や表情などを使って意思疎通をはかることが苦手)
- ③ 想像力の障害
(想像力が乏しく、独特のこだわりがある)

三つ組の障害 ウイング

社会性の障害

- 相手の立場を考慮しない
- 目上の人に対してもなれなれしい態度をとる
- アイコンタクトを避ける
- 話している時に目があいにくい
- 親密なつきあいが苦手
- 距離感がつかめない
- 必要異常に大声で話したり、相手に顔を近づけて話したりする

社会性の障害

- 人と共感しない
- 集団の中においても、自分の世界にひたり、まわりのことに関心を示さない
- 思い込みが激しい
- 自分の考えが正しいと思いつい込み、それ以外の考え方がることが理解できない
- 暗黙のマナーやルールを理解するのが困難

コミュニケーションの障害

- 他人と共感したり、意思疎通を図ることが困難
- あいまいな表現が理解できない
- お世辞や皮肉が理解できず、ことばを字義どおりに解釈する
- 場の状況を理解したり、相手の気持ちを察したりすることが苦手

想像力の障害

- 「限定・反復的」な行動
 - ⇨ 同じやり方やパターンにこだわる
 - Ex) 起床から食事、通学の手順などのやりかたをきっちり決め、こだわる

物事をシステム化し、その通りに実行することで安心感を感じる。



いつものパターンから変更をいられると不安や恐怖を感じ、ひどく混乱した心理状態になる

想像力の障害

なぜこうなってしまうのか？

- 「限定・反復的」な行動
 - ⇨ 同じやり方やパターンにこだわる
 - Ex) 起床から食事、通学の手順などのやりかたをきっちり決め、こだわる

物事の流れを読んだり、その先どうなるかといったことを想像することが困難なため、予定外のこと起きると柔軟に対応することができない

発達障害に付随しやすい 感覚異常と運動障害

- 発達障害をもつ人は感覚が過敏であったり逆に感覚に鈍いことがある

感覚統合の障害

視覚	光をとても眩しく感じる。みるべき対象物と背景を見分けることができない
聴覚	どの音も同じ大きさで聞こえ、聞きたい音を選び出すことができない
嗅覚	においに敏感で体臭や化粧品のおい、排気ガスなどいろいろな匂いが混ざりあっている人混みが苦手
触覚	特定の素材のものを着たがる。触られただけで強く叩かれたように感じる
味覚	味覚に過敏なため、偏食が激しい
温度覚	痛みを感じにくい。寒暖の変化に鈍感

発達障害に付随しやすい 感覚異常と運動障害

どのように困難が現れるか

聴覚過敏の例

- ① 救急車のサイレンや自動車のクラクション、駅や街頭の騒音などがとても不快に大きな音で聞こえたりする。
恐怖感、不安感を感じやすい。落ち着かない気持ちになる。疲れやすくなる
- ② 「選択的注意」の苦手さのため、大勢の人が集まって会話をしている時に、自分が話している相手の話をうまく聞き取れない。そのため相手に聞いていないように受け取られたりする。

ADHD(注意欠如多動性障害)

- ① 不注意
 - 集中力が続かず、注意散漫
- ② 多動性
 - 落ち着きがなく、行動をコントロールできない
- ③ 衝動性
 - 衝動にブレーキがかけれられない

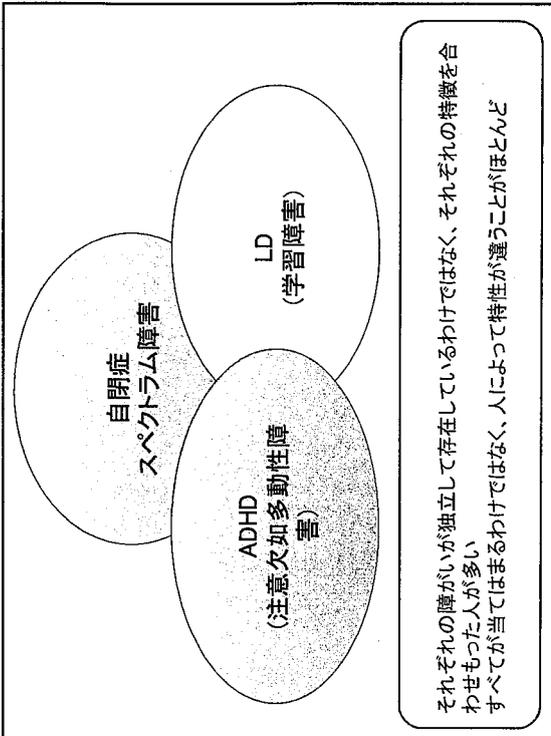
ADHD(注意欠如多動性障害)

- ・気が散りやすい(転動性)
- ・忘れ物や紛失物が多い
- ・整理整頓ができない
- ・思ったことをパッと口に出してしまい、失敗する
- ・待つことが苦手で、並んでまっことができない

成人になると、多動性・衝動性はしだいに目立たなくなり不注意の問題が大きくなる人が多い。

LD(学習障害)

- ・読み、書き、計算(推論)、話す、聞くの5つの領域において習得の困難がみられる
- ・知的発達の遅れはなく、コミュニケーションもとれるものの学習面での遅れが顕著になる
EX)話すことは上手だが、教科書をスラスラ読めない
計算はできるが時計はよめない
授業の内容は理解できているものの黒板の文字をノートに書き写せない
- ・LD単独で出現する場合もあるが、ADHDや自閉症スペクトラムと併存しているケースが多い



それぞれの障がい独立して存在しているわけではなく、それぞれの特徴を合わせもった人が多い
すべてが当てはまるわけではなく、人によって特性が違いますがほとんど

発達障害と二次障害

- 発達障害による様々な難しさ
Ex) 職場や学校での対人関係、仕事上のミスをしてしまう等
- うまくいかない体験が積み重なり
「二次障害」へつながる

二次障害とは・・・

発達障害への対応が不十分ことが原因で生じる反応
頭痛、腹痛など体調不良に現れるもの、うつ病、睡眠障害などの症状にいたるもの、ひきこもりやネット依存などのように行動面に現れるものなどさまざま

発達障害と二次障害

二次障害の問題が深刻になり病院受診などに至り、その背景に発達障害が疑われる事例も多く存在する。

学齢期から続く、うまくいかない体験

- ・集団にうまくなじめない
- ・落ち着きがなく、此実体験が多い
- ・学習や運動が苦手な達成感を感じる体験が少ない



早い段階での支援が必要だと言われている

大学生と発達障害

- ・小学校から高校まで受けてきた学校教育とは異なる教育がはじまる
- 授業を自分で選択する。出席や単位の管理。クラスという単位がなくなる。実習など自発的なコミュニケーションが求められる場が増える など
- ・保護者から離れ、自己管理が増える
- 一人暮らしを始める、アルバイトをはじめ、時間の管理や食事の管理など自分自身でコントロールしなければいけないことが増える など

困難が増える

社会に出る前段階。自己責任が増え、自己管理しなければいけないものが増える

どうすればいいのか

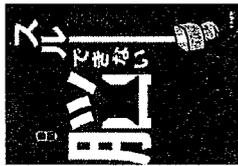
本人 ◦ 自分の様々な特性を理解し、
対処法を学んでいく

“発達障害”とはどのような特性があるのかを知るとともに、
どのような「体験」や「感覚」なのかを理解することが重要

学校関係者 ◦ 大学内で対応が困難な出来事
(対人関係、単位の管理、実習でのコミュニケーション等)を調整していく

発達障害とはどんな体験なのか？

多くの当事者の体験



実際にどんな体験なのか？

自閉性障害の聞こえ方

- ・選択的注意の難しさ
- ・“雑音”とされる音がすべて同じ大きさ感度で聞こえる
- 例) 自分に話しかけている人の声と近くを走る車の音が同じに聞こえる
- ◇ 雑音が全てより意識して聞こうとするため、疲れやすい。

LD(読字障害)の文字の見え方

- ・形を認識することが難しい
- ・文字が重なってみえる

ADHDの体験

- ・不注意
- ・整理整頓の苦しさ
- ・見通しをもつことの苦しさ

大学における支援

- ・合理的配慮の考え方

障害のある方々の人権が障害のない方々と同じように保障されるとともに、教育や就業、他の社会生活において平等に参加できるように、それぞれ障害特性や困りごとに合わせておこなわれる配慮のこと。2016年4月に施行された「障害者差別解消法（正式名称：障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）」により、この合理的配慮を可能な限り提供することが、行政・学校・企業などの事業者に求められるようになってきている。

大学における支援

- ・大学によってできる支援はそれぞれ
- ⇒ 本人が苦手なこと、難しいことを全部カバーする。配慮するのではない。

どのような手助けや工夫があれば、本人が頑張ることが出来る基礎ができるのかを一緒に考えて、いろいろやり方を試してみる

- ・学生自身が「自分がどのようなことで困りやすいのか」「どんな対処をとればいいのか」を理解することが重要

大学生生活において考えられる難しさ

- ・学習面
 - ⇒ ノートをとること、授業中の注意集中を継続させること
- ・対人関係面
 - ⇒ 友人や先生とのコミュニケーション。実習先など公的な場所での振る舞い方。
 - SNSなどでの適切な表現、人との距離感
- ・日常生活面
 - ⇒ 時間やものの管理、調整。様々な事務手続きなど

事例1

※JASSO(学生支援機構HPより転載)

入学直後に、当該学生の保護者から学生相談室に相談があった。また、授業担当教員からも、授業中の問題行動について学生相談室に相談があった。予測していないことがあるとパニックになり大声をあげる、突然教室を退室する等があり、クラスで孤立しており、対応に困っているとのことだった。

対応の手順

保護者と学生相談室のカウンセラー、所属学部の担任教員、学務課の事務職員で相談を行ない、当該学生の小さいころの様子を聞き取り、大学で必要と思われる支援内容の確認を行った。その時点では、学生本人から支援の要望がなかったため、保護者の了解を得た上で、授業担当教員に配慮依頼文書(教員が一読して理解、対応できるよ)「特徴及び苦手なこと」とそれに対応する「配慮していただきたい事項」が列記されたものを送付した。学生から支援の申請があった後から、学生特別支援室のコーディネーターが中心となり、学生及び保護者との定期的な相談、授業担当教員との連携を行なう。

学生への話し合い

学生本人は、自分が何に困っていて、どんな支援が必要かが把握できていなかったため、コーディネーターと週に1回面談を行ない、自己理解を深めていくところから開始した。学年が上がるにつれて、レポート作成に時間がかかるので期限延長をお願いしたい等、自分から要望を出せるようになってきている。

事例1

<学外連携>

通院している医療機関、若者サポートステーション

<学校内での支援内容>

学生スタッフによる学習補助(謝金あり)、履修相談、勉強のスケジュール立て、授業担当教員による個別指導、提出物の期限延長等

事例2

本人からスケジュール管理がうまくいかず就職に向けての時間が確保できない、友人とコミュニケーションがうまく取れずトラブルになりやすい等の相談。

対応について

修学支援申請書を大学に提出、障害学生支援委員会の協議を経て正式支援が決定し、専任教員の定期面談を受け始める。

定期面談において、スケジュール管理の指導、生活リズムの確立の指導、社会的スキルの指導、進路指導を行なっている。

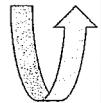
スケジュール帳を用いた管理が行うことができるようになり、就職も決まり無事に卒業となった

対応について

困り感をキヤッチする
誰が、どのようなことで、どんな増面で困っているのかを理解、整理する



大学側で……
本人の困り感をうけて、大学ではどのような支援を行うことが可能なかを整理する



本人への提案、話し合いを行い支援方針を共有する。実際にやってみるなかで修正していく

誰が支援のきっかけとなるか
本人、保護者、先生、友人 など

関係を切らせないと、継続的で定期的な面談を繰り返していくことが必要になることが多い

大学で行なわれている支援

- ・ノートテイクやポイントテイク(言われている要点をまとめる)などの学習支援
- ・学生チューターの活用
- ・板書やパワーポイントの資料の配布
- ・講義の録音、録画の許可
- ・座席位置の配慮、別室受験等の配慮
- ・履修相談、学習相談
- ・学生相談でのカウンセリング
- ・就職相談室、居場所活動等、大学内で利用できる機関の利用

大学によって、対応できることとできないことがある。まずはどのような支援体制をとることができるかを考えておく。

まとめ

- ・発達障害とは何かということを理解すること、理解しようとするのが重要
 - 完璧に分かることは難しい。学生相談や知識のある人に相談することが重要
 - ・支援体制について考えること
 - すべてに対応できないことが多い。できる資源や環境でどのようなことができるかを整理しておく
 - ・学生に自己理解を促す
 - “困り感”に気づかせ、そこで無力感に陥らせるのではなくどう対応したらいいかを一緒に考えていく。
- 実は難しいのは“困り感”に気づかないこと

参考文献

- ・中山 和彦・小野 和哉(2010) 凶解 よくわかる大人の発達障害
- ・独立行政法人 日本学生支援機構HP
http://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/chosa_kenkyu/jirei/index.html

ご清聴ありがとうございました。

第3回 FD・SD 講習会報告

日時：平成28年9月27日 16時30分～18時00分

場所：S22 教室

講師：宮浦 崇 先生

九州工業大学 学習教育センター 准教授

演題：「学び」を支援する道具立て ～ループリックを活用する～

参加者： 教員45名 事務8名

FD講習会アンケート結果

(回収 49名 教員；全員提出)

1. この講習会はあなたにとって役立ちましたか？

- ① 非常に役立った 31 ② 役立った 17
③ あまり役立たなかった 1 ④ 全く役立たなかった 0 無回答 0

2. 問1で③,④を選択された場合、理由をお聞かせください。

(現在ループリックを使用しており、示された例が難しすぎた。)

3. 講演時間は適切でしたか？

- ① 長すぎる 1 ② 適切 47 ③ 短すぎる 1 無回答 0

(①,③を選択された方は、望ましい時間を書いてください：長い→1.5 短い→2 時間)

4. 今後、希望する講演などがありましたら、ご記入ください。

- ・臨床薬学のこと
- ・アクティブラーニング (2)、e-ラーニングの手法や具体例
- ・ループリック関連 7 (薬学系講師による講演 2・具体例、授業改善事例、実践編、WS2)
- ・PBLの評価方法
- ・外部助成金等獲得に参考となる講演
- ・大学事務職員の役割と体制等に関する講演
- ・学修ポートフォリオの活用方法
- ・国家試験合格率のよい大学の教員による学習法の講演 (学生にも聞かせたい)

5. その他FD委員会に対する要望等がありましたらご記入ください。

- ・教員、事務職員それぞれに必要性を精査し、開催すべき。今回は、事務職員にはあまり必要性がない内容ではなかったか。
- ・SD委員会単独で実施している講習会なども、教職員も参加できるように検討して欲しい。
- ・ループリックに関するWSを開催して欲しい。

編集委員

第一薬科大学 FD委員会

委員長 荒牧弘範

委員 戸田晶久 村山恵子 副田二三夫

安川圭司 岡崎裕之 松延千春

江藤和彦 宮本明憲 上野雅継

発行人

福岡市南区玉川町22-1 第一薬科大学内 荒牧弘範

印刷所

福岡市南区清水3-20-10 懶甘棠社

(非売品)

平成29年3月31日印刷

平成29年3月31日発行

発行所 福岡市南区玉川町22-1 第一薬科大学